

復興の現状と取組

- 1 東日本大震災
- 2 復旧・復興の現状と課題
- 3 復興関連諸制度

平成25年11月29日



復興庁

Reconstruction Agency



1 東日本大震災3

- 1-1 東日本大震災の概要
- 1-2 これまでの主な動き

2 復旧・復興の現状と課題5

<被災者支援関係>

- 2-1 避難者・仮設住宅の状況
- 2-2 義援金、災害弔慰金、被災者生活再建支援金の実績
- 2-3 被災者の孤立防止と心のケアに関する取組
- 2-4 東日本大震災における震災関連死

<まちづくり関係>

- 2-5 災害廃棄物(がれき)処理の状況と課題
- 2-6 公共インフラの本格復旧・復興の進捗状況
- 2-7 鉄道の復旧状況
- 2-8 農地の復旧状況
- 2-9 復興施策に関する国の事業計画及び工程表
- 2-10 住宅再建及び高台移転に向けた取組
- 2-11 医療・福祉の復旧・復興状況
- 2-12 復旧・復興の進捗情報の「見える化」

<産業・雇用関連>

- 2-13 産業の復興状況
- 2-14 産業の復興に向けた取組
- 2-15 被災事業者に対する資金繰り対策
- 2-16 中小企業者等の二重ローン問題への対応
- 2-17 雇用の状況
- 2-18 雇用確保に向けた取組

<人的支援>

- 2-19 被災自治体の職員確保等に向けた取組

<多様な担い手による連携>

- 2-20 企業連携の推進
- 2-21 ボランティア・公益的民間連携
- 2-22 「新しい東北」の創造に向けて

<原子力災害関係>

- 2-23 福島県の状況
- 2-24 福島対応体制の強化について
- 2-25 福島復興に向けた予算等
- 2-26 福島復興に向けた制度対応等
- 2-27 個別課題への対応

3 復興関連諸制度等67

- 3-1 復興庁の体制
- 3-2 復興加速への取組
- 3-3 復興関係予算
- 3-4 復旧・復興事業における財政的支援
- 3-5 復興特区制度
- 3-6 復興交付金
- 3-7 取崩し型復興基金について
- 3-8 福島復興に向けた制度

1-1 東日本大震災の概要

※我が国の観測史上最大規模の地震、世界的にも1900年以降4番目の規模の地震

項目	データ	
発生日時	平成23年3月11日 14時46分	
震源および規模(推定)	三陸沖(北緯38.1度、東経142.9度、牡鹿半島の東南東130km付近) 深さ24km、モーメントマグニチュード Mw9.0	
震源域	長さ約450km、幅約200km	
断層のすべり量	最大20~30m程度	
震源直上の海底の移動量	東南東に約24m移動、約3m隆起	
	震度7	宮城県北部
	震度6強	宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部
	震度6弱	岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津、群馬県南部、埼玉県南部、千葉県北西部
	震度5強	青森県三八上北・下北、岩手県沿岸北部、秋田県沿岸南部・内陸南部、山形県村山・置賜、群馬県北部、埼玉県北部、千葉県北東部・南部、東京都23区、新島、神奈川県東部・西部、山梨県中部・西部、山梨県東部・富士五湖

(気象庁資料・海上保安庁資料による)

被害状況等

(平成25年11月8日現在 出典:警察庁、復興庁等)

(1) 人的被害

ア 死者	15,883名
イ 行方不明	2,651名
ウ 負傷者	6,150名
エ 震災関連死(※2)	2,688名

(2) 建築物被害

ア 全壊	126,602戸
イ 半壊	272,426戸
ウ 一部破損	743,089戸

※ 未確認情報を含む。

※ 平成23年4月7日に発生した宮城県沖を震源とする地震等の被害を含む。

※2 「震災関連死の死者」とは、「東日本大震災による負傷の悪化等により亡くなられた方で、災害弔慰金の支給等に関する法律に基づき、当該災害弔慰金の支給対象となった方」と定義(実際には支給されていない方も含む。)。復興庁等調べ(平成25年3月31日現在)。

1-2 これまでの主な動き

【平成23年】

- 3月11日 東日本大震災発災
 - ・緊急災害対策本部発足
- 3月17日 被災者生活支援特別対策本部(支援チーム)設置
- 5月2日 東日本大震災財特法成立
 - 第1次補正予算成立(復興経費4兆153億円)
- 6月24日 復興基本法施行
- 6月25日 東日本大震災復興構想会議「復興への提言」提出
- 6月28日 東日本大震災復興対策本部(第1回)開催
- 7月25日 第2次補正予算成立(復興経費1兆9,106億円)
- 7月29日 「復興基本方針」策定
- 8月5日 原発避難者特例法成立
- 8月26日 各府省の事業計画と工程表のとりまとめ(第1回)
- 8月27日 原子力災害からの福島復興再生協議会(第1回)開催
- 11月21日 第3次補正予算成立(復興経費9兆2,438億円)
- 11月30日 復興財源確保法成立
- 12月7日 復興特別区域法成立
- 12月9日 復興庁設置法成立

【平成24年】

- 2月9日 復興推進計画第1号認定(岩手、宮城)
- 2月10日 復興庁開庁
- 3月2日 復興交付金の交付可能額通知(第1回目)
- 3月5日 東日本大震災事業者再生支援機構始業開始
- 3月30日 福島復興再生特別措置法成立
- 4月5日 平成24年度予算成立(復興経費3兆7,754億円)
- 6月21日 子ども・被災者支援法成立
- 7月13日 福島復興再生基本方針閣議決定
- 9月24日 被災地域の原子力被災者・自治体に対する国の取組方針(グランドデザイン)の公表
- 11月22日 東日本大震災からの復興の状況に関する国会報告

【平成25年】

- 1月29日 復旧・復興事業の規模と財源の見直し
 - ・19兆円を25兆円に見直し
- 2月1日 福島復興再生総局を設置
- 2月6日 復興推進委員会平成24年度審議報告
- 2月26日 平成24年度補正予算成立(復興経費3,177億円)
- 3月7日 「住まいの復興工程表」公表
- 3月15日 「原子力災害による被災者支援策パッケージ」公表
- 4月2日 「原子力災害による風評被害を含む影響への対策パッケージ」公表
- 5月10日 福島復興再生特別措置法の改正
- 5月15日 平成25年度当初予算成立(復興経費4兆3,840億円)
- 6月5日 復興推進委員会
 - 「新しい東北」の創造に向けて(中間とりまとめ)
- 8月7日 避難区域の見直しが完了
- 8月30日 平成25年度予算概算要求(復興経費3兆6,377億円+事項要求)
- 10月11日 子ども・被災者支援法基本方針 閣議決定・国会報告
- 11月12日 東日本大震災からの復興の状況に関する国会報告

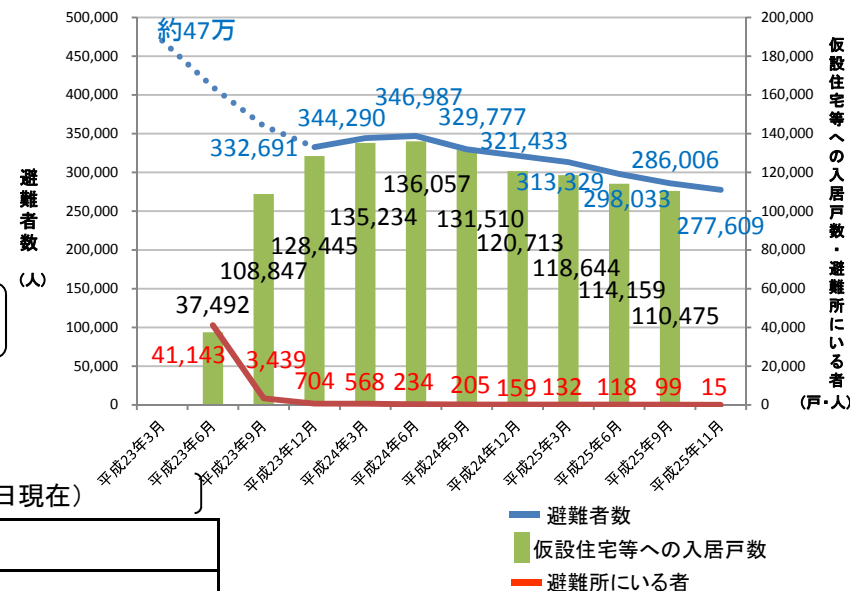
2-1 避難者・仮設住宅の状況

- 避難者数は約27万8千人。
- 仮設住宅等への入居戸数は減少しはじめており、住まいの再建への動きが進みつつある。

(1) 避難者等の減少

	発災3日目 (平成23年3月14日) (*1)	現時点(平成25年11月14日)(*2)		
		全体	避難所にいる者	住宅等にいる者
避難者等の数	約47万人	277,609人	15人	263,383人

*1 緊急災害対策本部資料 青森県・岩手県・宮城県・福島県・茨城県・栃木県の避難状況の合計。
 *2 復興庁調べ 全国の避難所(公民館・学校等)、旅館・ホテル、その他(親族・知人宅等)、住宅等(公営・仮設・民間・病院含む)にいる者の合計。

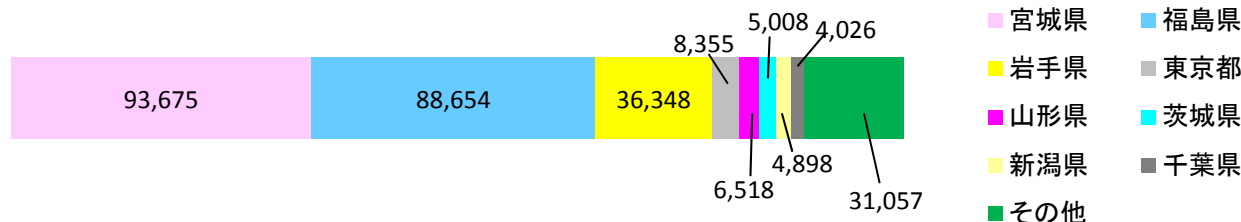


(2) 仮設住宅等の入居状況

※厚生労働省調べ(平成25年9月1日現在)

	入居者数	入居戸数	備考
公営住宅等	25,323人	9,425戸	全国計
民間住宅	134,029人	54,396戸	全国計
仮設住宅	103,958人	46,654戸	岩手県・宮城県・福島県・茨城県・栃木県・千葉県・長野県

(3) 避難者等の数 (避難先の都道府県別) (避難先:47都道府県 約1,200市区町村)



復興庁調べ
平成25年11月14日現在

【県外への避難等】 岩手県から約 1,500人、宮城県から約 7,300人、福島県から約50,000人

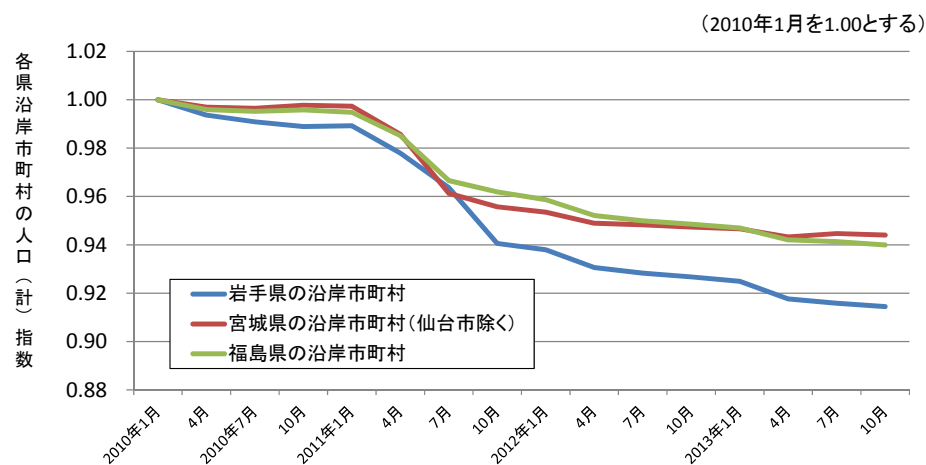
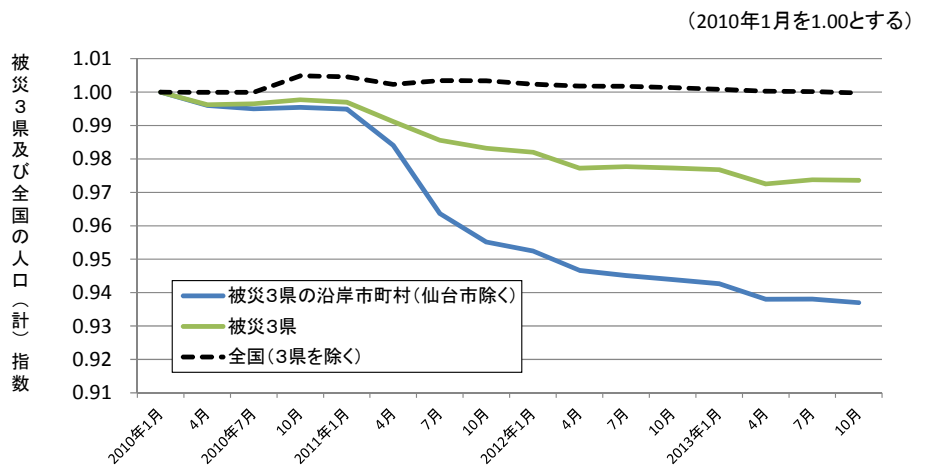
2-1 (参考) 被災3県における人口の状況

○ 被災3県における人口は、減少傾向にあるもののその度合いは鈍化しており、社会増減率は、沿岸市町村※においても震災前の水準に戻りつつある。

※沿岸市町村…海岸線を有する市町村(岩手県12市町村、宮城県15市町、福島県10市町)

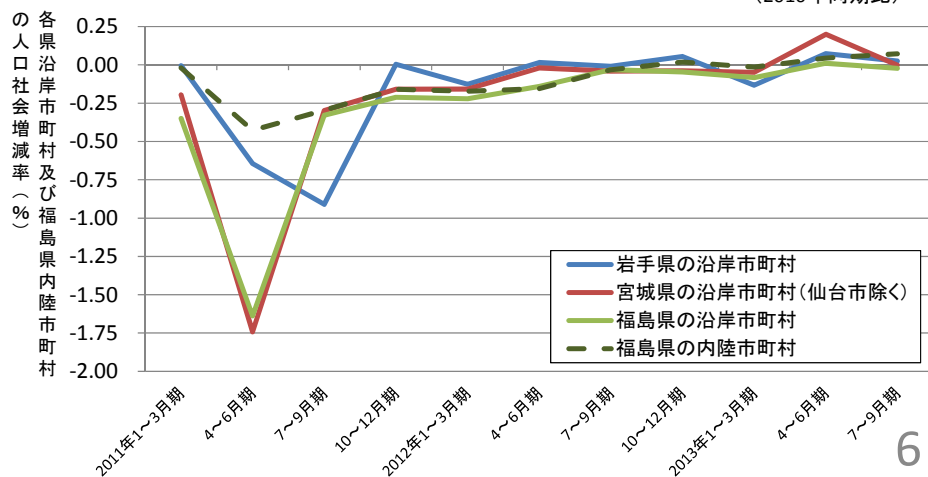
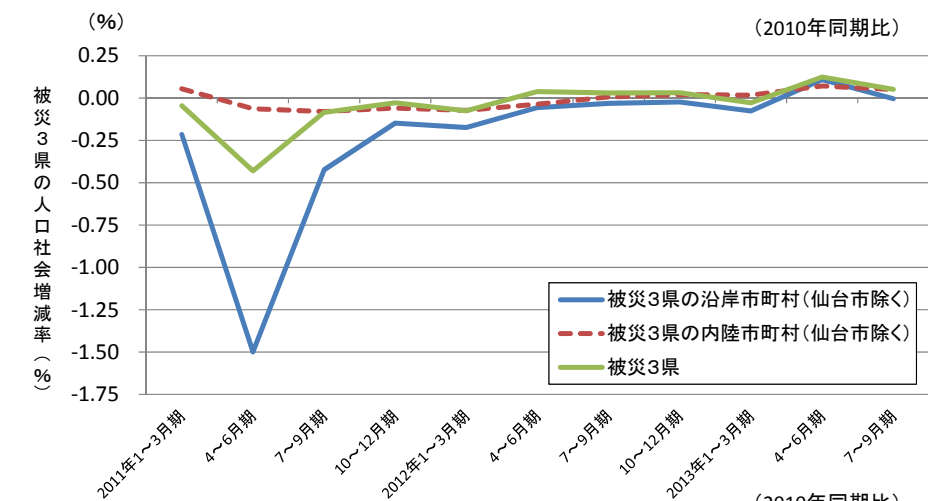
(1) 人口推移 (被災3県の沿岸市町村)

沿岸市町村の人口推移は、減少傾向にあるものの、2012年4月以降、減少の度合いが鈍化している。



(2) 社会増減率 (被災3県の沿岸市町村)

人口の社会増減率は、被災3県の沿岸市町村及び福島県内陸市町村においても2010年同月の水準に戻りつつある。



※ 各県公表資料を元に復興庁作成 ・岩手県毎月人口推計 ・宮城県推計人口(月報) ・福島県の推計人口(福島県現住人口調査結果) ※推計人口とは、国勢調査による人口を基礎として、出生・死亡・転入・転出等の届出数を加減して算出した値

2-2 義援金、災害弔慰金、被災者生活再建支援金の実績



- 日本赤十字社等に寄せられた義援金3,694億円の約9割を被災者に配布済(平成25年8月31日現在)
- 災害弔慰金の支給済件数は、19,499件(平成25年8月31日現在)
- 被災者生活再建支援金の支給世帯数は188,535世帯(平成25年8月31日現在)

(1) 義援金の配布状況(厚労省調べ、平成25年8月31日現在)

募金総額	配分			
	都道府県への送金額	うち市町村への送金額	うち被災者への配付額	配付件数
3,694億円	3,678億円	3,640億円	3,469億円	1,662,258件
	99.6%	99.0%	95.3%	

※日本赤十字社、中央共同募金会、日本放送協会、NHK厚生文化事業団の4団体に寄せられた義援金を集計したもの。

(2) 災害弔慰金の支給状況(厚労省調べ、平成25年8月31日現在)

	支給済件数	うち被災3県	支給済額	うち被災3県
災害弔慰金	19,499件	19,294件	580億5,125万円	573億7,375万円
災害障害見舞金	78件	74件	1億3,125万円	1億2,500万円

※災害弔慰金:災害により死亡された方のご遺族に対して支給するもの。

災害障害見舞金:災害による負傷、疾病で精神又は身体に著しい障害を受けた方に支給するもの。

(3) 被災者生活再建支援金の支給状況(内閣府調べ、平成25年8月31日現在)

	世帯数	うち被災3県	支給額	うち被災3県
基礎支援金	188,535世帯	171,633世帯	1,502億円	1,383億円
加算支援金	104,844世帯	92,103世帯	1,270億円	1,101億円

※被災者生活再建支援金:災害により居住する住宅が全壊するなど、生活基盤に著しい被害を受けた世帯に対して支給するもの。

東日本大震災財特法の一部改正により、東日本大震災に限った措置として国の補助率を50%から80%に引き上げ。

また、地方負担(20%)のための基金積み増し分について、平成23年度第2次補正予算で増額される特別交付税により全額手当。

2-3 被災者の孤立防止と心のケアに関する取組

- 被災者の多くが、避難所から仮設住宅等に移行。コミュニティの弱体化や、被災者の孤立が問題。
- このため、①見守り活動、②心のケア、③生きがいづくり等を行う。
- 福島原子力災害地域を始め、子どもたちの心のケアの状況等について、調査を実施中。

(1) 孤立防止の主な取組

- ①「介護等のサポート拠点」を被災3県で合計117箇所設置し(H25年7月末現在)、仮設住宅における高齢者等の総合相談、居宅介護サービス、生活支援サービス、地域交流などを実施。

地域支え合い体制づくり事業

(平成23年度1次補正予算70億円、3次補正予算90億円、平成25年度予算23億円)

- ② 高齢者、障害者や離職を余儀なくされた若年層などが地域とのつながりを持ち続けることができるよう、市町村、社会福祉協議会、NPO等と連携、ボランティア等による孤立防止のための見守り活動等を実施。

地域コミュニティ復興支援事業

(平成23年度3次補正予算40億円、平成24年度予備費30億円)



(2) 心のケアの主な取組

- ①岩手・宮城・福島各県に「心のケアセンター」を設置するなど、専門職による訪問支援等を実施。

被災者の心のケア支援事業

(平成23年度3次補正予算28億円、平成25年度予算18億円)

- ②被災した幼児児童生徒・教職員等の心のケア等のため、スクールカウンセラー等の緊急派遣を実施。

緊急スクールカウンセラー等派遣事業

(平成23年度1次補正予算30億円、3次補正予算4億円、平成24年度予算47億円、平成25年度予算39億円)

- ③心血管疾患やPTSD等に関する長期間追跡調査を実施。

(平成24年度は、宮城県及び岩手県の約13,000名を対象に調査を行い、前年度と比較して睡眠障害が疑われる者の割合の改善がみられた。(特に、宮城県での44歳以下の者(特に男性)における改善が顕著)平成25年度も同様の調査を行う予定である。)

- ④子どもの心の健康状態を把握するための調査を実施。

(H24.5月調査実施、H25.7月をめどに報告書作成予定。12月東京都で教職員等を対象にシンポジウムを開催予定。)

- ⑤子どもの発育状況やストレス状況等の調査研究を実施中。

(平成24~26年度の3年計画で調査を実施。)

- ⑥子どもを支援する専門職の研修や巡回相談等、被災した子どもの心の支援に関する自治体の取組を支援。

2-4 東日本大震災における震災関連死

- 東日本大震災における震災関連死の死者数は、平成25年3月31日現在で2,688人。
- そのうち発災後1か月以内に亡くなられた方が約4割。66歳以上の高齢者が約9割。

(1) 東日本大震災における震災関連死の死者数（時期別）

都道府県	計	時期別							
		～H23.3.18 (1週間以内)	H23.3.19～H23.4.11 (1か月以内)	H23.4.12～H23.6.11 (3か月以内)	H23.6.12～H23.9.11 (6か月以内)	H23.9.12～H24.3.10 (1年以内)	H24.3.11～H24.9.10 (1年半以内)	H24.9.11～H25.3.10 (2年以内)	H25.3.11～ (2年超)
全国計	2,688	440	693	639	410	359	140	7	0
累計		440 (約16%)	1,133 (約42%)	1,772 (約66%)	2,182 (約81%)	2,541	2,681	2,688	2,688

※注1 平成25年3月31日までに把握できた数。

注2 平成23年3月12日に発生した長野県北部を震源とする地震による者を含む。

注3 本調査は、各都道府県を通じて市区町村に照会し、回答を得たもの。

注4 「震災関連死の死者」とは、「東日本大震災による負傷の悪化等により亡くなられた方で、災害弔慰金の支給等に関する法律に基づき、当該災害弔慰金の支給対象となった方」と定義。(実際には支給されていない方も含む。)

(2) 対応状況

- ・ 東日本大震災における震災関連死については、①その原因を把握するとともに、②今後の災害への備えを含め、必要な対応策を検討し、平成24年8月21日に「東日本大震災における震災関連死に関する報告」を取りまとめた。
- ・ 福島県における死者数が、発災から1年以上経過した後も他県に比べ多いこと等を踏まえ、福島県に特化して、国と県で連携し、原因の把握を行うとともに対応策を検討し、平成25年3月29日に「福島県における震災関連死防止のための検討報告」を取りまとめた。

2-5 災害廃棄物（がれき）処理の状況と課題

- 被災地において最大限処理を進める一方で、処理が間に合わない分については、広域処理を活用。
- 災害廃棄物処理のより具体的な処理の方針や内容を設定した処理工程表を作成。
- 福島県の一部地域を除き、平成26年3月末までに処理可能な見込み。

(1) 災害廃棄物処理の状況(岩手県、宮城県、福島県の沿岸32市町村)

10月末 現在	推計量 (A)	撤去済 み量(B)	撤去率 (B/A)	処理・処 分量(C)	処理・処分 割合(C/A)
災害廃棄物	1,635万t	1,555万t	95%	1,447万t	89%
津波堆積物	1,030万t	964万t	94%	793万t	77%

※福島県の汚染廃棄物対策地域(国直轄処理地域)を除く

処理割合	市町村等
完了	利府町、松島町、亶理名取ブロック(岩沼市分)
9割以上	洋野町、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、大槌町、釜石市、気仙沼ブロック(気仙沼市、南三陸町)、石巻ブロック(女川町、石巻市、東松島市)、宮城東部ブロック(塩竈市、多賀城市、七ヶ浜町)、仙台市、亶理名取ブロック(名取市、亶理町、山元町)、いわき市
8割以上	大船渡市、陸前高田市
8割未満	久慈市、山田町、新地町、相馬市、南相馬市、広野町

(2) 被災地での取組

- ・被災地において最大限処理を進めるため、12基の仮設焼却炉や16箇所の破碎・選別施設、既設の処理施設で処理を実施中。(22基の仮設焼却炉と8箇所の破碎・選別施設で既に処理を完了)。
- ・更に復興資材として再生利用を進めている。

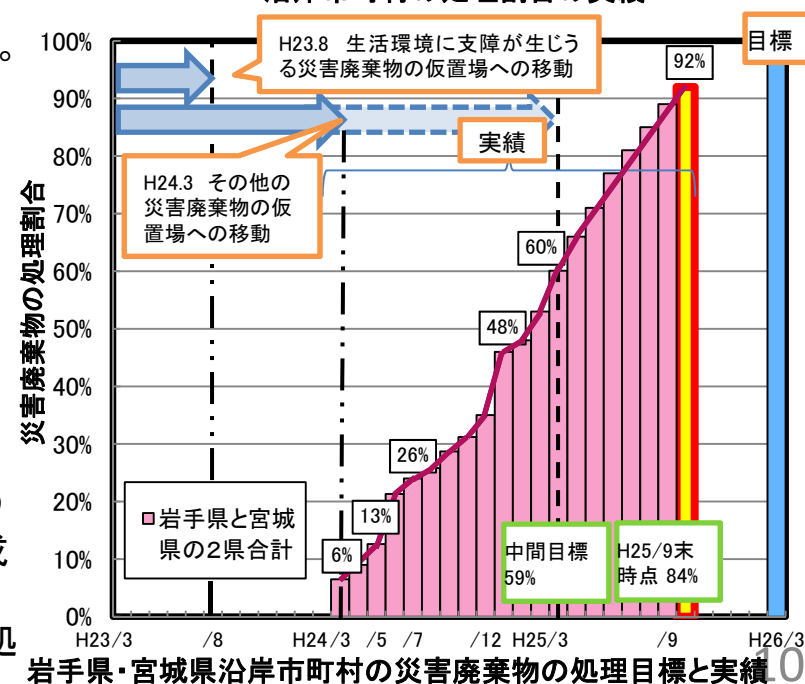
(3) 広域処理

- ・広域処理必要量約66万トンは、全て受入先を確保済み。
- ・これまでに1都1府16県で広域処理を実施(約55万ト、受入済み)。

(4) 取組の現状

- ・平成25年5月7日に「災害廃棄物の処理工程表」を改定。
- ・岩手県、宮城県では、災害廃棄物、津波堆積物とも平成26年3月末までに処理可能な見込み。
- ・福島県(避難区域を除く)では、仮置場への搬入は平成25年度内の完了を目指すと共に、本年度末までに可能な限り処理を進め、平成26年度のできるだけ早期の処理完了を目指す。また、国の代行処理は、仮設処理施設設置に向けた状況に応じ、できるだけ早期の処理完了を目指す。

沿岸市町村の処理割合の実績



2-6 公共インフラの本格復旧・復興の進捗状況①

○公共インフラは、応急復旧段階から本格復旧・復興段階へ移行し、復興の事業計画及び工程表に基づき、着実に整備を推進しているところ。

○加えて、14事業24項目の指標により本格復旧・復興の進捗状況をより適切に「見える化」。

指標について

・福島県の避難指示区域については、原則除いており、今後、区域見直しの動向等を踏まえ、インフラ復旧の工程表の作成状況等に応じて指標を作成する予定。

【補足】

- ・指標は **完了** で表示することを基本とし、**完了** のみでは進捗状況が分かりにくい場合などは **着工** も表示。
- ・ **完了** か **着工** かを分かりやすく記載。
- ・今後、指標は節目節目において更新するとともに、事業の進捗に応じて指標を追加するなど、進捗状況を適切に示す工夫を実施。

■指標の例

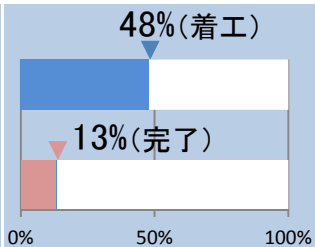
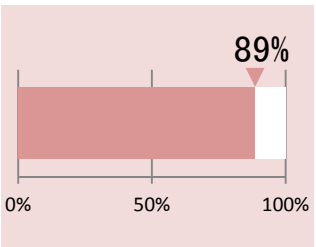
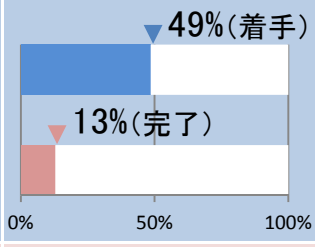
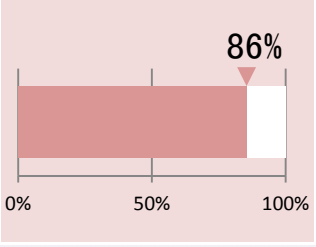
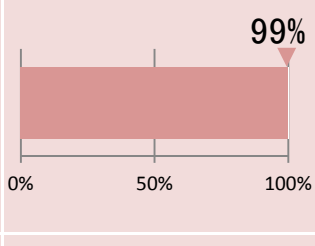

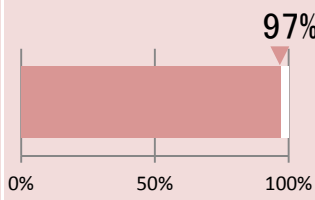
項目 〔指標名〕	進捗率	復旧・復興の状況 ／被害の状況
完了 □□□□ 〔本格復旧が完了した□□の割合〕	88% 	本復旧が完了した箇所数 88 箇所 ----- 被災した箇所数 100 箇所
完了 着工 ○○○○ 〔本格復旧に着工した○○の割合〕	47% 5% 	本復旧工事に着工した箇所数 47 箇所 本復旧が完了した箇所数 5箇所 ----- 被災した箇所数 100 箇所

事業計画及び工程表と指標を合わせて効果的な事業の進捗管理を行い、本格復旧・復興の一層の推進を図る。

※各指標の分母、分子の定義については、事業の進捗に応じ変更となる可能性あり。

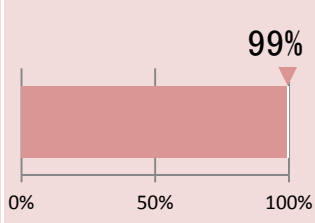
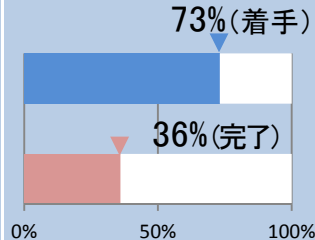
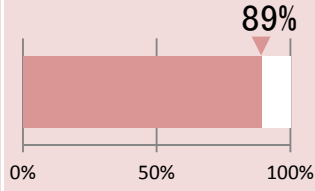
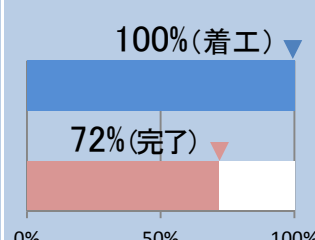
2-6 公共インフラの本格復旧・復興の進捗状況②

○安全・安心のための基盤整備関係(被災地域の安全を確保するための各種インフラの復旧・復興状況)

項目 〔指標名〕	進捗率	復旧・復興の状況 ／被害の状況	項目 〔指標名〕	進捗率	復旧・復興の状況 ／被害の状況
完了 着工 海岸対策 (本復旧工事を着工・完了した地区海岸の割合) ※H25.9末時点	48%(着工) 13%(完了) 	本復旧工事に着工した地区 海岸数 226地区 本復旧工事が完了した地区 海岸数 63地区 ----- 被災した地区海岸数471地区 ※国施工区間(代行区間含む)約4.1kmのうち、復興・復旧を支える上で不可欠な仙台空港及び下水処理場の前面の区間等約21kmについては、施工を完了している。	完了 水道施設 (本格復旧が完了した水道事業数の割合) ※H25.9末時点	89% 	本格復旧事業のための災害査定の対象工事がすべて完了した水道事業数 163 事業 ----- 災害査定を実施した、あるいは実施を予定している水道事業数 184 事業
完了 着工 海岸防災林の再生 (復旧工事に着手・完了した海岸防災林の割合) ※H25.9末時点	49%(着手) 13%(完了) 	海岸防災林の復旧事業の工事着手延長距離 68km 海岸防災林の復旧事業の工事完了延長距離 18km ----- 海岸防災林の被災延長距離(青森県～千葉県)約140 km※ ※避難指示区域を含む	完了 災害廃棄物の処理 (災害廃棄物の処理が完了した割合) ※H25.9末時点	86% 	国の事業計画及び工程表の対象市町村における災害廃棄物処理量計 1,422 万t ----- 国の事業計画及び工程表の対象市町村における災害廃棄物推計量 1,660 万t
完了 河川対策 (本復旧工事が完了した河川堤防(直轄管理区間)の割合) ※H25.9末時点	99% 	本復旧工事が完了した箇所数 2,113箇所 ----- 被災した河川管理施設の箇所数 2,115箇所	河川対策の状況 宮城県北上川 ▼ (被災状況) (本復旧完了) 		
完了 下水道 (通常処理に移行した下水処理場※の割合) ※「通常処理に移行した処理場」とは、被災前と同程度の放流水質まで処理が実施可能となった処理場である。これらの中には、一部の水処理施設や汚泥処理施設は未だ本復旧工事中のものもある。 ※H25.9末時点	97% 	通常処理に移行した処理場数 71箇所 ----- 災害査定を実施した処理場数 73箇所			

2-6 公共インフラの本格復旧・復興の進捗状況③

○ 交通関係(被災地の交通ネットワークの復旧・復興状況)

項目 〔指標名〕	進捗率	復旧・復興の状況 ／被害の状況
完了 交通網 (直轄国道) 〔本復旧が完了した道路開通延長の割合〕 ※H25.9末時点		下のうち本復旧完了等の開通延長 1,154.5km 岩手、宮城、福島県内の国道4号、6号、45号の総開通延長 1,161 km
完了 着工 交通網 (復興道路・復興支援道路) 〔復興道路・復興支援道路の着手率、復興道路・復興支援道路の整備率〕 ※H25.9末時点		工事着手済延長※ 417km 供用済延長 205km 計画済延長(事業中+供用済) 570 km ※工事着手したIC間延長
完了 交通網(鉄道) 〔運行を再開した鉄道路線延長の割合〕 ※H25.9末時点		下のうち鉄道運行を再開した路線の延長 2,079.7 km 岩手、宮城、福島県内の旅客鉄道のうち被災した路線の総延長 2,330.1 km
完了 着工 交通網(港湾) 〔本格復旧に着手した復旧工程計画に定められた港湾施設の割合〕 ※H25.9末時点		本格復旧工事に着手した箇所数 131箇所 本格復旧工事完了箇所数 94箇所 被災した港湾のうち、復旧工程計画に定められた港湾施設の箇所数 131 箇所

鉄道の状況

三陸鉄道 ▶

〔南リアス線(盛～吉浜間)〕



港湾の状況

仙台塩釜港
(仙台港区中野地区) ▶

〔新幹線スーパーこまちの搬入〕



▼ 仙台塩釜港(仙台港区中野地区)

〔東北を支える穀物の輸入〕




▼ 仙台塩釜港(石巻港区釜地区)

〔旅客船パシフィックビーナスの寄港〕



2-6 公共インフラの本格復旧・復興の進捗状況④



○ 公営住宅・まちづくり関係(被災者が安心して生活するために必要な住宅、医療・学校施設等の復旧・復興状況)

項目 (指標名)	進捗率	復旧・復興の状況 ／被害の状況	項目 (指標名)	進捗率	復旧・復興の状況 ／被害の状況
完了 着工 復興住宅 (災害公営住宅の整備に着手した割合) ※H25.9末時点	60%(着工) 1.9%(完了)	災害公営住宅の整備に着手した戸数(用地確保が完了した時点) 12,810戸 災害公営住宅の整備が完了した戸数 408戸 各県が公表している必要災害公営住宅の戸数※ 21,421戸 ※全体計画未定のため福島県分はいずれも除外	完了 着工 復興まちづくり (被災した造成宅地) (対策工事に着手した地区数、対策工事が完了した地区数の割合) ※H25.9末時点	99%(着工) 4%(完了)	対策工事に着手した地区数 181地区 対策工事が完了した地区数 7地区 復興交付金の配分可能額通知を受けた地区のうち、対策工事が必要な地区数 182地区
完了 着工 復興まちづくり (防災集団移転) (事業計画の同意地区数、造成工事に着手地区数、造成工事の完了地区数の割合) ※H25.9末時点	100%(同意) 51%(着工) 4%(完了)	事業計画について国土交通大臣の同意を得た地区数 332地区 造成工事に着手した地区数 170地区 造成工事が完了した地区数 13地区 住まいの復興工程表に基づく面整備事業を行う地区数 332地区	完了 復興まちづくり (医療施設) (入院の受入制限等から回復した病院の割合) ※H25.6末時点	93%	入院の受入制限又は受入不可から回復した病院数 171箇所 被災直後に入院の受入制限又は受入不可を行った病院数 184箇所
完了 着工 復興まちづくり (土地区画整理) (事業化の段階に達している地区数、造成工事に着手地区数、造成工事の完了地区数の割合) ※H25.9末時点	90%(事業化) 39%(着工) 0%(完了)	事業化の段階に達している地区数※ 46地区 造成工事に着手した地区数 20地区 造成工事が完了した地区数 0地区 ※事業認可済、事業認可手続き中、緊急防災空地整備事業着手済の地区を計上 住まいの復興工程表に基づく面整備事業を行う地区数 51地区	完了 復興まちづくり (学校施設等) (復旧が完了した公立学校施設の割合) ※H25.9末時点	93%	下のうち復旧が完了した学校数 2,148校 公立学校施設災害復旧事業に申請した若しくは申請予定の学校数 2,313校 (応急仮設校舎や間借り等により、全ての学校で教育活動は再開済み)
完了 着工 復興まちづくり (漁業集落防災強化) (漁業集落防災機能強化事業の実施地区数の割合) ※H25.9末時点	97%(事業費措置) 47%(着工) 15%(完了)	復興交付金の事業費措置地区数 33地区 造成工事に着手した地区数 16地区 造成工事が完了した地区数 5地区 当事業により住宅用地の整備を行う地区数 34地区	復興住宅の状況 大船渡市田中東団地 ▶ (構造階数:木造2階建、戸数:12戸)		

注) 漁業集落防災機能強化事業については、上記以外に住宅用地の整備は行わず水産関係用地や公共施設の整備を行う地区が予定されている。

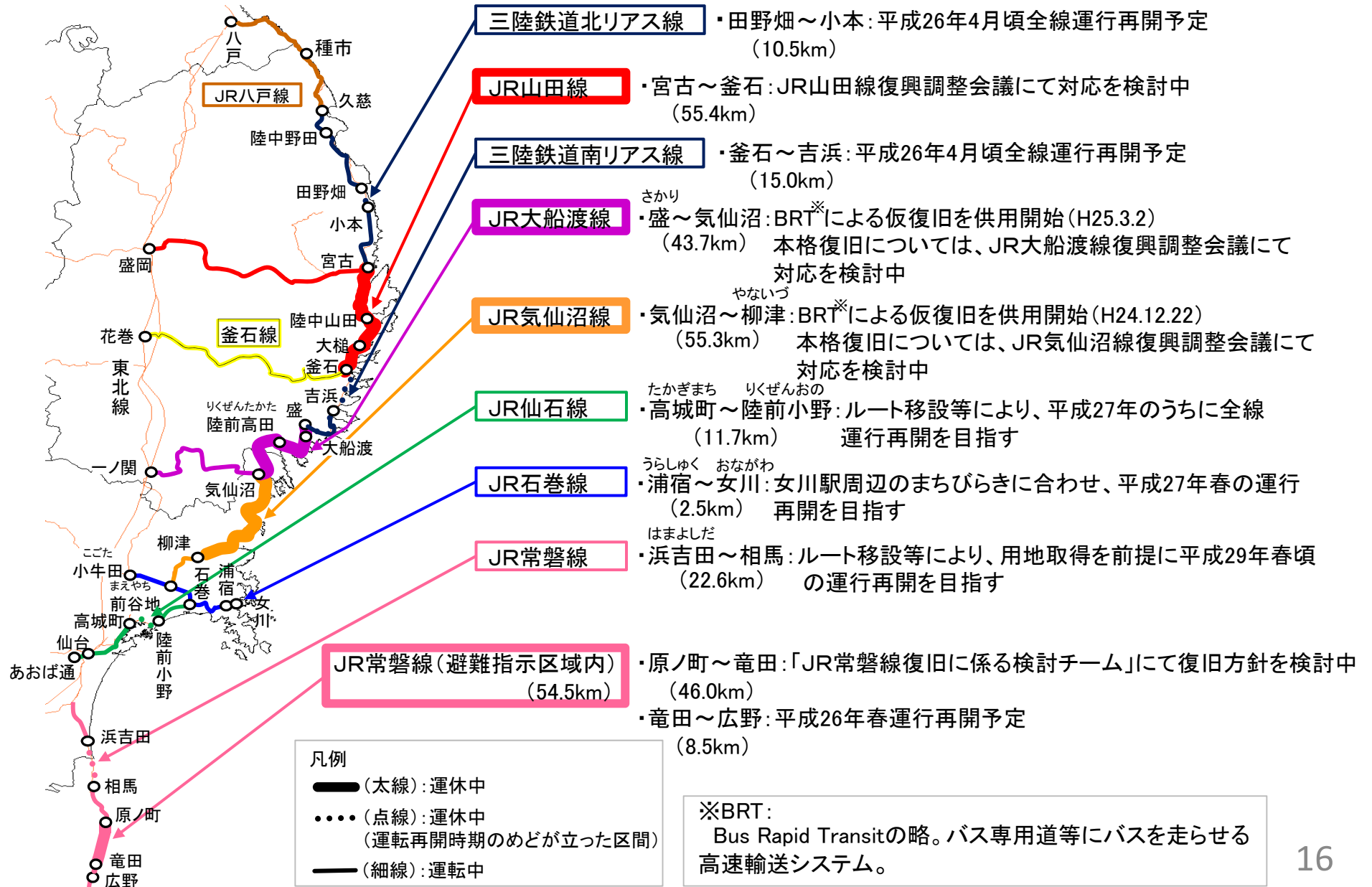
2-6 公共インフラの本格復旧・復興の進捗状況⑤

○ 農林水産業関係 (被災地域の主な産業基盤である農業、林業、水産業の復旧・復興状況)

項目 〔指標名〕	進捗率	復旧・復興の状況 ／被害の状況	項目 〔指標名〕	進捗率	復旧・復興の状況 ／被害の状況
完了 農地 (津波被災農地面積に対する営農再開可能面積の割合) ※H25.7末時点	63%	営農再開が可能な農地面積 約13,470 ha 津波被災農地面積 (青森県～千葉県) 21,480 ha※ ※避難指示区域を含む	完了 養殖施設 (養殖施設の復旧の割合) ※H25.9末時点	84%	復旧した養殖施設数 (岩手・宮城) 63,635 施設 養殖業再開希望者の施設数 (岩手・宮城) 76,193 施設
完了 漁港 (陸揚げ岸壁の機能が全て回復した漁港の割合) ※H25.9末時点	37%	陸揚げ岸壁の機能が全て回復した漁港数 118 漁港 被災した漁港数 319 漁港※ ※避難指示区域を含む	完了 定置網 (大型定置網の復旧の割合) ※H25.9末時点	89%	大型定置網の復旧数 130 ケ統 大型定置網の操業再開希望数 146 ケ統
完了 漁場(養殖) (がれき撤去が完了した養殖漁場の割合) ※H25.9末時点	95%	がれき撤去が完了した箇所数 1,017 箇所 養殖漁場の箇所数 1,071 箇所※ ※再流入による追加箇所数を含む	漁港の状況 (八戸市)		完了 漁場(定置) (がれき撤去が完了した定置漁場の割合) ※H25.9末時点
			漁場の状況 (気仙沼市)		
			▼ 陸揚げ岸壁の復旧 		▼ がれき撤去 

2-7 鉄道の復旧状況

東北地方沿岸部の鉄道については、2事業者8路線271.2kmの区間が運休中。(平成25年11月1日現在)



2-8 農地の復旧状況

○ 「農業・農村の復興マスタープラン(平成23年8月公表、平成25年5月改訂)」に基づき、被災農地の営農再開に向けて、農地復旧や除塩を実施中。

① 農林水産業における農地の復旧状況

○ 6県(青森・岩手・宮城・福島・茨城・千葉)の津波被災農地21,480haのうち、13,470haで営農再開が可能となった。(25年7月末時点)

② おおむね3年間で農地を復旧

津波被災農地における年度ごとの営農再開可能面積の見通し (単位:ha)

	23年度	24年度	25年度	26年度	その他		小計	避難指示区域※3	転用(見込み含む)※4	計
					大区画化等※1	被害甚大等※2				
岩手県	10	100	150	160	80	220	720	0	10	730
宮城県	1,220	5,450	4,240	1,560	970	490	13,930	0	410	14,340
福島県	60	400	890	510	1,080	0	2,940	2,120	400	5,460
青森・茨城・千葉県	810	140	-	-	-	-	950	-	-	950
計	8,190	5,280	2,230	2,130	2,130	710	18,540	2,120	820	21,480
(全体に対する割合)	38%	25%	10%	10%	10%	3%	86%	10%	4%	100%
(小計に対する割合)		85%			11%	4%	100%			

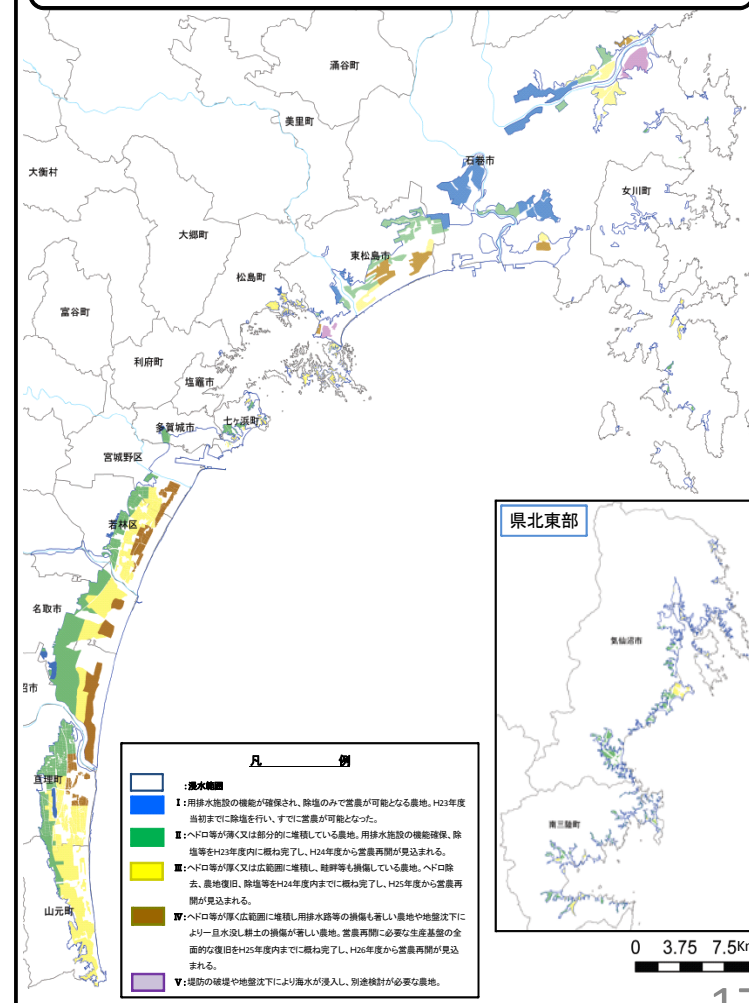
※1 農地復旧と一体的に農地の大区画化等を実施する予定の農地2,130ha
 ※2 海水が浸入しているなど被害が甚大な農地の部及びまちづくりや他の復興復興事業との調整が必要な農地で別途復旧工法等の検討を進める地域710ha
 ※3 原子力発電所事故に伴い設定されている避難指示区域の農地で、避難指示解除の見込みや除塩の工程等を踏まえつつ、復旧に向けて取り組む地域2,120ha
 ※4 農地の転用等により復旧不要となる農地(見込みを含む) 820ha

出典:農林水産省「農業・農村の復興マスタープラン」(平成25年5月)

③ 農地の大区画化の状況

○岩手県、宮城県、福島県においては、復興交付金等を活用し、面的な集積による経営規模拡大や土地利用の整序化を図る農地の大区画化等を約9,400haで実施中。(25年6月現在)

【参考】宮城県の農地の復旧可能性図面



2-9 復興施策に関する国の事業計画及び 工程表の見直しと進捗確認 ①

- ・平成25年度予算成立を機に、平成25年度の目標を含めた事業計画及び工程表見直しを実施。
- ・平成24年度の目標の達成状況について進捗確認を実施。

【事業計画及び工程表の概要】

- ・復興施策について事業計画と工程表を取りまとめて公表。
- ・公共インフラ全体版及び公共インフラ地域版(市街地復興パターンの検討調査実施した43市町村を中心)を作成。
- ・今後も、節目節目において事業計画及び工程表の見直しを行い、取りまとめの上、公表していく予定。

■作成内容

○事業計画

対象事業ごとに、復旧・復興に向けた基本的考え方、成果、目標などを記載。

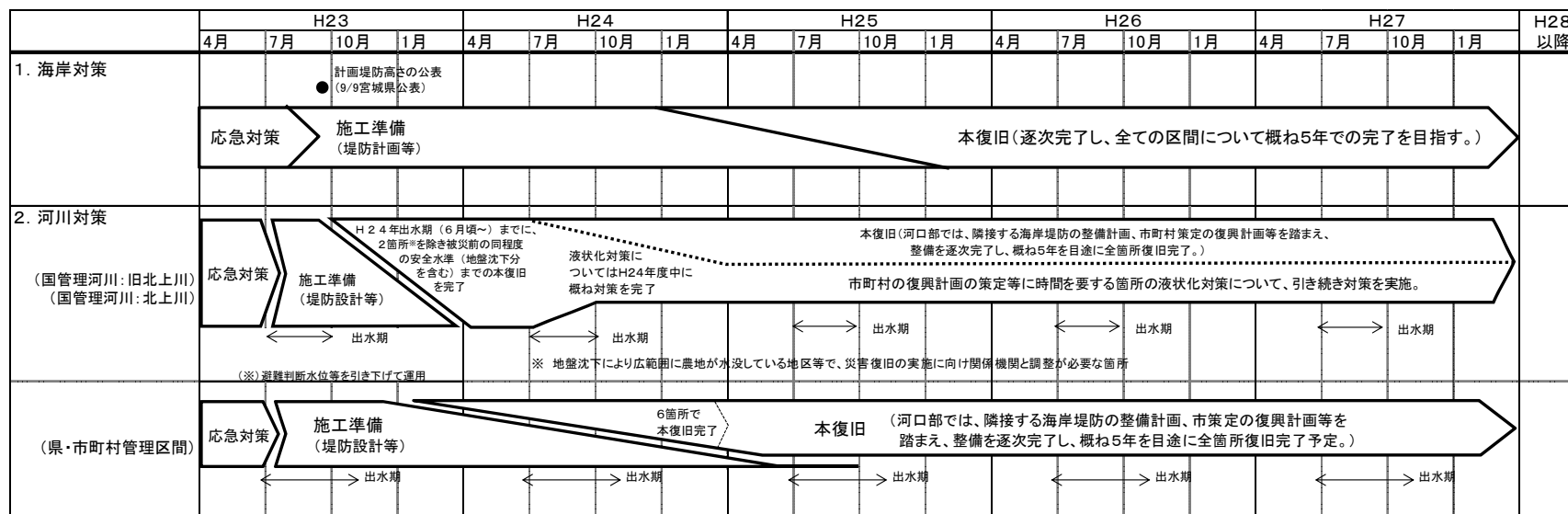
○工程表

上記の事業計画に即して、対象事業ごとに復旧・復興の目標をバーチャートで表示。

■対象事業

海岸、河川、下水道、交通網(道路、鉄道、空港、港湾)、農地・農業用施設、海岸防災林の再生、漁港・漁場・養殖施設・大型定置網、復興住宅(災害公営住宅)、復興まちづくり(防災集団移転・区画整理等、医療施設等、学校施設等)、土砂災害対策、地盤沈下・液状化対策、災害廃棄物の処理

■公共インフラ地域版: 工程表の例(宮城県石巻市の海岸対策・河川対策)



2-9 復興施策に関する国の事業計画及び 工程表の見直しと進捗確認 ②

- ・公共インフラ(全体版)の対象18事業について、所管省庁による工程の進捗確認を実施。
- ・その結果、11事業は「概ね平成24年度に目標達成」もしくは「平成24年度に目標達成」、海岸対策など3事業及び災害廃棄物の処理など4事業の一部が「平成25年度に目標達成がずれ込む」となっている。
- ・平成25年度に目標達成がずれ込む理由は、復興まちづくり計画や他事業との調整、用地取得等の合意形成、港湾岸壁の復旧より利用の優先、不発弾発見等の周辺状況の変化等により、時間を要したことである。
- ・このため、復興事業の円滑な推進及び加速化に向けて、復興庁にタスクフォースを設置し、本年3月、4月と住宅再建・復興まちづくりの加速化措置を立て続けに打ち出すとともに、フォローアップを行い、柔軟かつきめ細かな対応を実施。

事業名		平成24年度成果の進捗分析【評価】※	事業名		平成24年度成果の進捗分析【評価】※
1.	海岸対策	平成25年度に目標達成がずれ込む	10.	漁港・漁場・養殖施設・定置網	【漁港】平成24年度に目標達成 【漁場】平成25年度に目標達成がずれ込む 【養殖施設】平成24年度に目標達成 【定置網】平成25年度に目標達成がずれ込む
2.	河川対策	【国管理区間】概ね平成24年度に目標達成 【県・市町村管理区間】平成25年度に目標達成がずれ込む	11.	復興住宅(災害公営住宅等)	平成24年度に目標達成
3.	下水道	平成24年度に目標達成	12.	復興まちづくり(防災集団移転促進事業、土地区画整理事業等)	平成24年度に目標達成
4.	交通網(道路)	平成24年度に目標達成	13.	復興まちづくり(被災した造成宅地)	平成24年度に目標達成
5.	交通網(鉄道)	【旅客鉄道】平成24年度に目標達成 【貨物鉄道】平成24年度に目標達成	14.	復興まちづくり(医療施設等)	概ね平成24年度に目標達成
6.	交通網(空港)	平成25年度に目標達成がずれ込む	15.	復興まちづくり(学校施設等)	概ね平成24年度に目標達成
7.	交通網(港湾)	【産業・物流上、特に重要な港湾施設】平成25年度に目標達成がずれ込む 【復旧に期間を要する施設(防波堤)】平成24年度に目標達成	16.	土砂災害対策	平成25年度に目標達成がずれ込む
8.	農地・農業用施設	概ね平成24年度に目標達成	17.	地盤沈下・液状化対策	平成24年度に目標達成
9.	海岸防災林の再生	平成24年度に目標達成	18.	災害廃棄物の処理	【災害廃棄物の仮置場への移動】平成25年度に目標達成がずれ込む 【中間処理・最終処分】概ね平成24年度に目標達成(ただし、福島県の一部を除く)

※ 目標とは、平成24年度の成果目標を指す。

2-10 住宅再建及び高台移転に向けた取組

- 住宅再建や復興まちづくりに当たっては、スピードアップを図るため、市町村における地域住民との調整や事業実施を円滑に進めていくことが最大の課題であり、国としても、復興交付金による支援、まちづくりの専門職員の派遣の促進、円滑な施工確保の支援等を実施。
- 住民の定着を促進する住宅再建支援のため、震災復興特別交付税を増額(平成24年度補正:1,047億円)。

復興まちづくりの進捗状況(平成25年9月末時点)

- ・防災集団移転促進事業について、事業着手の法定手続きである大臣同意が済んだ地区数は332地区。
- ・土地区画整理事業について、事業化の段階に達している地区数は46地区。
- ・工事に着手した地区数は防災集団移転促進事業で170地区、土地区画整理事業で20地区、災害公営住宅整備事業で4,773戸。

	防災集団移転促進事業 ^{注1)}	土地区画整理事業	災害公営住宅整備事業
想定	332地区	51地区	(2万戸以上) ^{注2)}
法定手続き済等	332地区 (大臣同意)	46地区 ^{注3)}	
工事着手	170地区	20地区	4,773戸 [15,633戸 ^{注4)}]

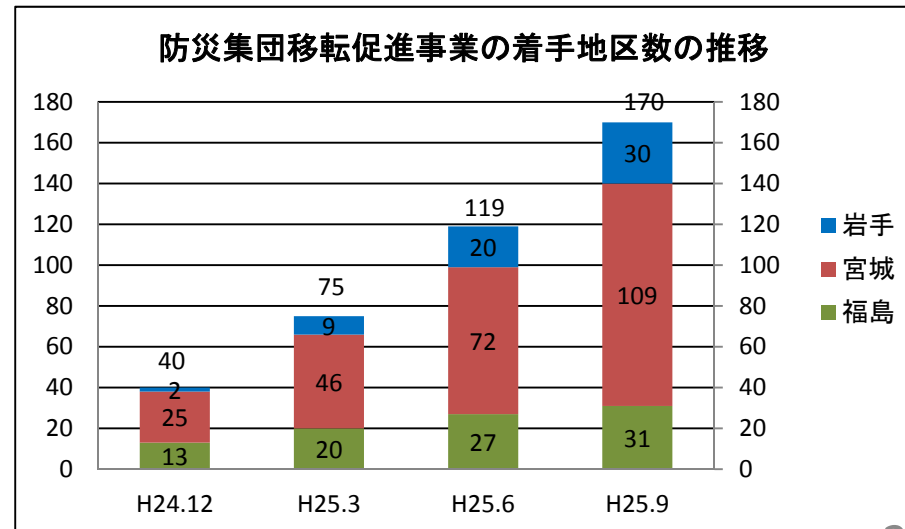
注1) 移転先の住宅団地の地区数

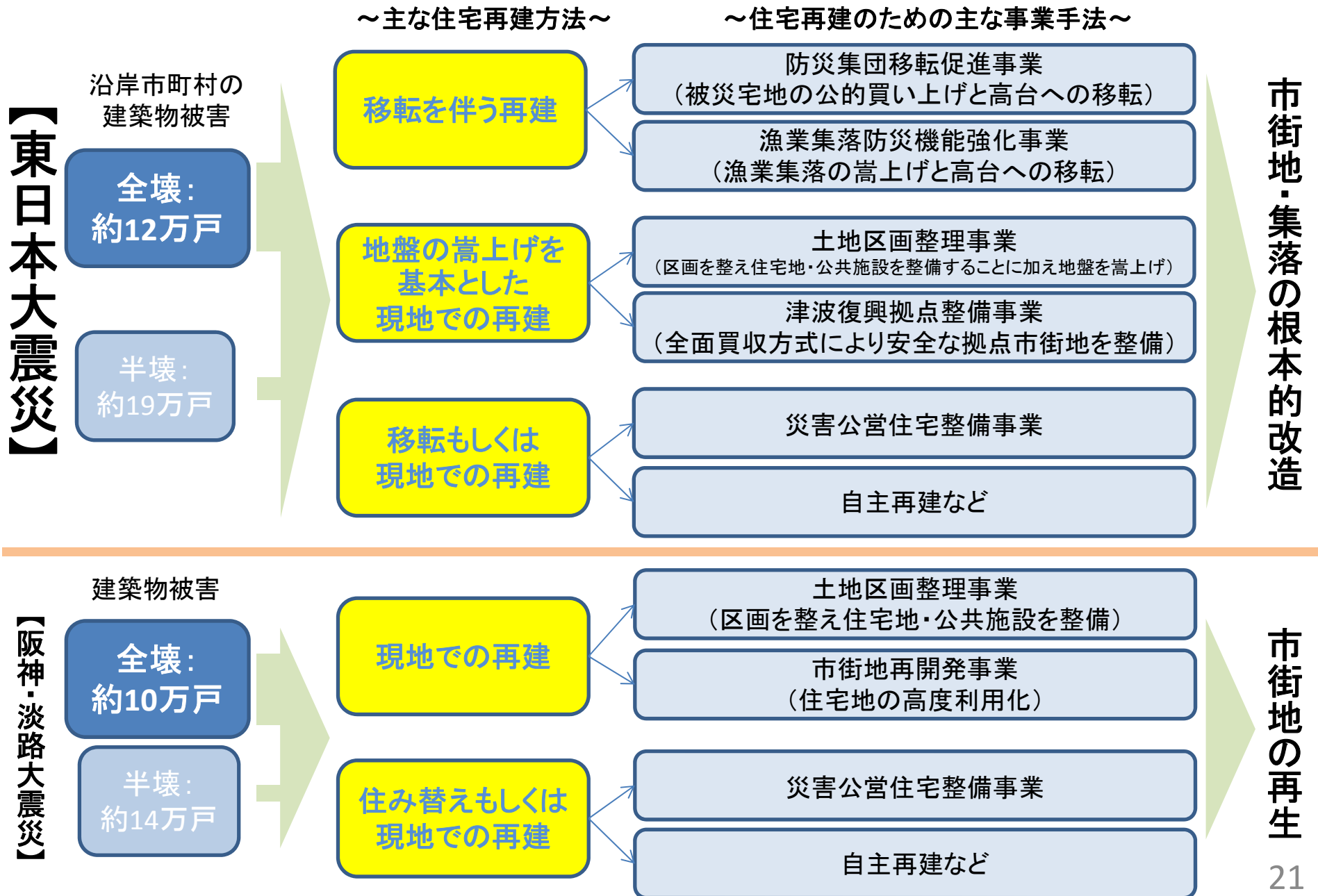
注2) 主な内訳は、岩手県約6千戸、宮城県約1万5千戸、(福島県は未定)

注3) 事業認可済、事業認可手続き中、緊急防災空地整備事業着手済み地区数

注4) 用地確保した戸数

【例】防災集団移転促進事業の進捗状況(工事着手地区数)





2-10 (参考) 津波被災地の市街地・居住地復興のための事業規模等②



	東日本大震災	他の震災事例
土地区画整理事業 (区画を終え住宅地・公共施設を整備することに加え地盤を嵩上げ)		
		【阪神・淡路大震災】
地区数	51地区	20地区
事業期間	—	約4～15年 平均約8年
津波復興拠点整備事業 (全面買収方式により安全な拠点市街地を整備)		
地区数	22地区	—
防災集団移転促進事業 (被災宅地の公的買い上げと高台への移転)		
		【中越地震】
地区数	332地区	3地区
戸数	約12,000戸	115戸
事業期間	—	約2年
漁業集落防災機能強化事業 (漁業集落の嵩上げと高台への移転等)		
		【北海道南西沖地震】
地区数	34地区	1地区
戸数	約550戸	180戸
事業期間	—	約3年
災害公営住宅整備事業		
		【阪神・淡路大震災】
戸数	2万戸以上 (岩手県 約6千戸、宮城県約1万5千戸、 福島県 未定)	約2万6千戸
事業期間	—	約6年

※東日本大震災の事業規模等は想定であり、関係者調整等により今後変更の可能性あり。

(参考) 仮設住宅入居戸数・・・東日本大震災:約4.9万戸、阪神・淡路大震災:約4.7万戸
 避難者数……………東日本大震災:約47万人、阪神・淡路大震災:約31.7万人

2-10 住宅再建・復興まちづくりの加速化措置（概要）①

- 復興大臣の下に関係省庁の局長クラスで構成するタスクフォースを設置し、加速化措置を矢継ぎ早にとりまとめた。
- 2度の加速化措置により、公共インフラの復興が本格化し住宅再建や復興まちづくりが進み出してきた中、最大の課題として残る用地確保の迅速化を中心に、加速化措置第3弾を公表。
- 用地取得の対応を飛躍的に加速させ、住宅再建をさらに迅速化させることを目指す。

H25.3.7

住宅再建・復興まちづくりの加速化に向けた施策パッケージ （「加速化措置第1弾」）

- ① 住まいの復興工程表の公表
- ② 実現および加速化のための主な措置
 - ・ 用地取得の迅速化
 - ・ 埋蔵文化財発掘調査の簡素化・迅速化
 - ・ 資材不足、人員不足、入札不調への対応

H25.4.9

住宅再建・復興まちづくりの「加速化措置 第2弾」

用地取得の困難な場合の課題に速やかに対応できるよう手続きの簡素化

- ・ 防災集団移転促進事業における事業計画変更の簡素化（土地取得困難地の回避等）
- ・ 土地収用手続きの効率化
- ・ 財産管理制度の円滑な活用（不在者財産、相続財産への対応）
- ・ 所有者不明土地に係る手続きの円滑化

H25.6.21

住宅再建・復興まちづくりの加速化措置のフォローアップ

- ① 第1弾及び第2弾のフォローアップ
- ② 加速化のための新たな対応について、取りまとめを実施
復興大臣より関係省庁に、さらなる加速化に向け、これまでの措置をより効果的に推進するため、モデルによる試行や現地に即した工夫を進めるよう指示

H25.10.19

住宅再建・復興まちづくりの「加速化措置 第3弾」

- ① 「用地取得加速化プログラム」の策定
 - ・ 財産管理制度や土地収用制度、自治体の用地事務支援に関する加速化措置を拡充した上で総合的に体系化
 - ・ 所有者の所在不明土地の取得を加速化するため、財産管理制度と土地収用制度の手続きの簡素化・迅速化など復興事業に限った「被災地スペシャル」の対策
 - ・ 用地取得の手続きを画期的に短縮
(例)－財産管理制度で、これまで全体で半年以上の期間を要していた手続きを、裁判所の審理は最短で3週間で可能に。
－土地収用で、任意買収と並行した収用手続きの進行をルール化し、早期着手
- ② 住宅再建の加速化
 - ・ 災害公営住宅分野の人材不足・資材不足・入札不調等への対応
 - ・ 防災集団移転促進事業の円滑な推進や跡地利用への対応
- ③ 加速状況の見える化
 - ・ 「つちおと情報館」見える化のワンストップ
 - ・ 「加速化措置一覧表」による加速化措置の見える化
 - ・ 施工確保対策の地方公共団体への周知等



【住まいの復興工程表(平成25年9月末時点)】 (H25.10.30更新)

- ・工程表は、各市町村の地区毎・年度毎に作成し供給戸数を明示。
- ・四半期毎に更新し、公表。

①災害公営住宅の整備に係る進捗見込み(戸数)

	26年度まで累計	27年度まで累計
岩手県 (進捗率)	概ね2,400戸 (概ね4割)	概ね5,400戸 (概ね9割)
宮城県 (進捗率)	概ね7,300戸 (概ね5割)	概ね12,400戸 (概ね8割)
福島県	概ね2,300戸	概ね3,200戸

※福島県における原発避難者向け災害公営住宅の整備戸数は、

建設場所と戸数が確定している918戸(上記戸数に含まれている)を含み、全体で概ね3,700戸を予定しており、平成27年度までの入居を目指している(平成25年9月時点)。

【住まいの復興工程表(例)】

都道府県 岩手県 市町村 野田村

○住宅再建に係る工程表

	合計	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度以降	調整中
民間住宅等用地	181戸		23戸	34戸	124戸		
災害公営住宅	102戸	8戸	18戸	7戸	69戸		
合計	283戸	8戸	41戸	41戸	193戸		

《目標(工程表)の策定に係る前提条件・留意事項》

- ・「民間住宅等用地」については、土地区画整理事業、防災集団移転促進事業及び漁業集積防災機能強化事業により造成/供給される宅地数(災害公営住宅を除く。)を計上しています。
- ・「調整中」とは、用地交渉中や整備計画の策定中など現段階では供給時期が確定していないものを計上しています。
- ・本工程表は、平成25年9月末現在で市町村から提出を受けたデータをもとに集計整理しています。
- ・供給戸数としては、災害公営住宅については、建築工事が完了時期で戸数を、民間住宅等用地については、宅地造成工事が完了時期で宅地数を計上しています。

②民間住宅等用地の整備に係る進捗見込み(宅地数)

	27年度まで累計	28年度以降も含めた累計
	概ね5,100戸 (概ね6割)	概ね8,500戸 (概ね10割)注)
	概ね6,200戸 (概ね5割)	概ね11,200戸 (概ね9割)注)
	概ね800戸	概ね2,500戸

注)岩手県の概ね300戸、宮城県の概ね800戸については、用地交渉中や整備計画の策定中など現段階では供給時期を調整中である。

地区名		事業手法	工程	計画戸数等	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度以降	備考
域内地区	土地区画整理事業		調査設計	135戸	[Gantt chart showing progress from H24 to H28]					
			移転移設 公共施設工事 宅地整地①							
	防災集団移転促進事業		用地買収	79戸	[Gantt chart showing progress from H24 to H28]					
			調査設計 造成①							
			造成①							
	災害公営住宅整備事業	域内【区画】地区	用地	11戸	[Gantt chart showing progress from H24 to H28]					
			事業主体 野田村		建築設計					
		計画戸数	造成							
		建て方 戸建・長屋建	建築工事							
	域内【高台】地区		用地	55戸	[Gantt chart showing progress from H24 to H28]					
事業主体 野田村			建築設計							
計画戸数	造成									
建て方 戸建・長屋建	建築工事									
構造 木造	入居									
供給戸数	民間住宅等用地	合計	148戸			24戸	124戸			
	災害公営住宅	合計	66戸				66戸			
		合計	214戸			24戸	190戸			

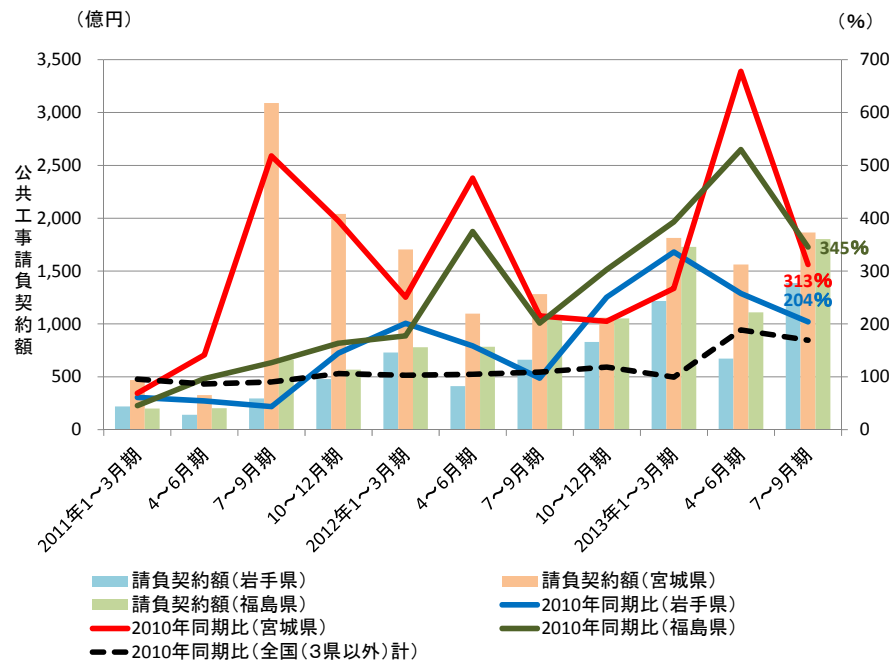


2-10 (参考) 建設投資の状況

- 公共工事請負契約額は、震災前及び全国を上回る水準。
- 新設住宅着工戸数は、増加傾向にあり、震災前及び全国を上回る水準。沿岸市町村においても、震災前に比べ高い水準となっている。

(1) 公共工事請負契約額

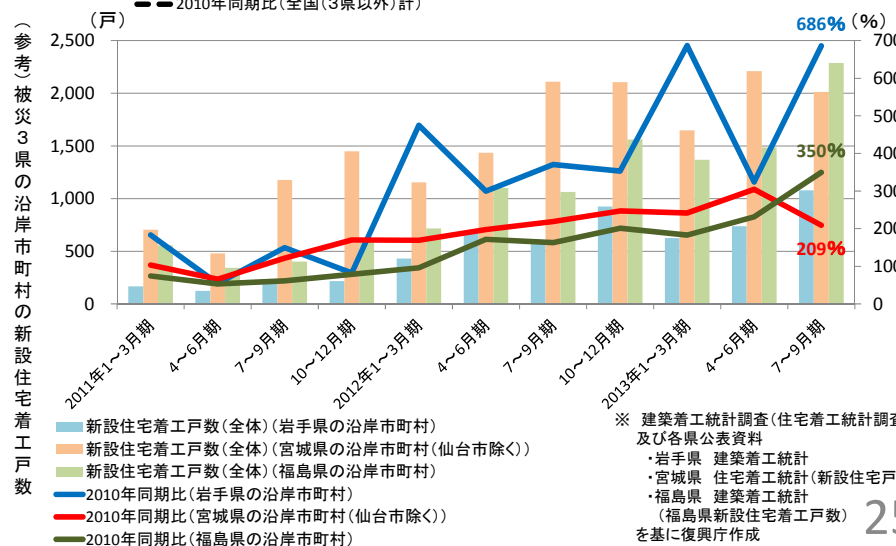
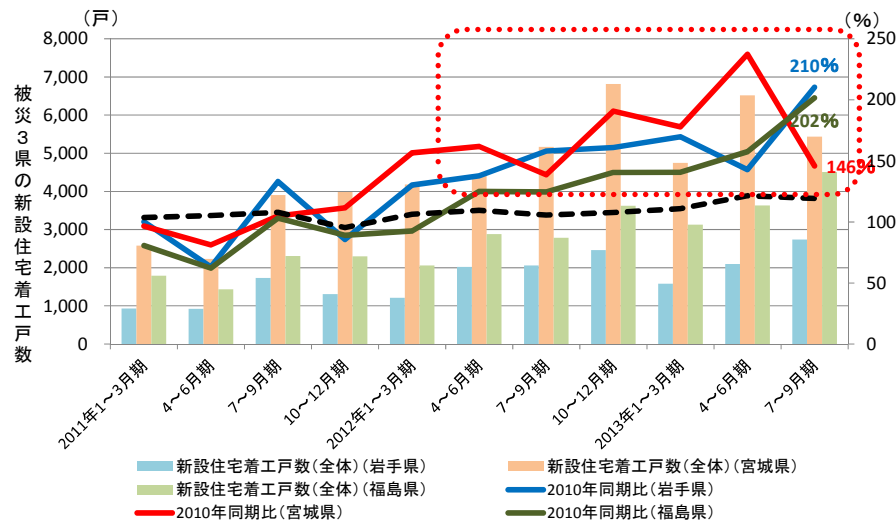
岩手県、宮城県、福島県における公共工事請負契約額(公共機関からの受注工事(1件500万円以上の工事))は、震災後、全国を上回る水準となっている。2013年7~9月期は、各県で2010年同期比200%以上となっている。



※ 建設工事受注動態統計調査より復興庁作成

(2) 新設住宅着工戸数

岩手県、宮城県、福島県における新設住宅着工戸数は、震災後、増加傾向にあり、2012年以降は全国を概ね上回る水準となっている。沿岸市町村※では、震災後概ね増加傾向。2013年7~9月期には各県で2010年同期比200%以上となっている。 ※沿岸市町村…海岸線を有する市町村



※ 建築着工統計調査(住宅着工統計調査)、及び各県公表資料
 ・岩手県 建築着工統計
 ・宮城県 住宅着工統計(新設住宅戸数)
 ・福島県 建築着工統計
 (福島県新設住宅着工戸数)を基に復興庁作成

2-11 医療・福祉の復旧・復興状況

○ 被災施設の災害復旧等により、当面の医療・介護・福祉サービスを確保するとともに、中長期的には、自治体の復興計画の進捗に合わせて、医療・介護・福祉の提供体制の復興に取り組む。

■施設の復旧状況

項目 〔指標名〕	進捗率	復旧・復興の状況 ／被害の状況
完了 医療施設 〔入院の受入制限等から回復した病院の割合〕 ※H25.3末時点	90%	入院の受入制限又は受入不可から回復した病院数 166 箇所 被災直後に入院の受入制限又は受入不可を行った病院数 184 箇所
完了 介護施設等 〔復旧が完了した介護施設等の割合〕 ※H25.2末時点	83%	復旧事業のための災害査定の対象工事がすべて完了した介護施設等の数 829箇所 災害査定を実施した、あるいは実施を予定している介護施設等の数 999箇所
完了 児童福祉施設等 〔復旧が完了した児童福祉施設等の割合〕 ※H25.2末時点	83%	復旧事業のための災害査定の対象工事がすべて完了した児童福祉施設等の数 580 箇所 災害査定を実施した、あるいは実施を予定している児童福祉施設等の数 701箇所
完了 障害者支援施設等 〔復旧が完了した障害者支援施設等の割合〕 ※H25.2末時点	86%	復旧事業のための災害査定の対象工事がすべて完了した障害者支援施設等の数 267箇所 災害査定を実施した、あるいは実施を予定している障害者支援施設等の数 309箇所

■復興に向けた主な取組

<地域医療提供体制の再構築>

○地域医療再生基金の積み増し

(23年度3次補正720億円(被災3県)、24年度予備費380億円(被災3県、茨城県)、24年度補正500億円(被災地を含む全国を対象))

地域医療に甚大な被害を受けた地域において、切れ目なく医療サービスの提供を行う新たな体制を構築するため、被災地における医療機関等の再整備、医療機関相互の情報連携の基盤整備、医師、看護師等の人材の確保等に対して財政支援。

<地域包括ケアの再構築>

○介護基盤緊急整備等臨時特例基金の積み増し

(23年度1次補正70億円(被災県)、3次補正119億円(被災県))

日常生活圏で医療・介護等のサービスを一体的・継続的に提供する「地域包括ケア」の体制を整備するため、被災自治体における地域包括ケアの拠点整備、介護等のサポート拠点の整備等に対して財政支援。

※ 平成25年度は、東日本大震災復興特別会計において計上(平成25年度予算23億円)。

<子育てサービスの再構築>

○安心子ども基金の積み増し

(23年度3次補正16億円(被災県))

被災地での保育所等の復興に当たり、子育てサービスを総合的・一体的に行う基盤を整備・強化できるよう、被災自治体における保育所等の複合化、多機能化に対して財政支援。

<障害福祉サービスの再構築>

○障害者自立支援対策臨時特例基金の積み増し

(23年度3次補正20億円(被災県))

被災地の障害福祉サービス事業所において、引き続き安定したサービスの提供を行うことができるよう、障害福祉サービス復興支援拠点の整備や居宅介護事業所等の事業再開に向けた施設整備に対して財政支援。

※ 平成25年度は、東日本大震災復興特別会計において計上(平成25年度予算11億円)。

2-12 復旧・復興の進捗情報の「見える化」

○復興の加速化に向けては、復旧・復興の進捗状況の見える化(分かり易く見せる、見通しを示す、情報を共有化する)が重要

- (1) 見える化のワンストップ(復興庁HP)、
- (2) 「つちおと情報館」の運用開始、
- (3) ②「まるふくマーク」の共通利用

(1) 見える化のワンストップ(復興庁HP)

- ・復旧・復興の進捗状況に係る国、県、市町村等の情報をワンストップで提供。

[復興庁トップページ]



ここで見える復旧・復興状況
(ポータルページ)

- ▶ 住宅・公共インフラの復旧・復興状況
- ▶ 医療・福祉・教育の復旧・復興状況
- ▶ 産業・生業の復旧・復興状況
- ▶ 地域からの復興情報
- ▶ ②「まるふくマーク」について

(2) 「つちおと情報館」の運用開始

- ・事業概要、定点観測写真、工程表、地図情報などの詳細情報等を事業地区毎に一元的にまとめ、視覚的に分かり易く提供。(14事業163箇所)

[つちおと情報館]



[復興アルバム(定点観測写真)]



(3) ②「まるふくマーク」の共通利用

- ・進捗情報まで導く②「まるふくマーク」を被災3県の県・市町村や、国の関係機関等において共通利用開始。(賛同71機関[平成25年11月現在])

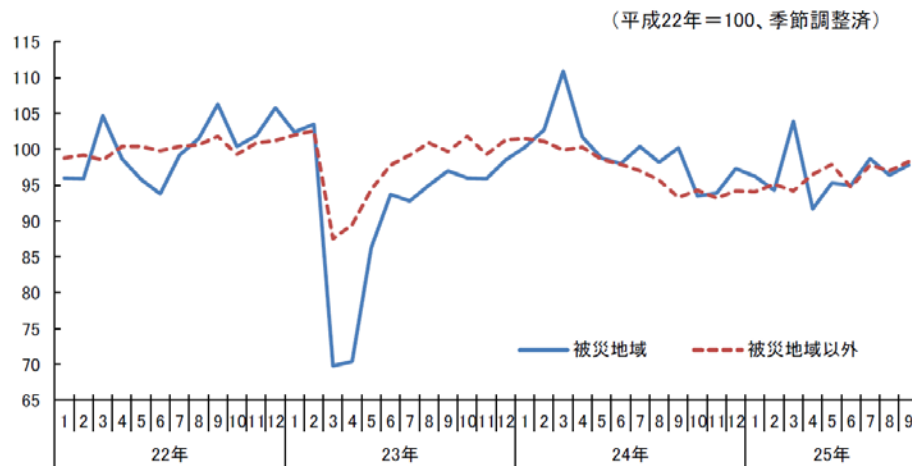
※画面はイメージです。

2-13 産業の復旧・復興の状況①

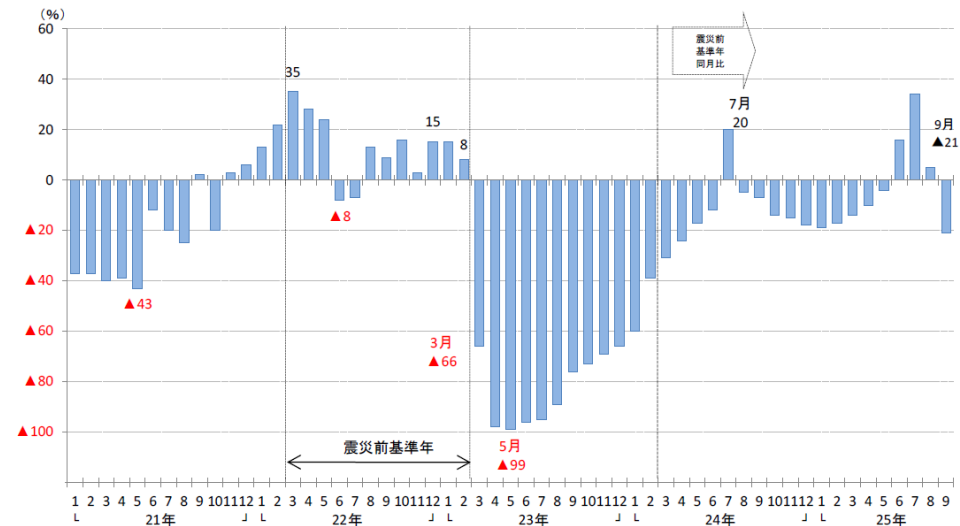
○ 被災地の鉱工業生産能力は震災前の水準にほぼ回復したが、業況は経済動向の影響を受けている。

(1) 鉱工業 (いずれも経済産業省)

鉱工業生産指数(9月分確報値/被災地:97.8、外98.3)

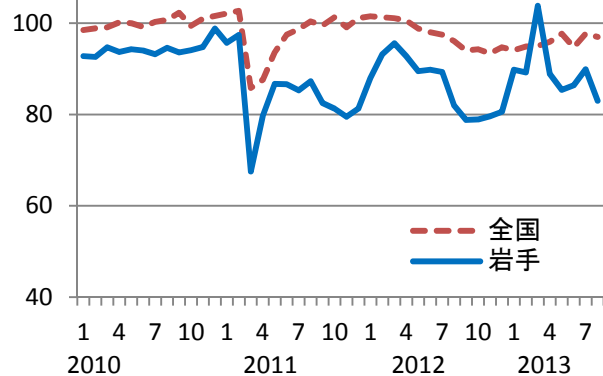


津波浸水地域(59事業所)の生産額試算値(震災前同月比)

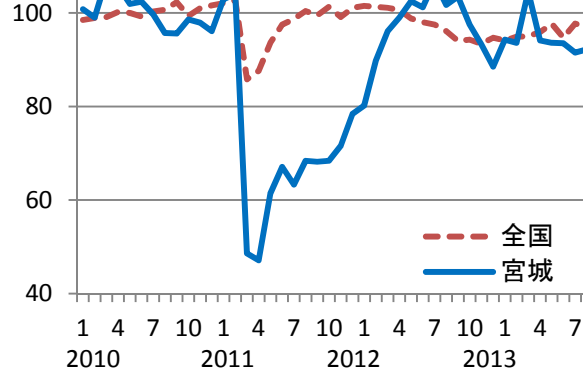


被災3県の鉱工業生産指数 (季節調整済み、H22=100 (岩手県、福島県はH17=100)) ※各県等公表資料を元に復興庁作成

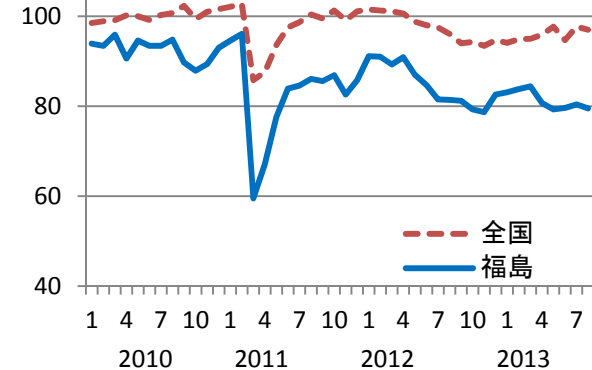
【岩手県】



【宮城県】



【福島県】



2-13 産業の復興状況 ②

○ 農業・水産業・観光業も改善が見られるが、本格的な復興が今後の課題。

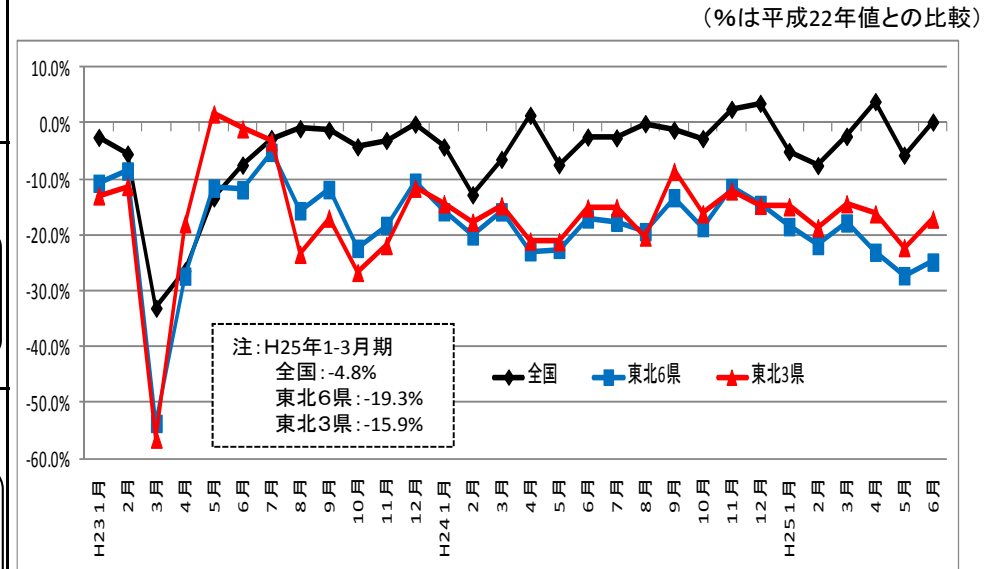
(2) 農業・水産業

項目 (最大被害)	(復旧済み) / (最大被害)	復旧率
農地 被害のあった青森県から千葉県までの6県の津波被災農地: 21,480ha (避難指示区域を含む)	営農再開が可能となった農地: 約13,470ha	約63% ・「農業・農村の復興マスタープラン」に基づき、被災農地の営農再開に向けて、農地復旧や除塩を実施中。
農業経営体 津波被害のあった農業経営体(東北・関東6県): 約10,100経営体(25年3月時点)	経営を再開: 約5,070経営体 未再開: 約5,070経営体	約50% ・経営を再開した約5,070経営体は、農業生産過程の対象作業又はその準備を一部でも再開した経営体を含む。(25年3月時点)(東北・関東6県)
水揚げ 注1、2 岩手・宮城・福島各県の主要な魚市場の水揚げ数量の比較(22年3月-23年2月合計)	約70%(数量ベース)	約70% ・金額ベースでは、被災前に比べ約73%
水産加工施設 被災3県で被害があった水産加工施設: 830施設	626施設が業務再開	約75% (25年6月末時点) ・27年度末までに再開希望者全員の施設を復旧・復興することを目指す。

注1: 久慈(岩手)、宮古(岩手)、釜石(岩手)、大船渡(岩手)、気仙沼(宮城)、女川(宮城)、石巻(宮城)、塩釜(宮城)、小名浜(福島)における直近1年間(24年8月-25年7月)の合計の水揚げ数量の被災前1年間(22年3月-23年2月)の合計に対する比率を示したもの。
 注2: 福島県沖については、現在、全ての海面漁業・養殖業で操業を自粛しており、当該期間における小名浜での水揚げは全て県外で漁獲されたもの。

(3) 観光業

■ 観光客中心の宿泊施設の延べ宿泊者数(同月比の推移)
 観光客中心の宿泊施設は、平成25年に入っても平成22年値との比較において、全国・東北6県・東北3県いずれもマイナスとなっている。



※【観光客中心の宿泊施設】とは、宿泊者のうち観光目的の宿泊者が全体の50%以上と回答した施設。

【参考】
 なお、ビジネス客中心の宿泊施設(宿泊者のうち観光目的の宿泊者が全体の50%未満であると回答した施設)においては、震災直後から東北6県・東北3県でいずれも平成22年値との比較ではプラスで推移している。

注: 平成22年4-6月期調査より従業者数9人以下を含む全宿泊施設に調査対象を拡充している。
 (H23.1-3月、H24.1-3月、H25.1-3月の平成22年値との比較は従業者数10人以上の宿泊施設の数値のみで作成。H25.1-3月は暫定値。)

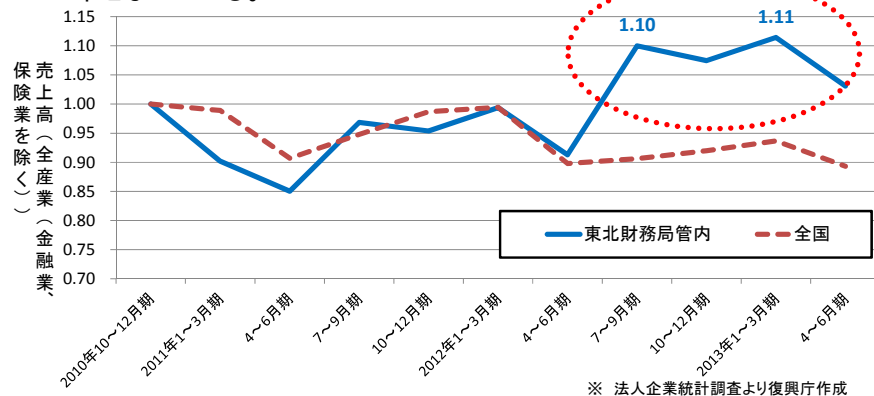
出典: 宿泊旅行統計調査

2-13 (参考) 産業の復興状況 ③

○被災県の売上高及び大型小売店販売額は徐々に回復し、特に2012年7～9月期以降は、震災前及び全国と比較しても高い水準。
 ○輸出入額は、ほぼ震災前の水準にまで回復しつつある。

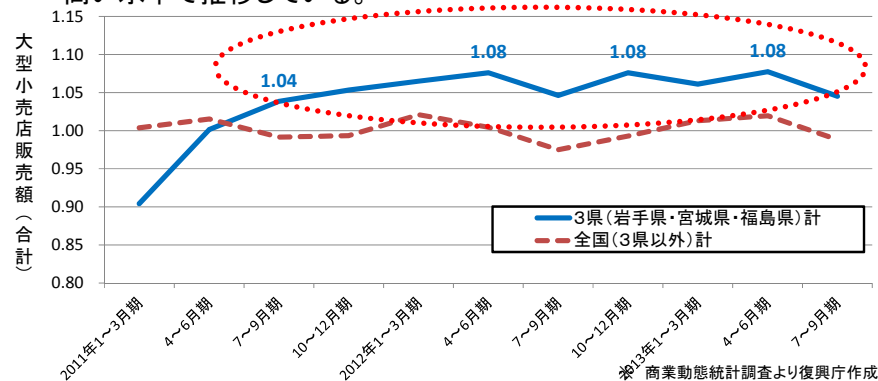
(1) 売上高

東北財務局管内(東北6県)における売上高は、徐々に回復が見られる。特に2012年7～9月期以降は震災前を上回り、全国より高い水準となっている。



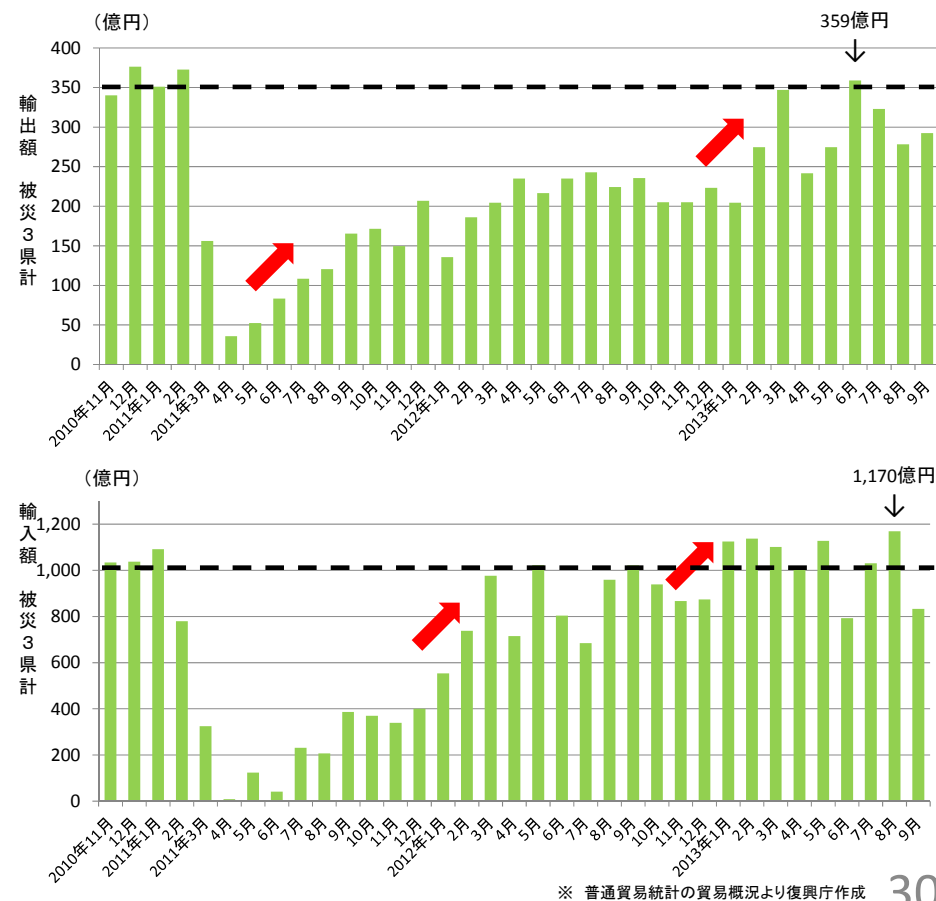
(2) 大型小売店販売額

被災3県の大型小売店販売額(「百貨店」及び「スーパー」の販売額を合計したものは、震災後回復し、2011年7～9月期以降は全国より高い水準で推移している。



(3) 輸出額・輸入額

岩手県、宮城県及び福島県に所在する税関官署で通関された輸出額及び輸入額は、震災後大きく落ち込んだものの、2013年には震災前の水準にまで回復しつつある。

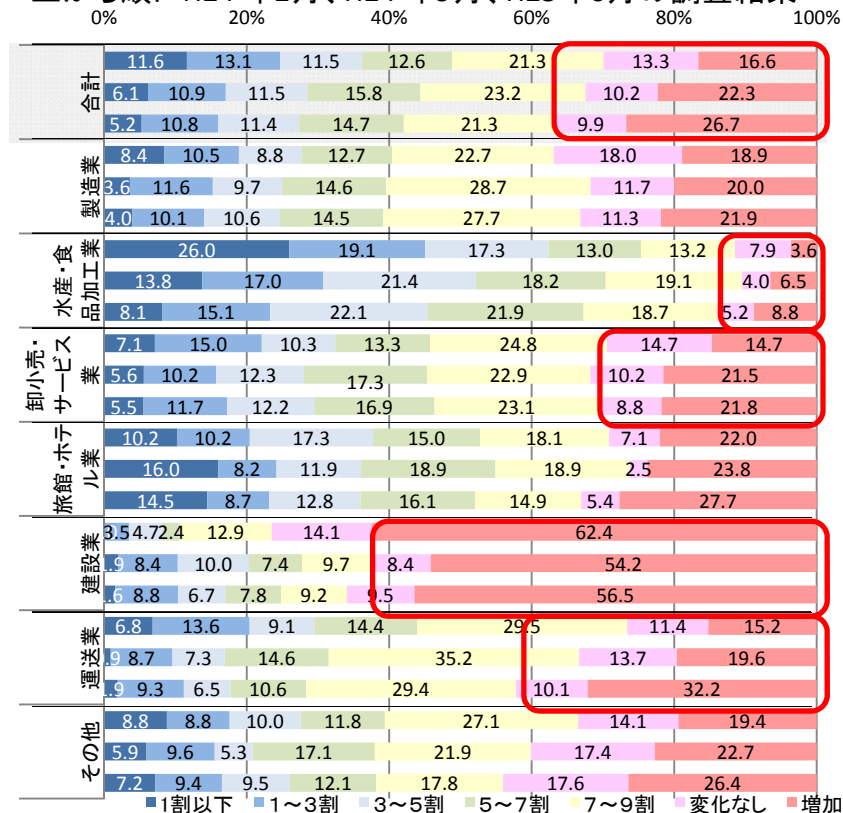


2-13 産業の復旧・復興の状況④

- グループ補助金交付先アンケートでは、現在の売上げ状況が震災直前の水準以上まで回復していると回答した企業の割合は、36.6%。
- 業種別に見ると、震災直前水準以上に売上げが回復しているという割合が最も高いのは建設業(66.0%)、次いで運送業(42.3%)。最も低いのは、水産・食品加工業(14.0%)、次いで卸小売・サービス業(30.6%)
- 平成24年度(1~12月期)の被災3県の工場立地件数は、前年度より31件増(+48%)の95件。

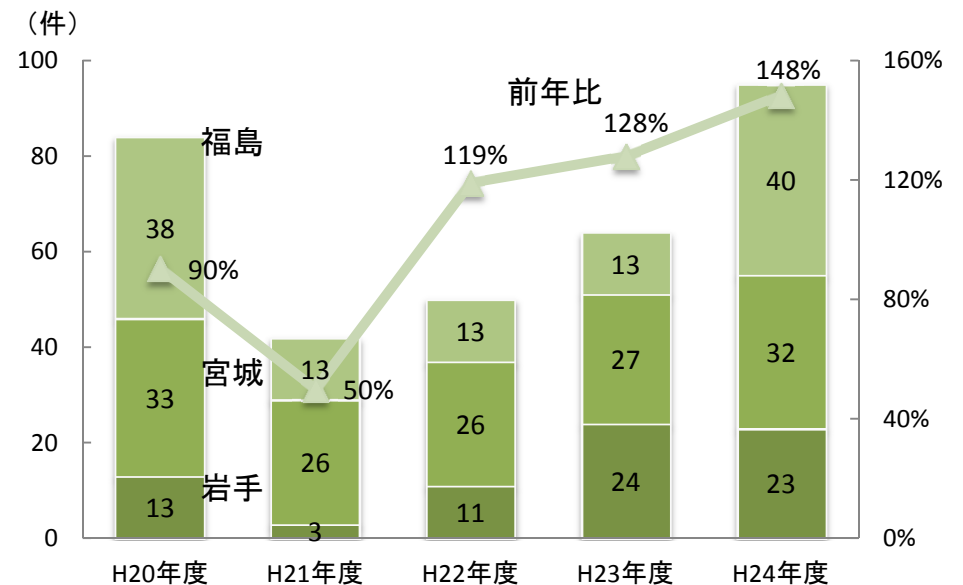
グループ補助金交付先アンケート調査

上から順にH24年2月、H24年9月、H25年6月の調査結果



(資料:東北経済産業局調査を元に復興庁作成)

被災3県の企業立地件数の推移



(資料:東北経済産業局 工場立地動向調査)

2-14 産業の復旧に向けた取組①（グループ補助金）

地域経済の核となる中小企業等グループの施設・設備の復旧を支援（グループ補助金3/4補助）。
 なお、中小零細企業の個社支援は、各県が1/2補助を実施。

～グループの要件～

- ①経済取引の広がりから、地域の基幹である産業・クラスター、②雇用・経済の規模の大きさから重要な企業群、③我が国経済のサプライチェーン上、重要な企業群、④地域コミュニティに不可欠な商店街等

グループ補助金の実績（25年8月9日現在）

（県が計画認定、国1/2と県1/4補助。国費は、H23補正1503億円、H24・500億円、H24予備費801億円、H25・250億円）

これまで537グループに対し、国費2,762億円（県費とあわせて4,144億円）を支援。

	グループ	補助金 交付者数	補助総額	うち国費
北海道	6グループ	36事業者	10億円	6億円
青森県	10グループ	208事業者	86億円	57億円
岩手県	99グループ	1,185事業者	763億円	509億円
宮城県	162グループ	3,499事業者	2,227億円	1,484億円
福島県	192グループ	2,837事業者	830億円	553億円
茨城県	58グループ	1,432事業者	195億円	130億円
栃木県	1グループ	14事業者	5億円	3億円
千葉県	8グループ	154事業者	28億円	19億円
計	537グループ	9,365事業者	4,144億円	2,762億円

復旧事例

高德海産(石巻市)

23年11月下旬、工場再開。



太平洋セメント(大船渡市)

23年11月、セメント製造再開。大船渡市及び陸前高田市のガレキ等の処理も実施。

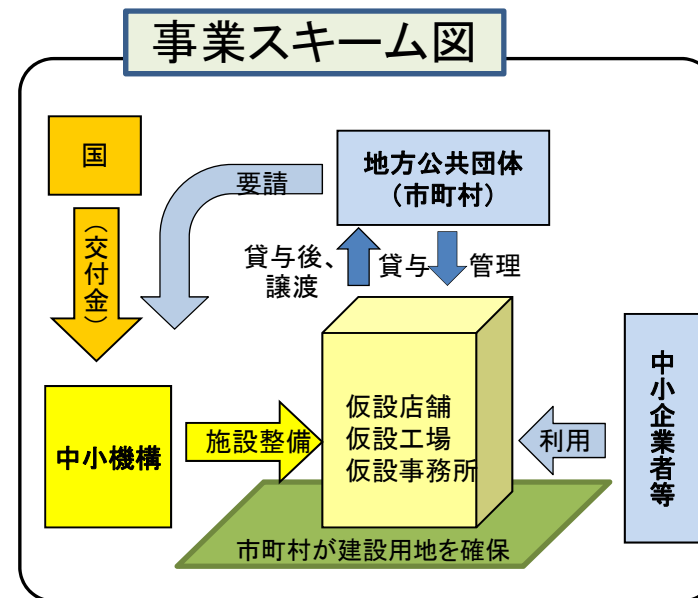


2-14 産業の復旧に向けた取組②（仮設店舗等）

（独）中小企業基盤整備機構が自治体からの要望を受け、仮設施設を整備し、自治体に無償貸与、その後1年以内に自治体に無償譲渡。現在、仮設商店街、仮設工場等に利用。

仮設店舗・工場等の整備実績（25年9月6日）
（H23補正計273.6億円、H24・50億円、H25・30億円）

	要望箇所数	うち基本契約締結箇所数		
		うち基本契約締結箇所数	うち着工箇所数	うち完成箇所数
青森県	18	18	18	18
岩手県	345	342	342	337
宮城県	135	134	134	133
福島県	58	53	52	48
茨城県	1	1	1	1
長野県	1	1	1	1
合計	558	549	548	538



南町紫市場(気仙沼市)

津波被害を受けた南町商店街等の被災事業者を対象に整備した、最大規模の仮設商店街。

(23年12日オープン)



浜風商店街(いわき市)

津波被害が激しい市北部の久之浜地区の被災事業者等を対象に整備した、初の仮設商店街。

(23年9月オープン)



いわき四倉中核工業団地(いわき市)

72社分の仮設工場等が事業再開。23年11月以降、順次完成。



福幸きらり商店街(大槌町)

23年12月、40店舗が同商店街で営業再開。



2-14 産業の復興に向けた取組③（企業立地）

- 被災地の企業立地を促進し産業の復興を加速するため、福島県向け、その周辺地域向け、津波・原子力災害被災地向けの企業立地補助金を創設。
- 平成25年度上期までに、累計597件、補助予定額2,713億円の案件を支援。

■ がんばろうふくしま産業復興企業立地支援事業

（平成23年度3次補正予算：1,700億円、
平成24年度予備費：402億）

- ・対象地域：福島県
- ・採択件数：380件
- ・補助予定額：1,932億円

■ 原子力災害周辺地域産業復興企業立地補助金

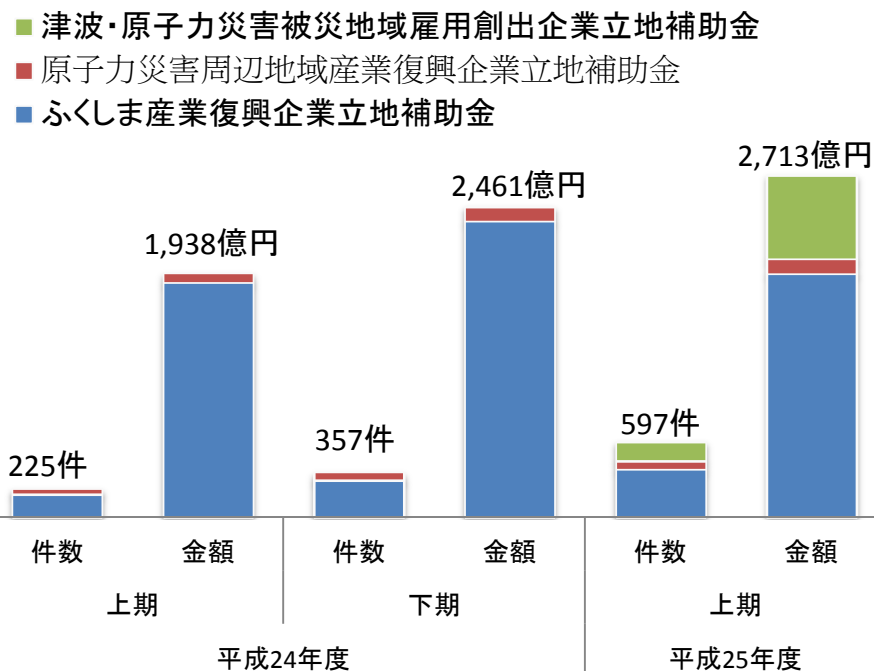
（平成24年度予算：140億円）

- ・対象地域：宮城県、栃木県、茨城県
- ・採択件数：66件
- ・補助予定額：115億円

■ 津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金（平成25年度予算：1,100億円）

- ・対象地域：原子力災害被災地域、津波浸水地域
- ・採択件数：151件
- ・補助予定額：666億円

企業立地補助金の累積採択件数と補助予定額



※累次の公募採択実績を加算。
便宜上、採択後の取り下げ等は最新期で調整。

資料：各県及び経済産業省の公表資料を元に復興庁にて作成

2-14 産業の復興に向けた取組④ (水産業)

- 水産を構成する各分野を広く見渡し、地元の意向を十分に踏まえ、全体として我が国水産の復興を推進。
- 被害を受けた漁業者等に対し、漁船や定置網などの漁具の導入費や冷凍冷蔵施設などの整備費を補助するほか、経営再建に必要な経費を助成。

漁船などに被害を受けた漁業者のために、漁業協同組合などが漁船、定置網などの漁具を導入する場合に、国は、事業費の1/3を補助し、あわせて都道府県が事業費の1/3以上を補助。

＜共同利用漁船等復旧支援対策事業＞

(平成23年度補正予算387億円、平成24年度当初予算39億円、平成25年度当初予算29億円)

被災した漁業者等の共同利用施設(荷さばき施設、加工処理施設、製氷貯氷施設、養殖施設、放流用種苗生産施設等)や漁港環境の復旧に必要な施設を整備する場合、国が事業費の2/3、又は半額を補助。

＜水産業共同利用施設復旧整備事業＞

(平成23年度補正予算731億円、平成24年度当初予算100億円、平成25年度当初予算82億円)

地域の漁業者、養殖業者などが、新しい操業形態の導入や養殖業の共同化など、安定的な水産物の生産体制を構築する場合、必要な経費(人件費、燃油費、販売費など)について、水揚げ金額では賄えない部分の9/10、2/3、又は半額を国が支援。

＜がんばる漁業・養殖業復興支援事業＞

(平成23年度補正予算805億円、平成24年度当初予算103億円)

共同利用漁船等復旧支援対策事業の実績

	漁船	定置網
○北海道	22隻	
○青森県	82隻	9ヶ統
○岩手県	6,025隻	187ヶ統
○宮城県	2,518隻	48ヶ統
○福島県	148隻	
○茨城県	2隻	1ヶ統
○富山県	7隻	
○三重県		6ヶ統

※H25年9月末時点復旧数
 ※「ヶ統」とは、定置網を数える単位

活用事例



採介藻漁船(岩手県宮古市)

平成23年7月、漁協から漁業者に引渡

※船上からヤス等を用いて貝類や海藻を採捕するための漁船

水産業共同利用施設復旧整備事業の交付実績

○北海道	3件	5億円
○岩手県	264件	315億円
○宮城県	197件	261億円
○福島県	4件	1.2億円
○茨城県	1件	5億円
○千葉県	3件	0.3億円

※H25年10月末時点
 ※件数は事業計画の数

活用事例



製氷・貯氷施設(宮城県気仙沼市)

平成24年3月交付決定。

平成24年10月中旬から稼働開始。

がんばる漁業支援事業の実績

○北海道	9業者	○茨城県	4業者
○青森県	3業者	○千葉県	3業者
○岩手県	7業者		
○宮城県	47業者		
○福島県	3業者		

※H25年10月末時点

活用事例



さんま棒受網漁船(岩手県大船渡市)

平成23年12月、計画認定。平成24年10月から事業開始。

2-14 産業の復興に向けた取組⑤ (観光業)

- 太平洋沿岸エリア及び福島県の旅行需要の回復と、滞在交流型観光の実現に向けた支援を実施する「東北地域観光復興対策事業」や、東北・北関東を訪問することにより復興を応援する「東北・北関東への訪問運動」を実施。
- 福島県における早期の観光復興を最大限に促進するため、同県が実施する風評被害対策及び震災復興に資する観光関連事業を支援。
- 引き続き、放射能不安を払拭するための正確な情報発信を行うとともに、東北・北関東への訪日外国人旅行を促進するため、メディア招請等を効果的に実施。

東北地域観光復興対策事業

- ・復興の基盤が整いつつある太平洋沿岸エリアにおいて、復興のプロセスと連動して人的交流の促進を図るため、必要な受入体制の整備を行うとともに、震災の記憶を風化させることなく来訪者に伝える仕組みの構築等を実施。

東北・北関東への訪問運動

- ・東日本大震災から1年が経過した平成24年3月から、官民が一体となって、東北・北関東を訪問することにより、東北・北関東の復興を応援することを目的として実施。

福島県における観光関連復興支援事業

- ・福島県が実施する風評被害対策及び震災復興に資する観光関連事業を支援。

ビジットジャパン事業による風評被害対策

- ・正確で海外消費者の目線に立った情報の発信。
- ・東北・北関東への訪日外国人旅行を促進するため、メディア招請や旅行会社との共同広告などを効果的に実施。

これまでの取組

東北観光博

- ・ポータルサイトを通じた一元的な情報発信の実施。
- ・30箇所のゾーン等が主体的に旬の観光情報を掲載。



東北・北関東への訪問運動

- ・平成25年6月10日現在、賛同団体として各省庁49事業、民間企業等63団体を観光庁HPに登録。

ビジットジャパン事業による風評被害対策

- ・メディア招請の取組事例（韓国）
【KBS生き生き情報通】において、築地市場の寿司屋を取り上げ、食の安全等について発信。



東北・北関東インバウンド再生緊急対策

- ・商談会等の取組事例（バンコク）
【観光復興PRイベント】平成24年8月19日
【商談会】平成24年8月17日
来場者数：約5,000人
日本側11団体、現地旅行会社69団体が参加

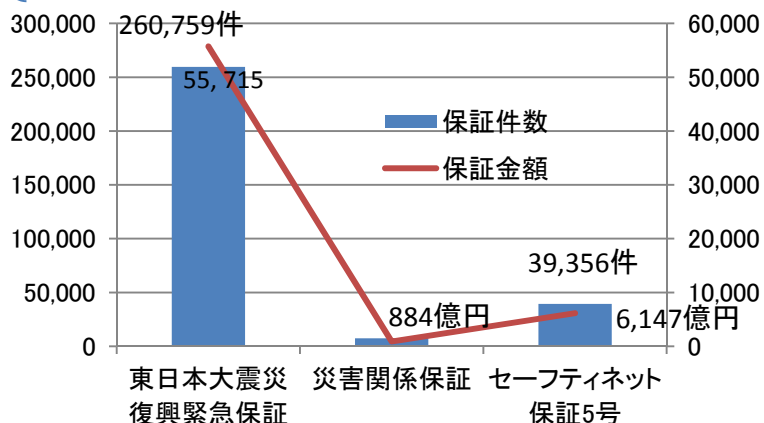


2-15 被災事業者に対する資金繰り対策

中小・小規模事業者向けの融資・保証として、東日本大震災復興特別貸付260,759件、東日本大震災復興緊急保証100,056件(H23年5月23日～H25年10月31日)。農林漁業者向けの融資については6,563件貸付決定、保証については2,079件(H23年5月2日～H25年8月30日)。

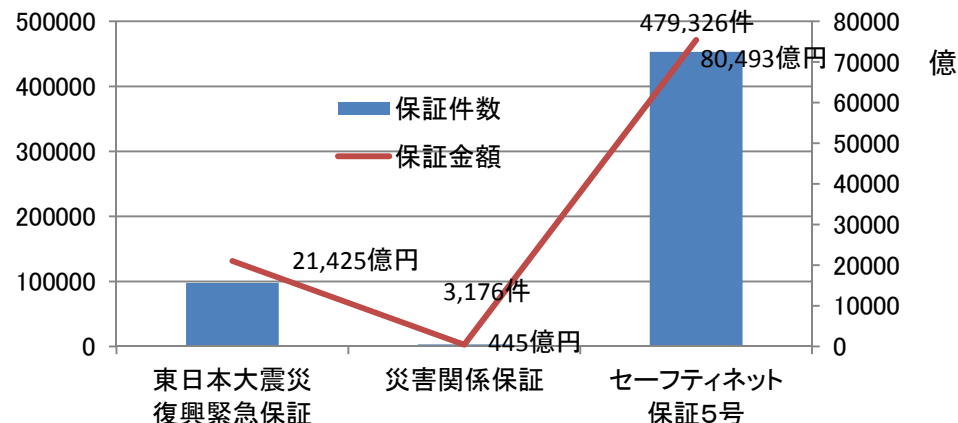
中小・小規模事業者向け融資

東日本大震災復興特別貸付 H23年5月23日～H25年10月31日
 災害復旧貸付 H23年3月14日～H23年5月22日
 セーフティネット貸付 H23年3月14日～H23年5月22日



中小・小規模事業者向け保証

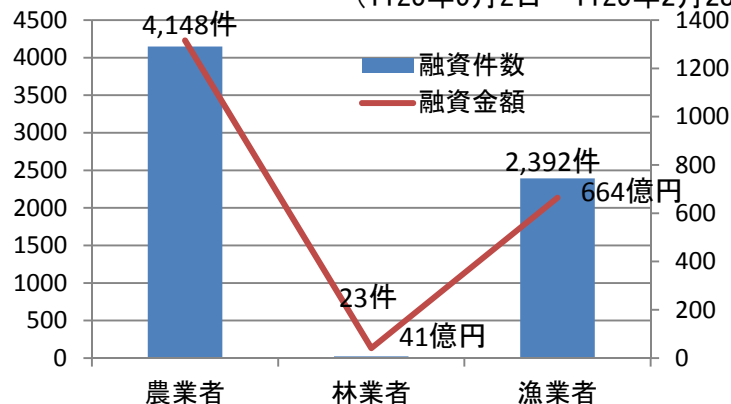
東日本大震災復興緊急保証 H23年5月23日～H25年10月31日
 災害関係保証 H23年3月14日～H25年10月31日
 セーフティネット保証5号 H23年3月14日～H24年10月31日



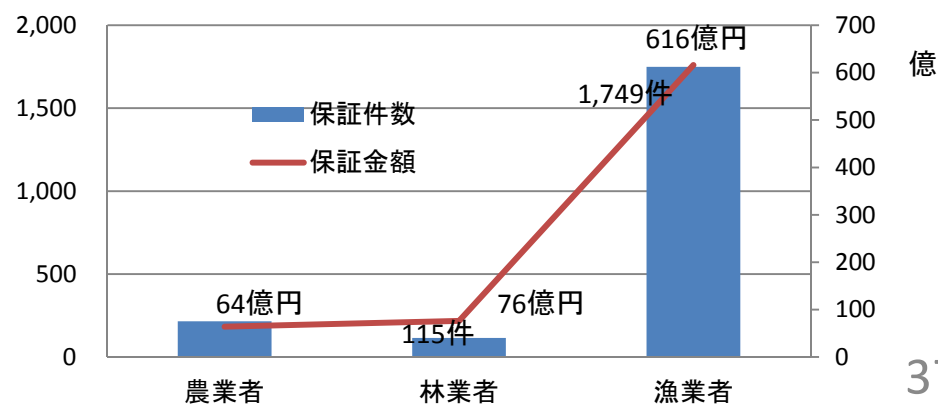
出典: 中小企業庁HP「東日本大震災後の資金繰り支援策の実施状況」(<http://www.chusho.meti.go.jp/kinyu/shikinguri/earthquake2011/index.htm>)

農林漁業者向け融資(貸付決定済)

(H23年5月2日～H25年2月28日)



農林漁業者向け保証(H23年5月2日～H25年2月28日)



2-16 中小企業者等の二重ローン問題への対応

○ 中小企業者等の二重ローン問題については、震災支援機構及び産業復興機構が連携して対応。

被災事業者（震災により過大な債務を負っている事業者）

各県の産業復興相談センター/ 産業復興機構

○支援対象
中小企業者等
・被災各県に設置され、各県の
実情に応じた対応を実施

（出資金※）

岩手産業復興機構（23年11月11日設立）：100億円
宮城産業復興機構（23年12月27日設立）：100億円
福島産業復興機構（23年12月28日設立）：100億円
茨城産業復興機構（23年11月30日設立）：50億円
千葉産業復興機構（24年3月28日設立）：20億円

※出資約束金額総額ベース

連携/案件の引継ぎ

**東日本大震災
事業者再生支援機構
（震災支援機構）**

○支援対象
産業復興機構による支援の
対象とすることが困難なもの
・小規模事業者、農林水産事業者、
医療福祉事業者を重点的な対象とする

資本金：200億円
債権買取資金：5,000億円（政府保証枠）
対象地域：岩手、宮城、福島各全県その他、北海道、青森、茨城、栃木、埼玉、千葉、新潟、長野、群馬、東京、静岡の各都道府県の一部市町村
（14都道府県、351市町村）

【両機構の実績】

○産業復興相談センター・機構（11月22日現在）

	岩手県	宮城県	福島県	その他	合計
相談件数	469	883	676	606	2,634
震災支援機構への引継	42	98	22	11	173
金融機関等による金融 支援の合意	123	125	48	136	432
うち買取決定数	87	70	26	19	202

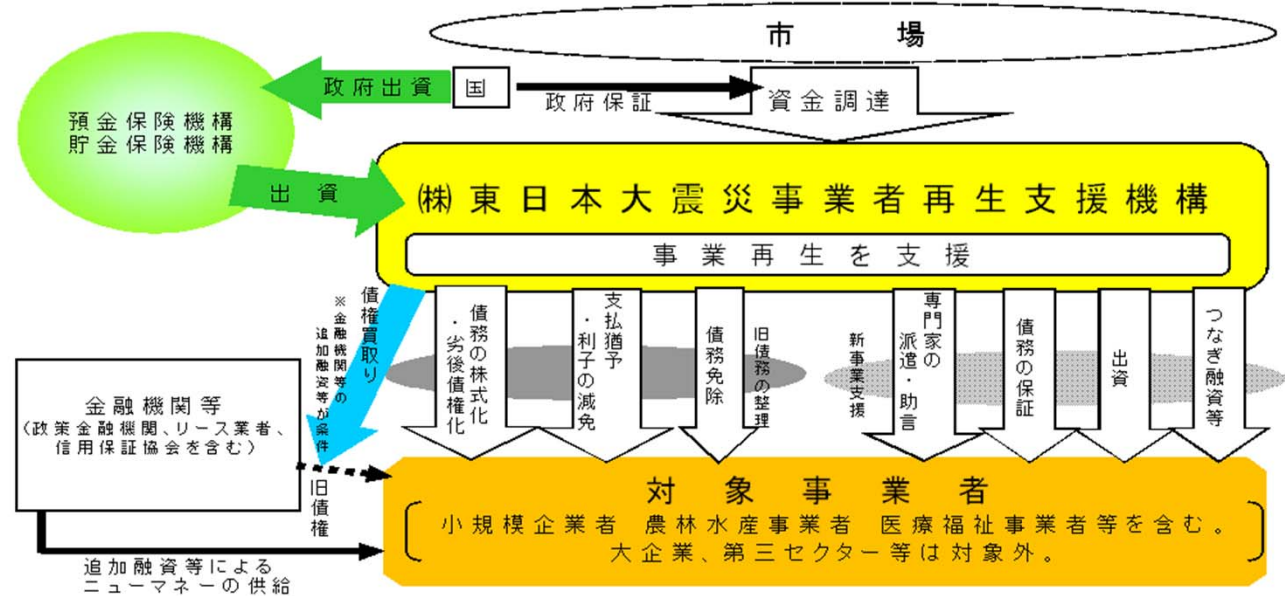
○震災支援機構（11月22日現在）

	岩手県	宮城県	福島県	その他	合計
相談件数	330	745	225	297	1,597
最終調整中	49	79	34	57	219
支援決定数	83	155	25	49	312

2-16 (参考) 東日本大震災事業者再生支援機構及び 産業復興相談センター・産業復興機構の概要

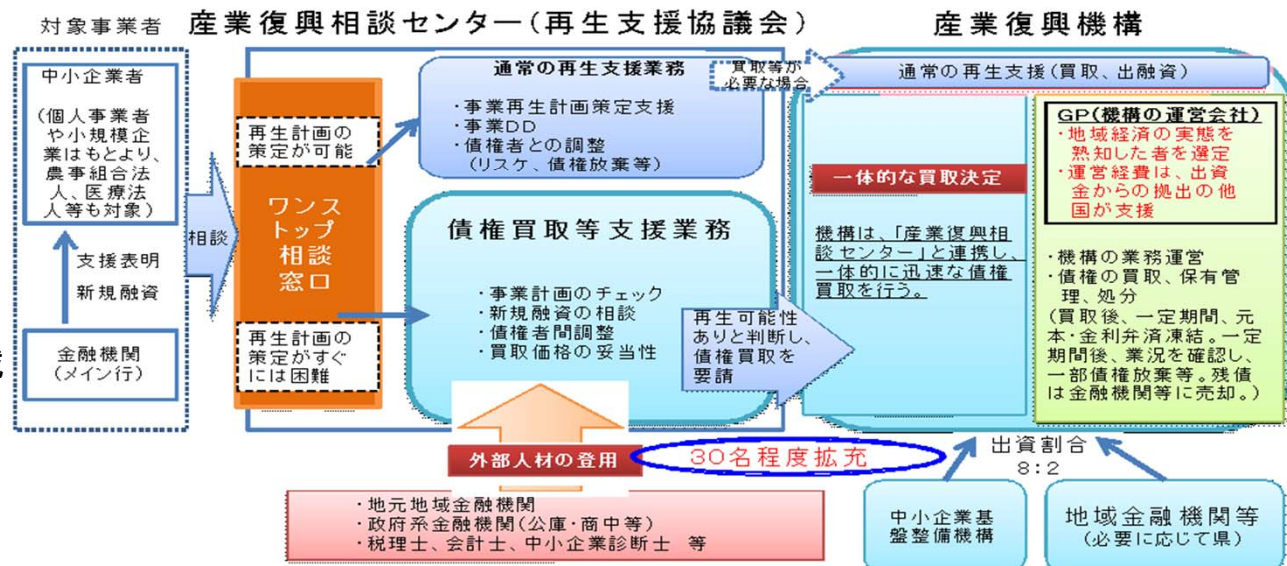
○東日本大震災事業者再生支援機構

株式会社東日本大震災事業者再生支援機構法に基づき設立され、平成24年3月5日より業務開始。金融機関等からの債権買取や被災事業者に対する出資、事業再生の専門家の派遣等を通じて、震災により被害を受けた中小企業等の再生を支援。
対象地域は、14都道県321市町村。



○産業復興相談センター／ 産業復興機構

被災県(岩手・宮城・福島・青森・茨城・千葉)において、二重ローン問題に関する相談窓口となる産業復興相談センターを設置するとともに、債権買取等を行う産業復興機構(岩手・宮城・福島・茨城・千葉)を設立し、被災事業者の事業再生を支援。



2-17 雇用の状況

※平成25年10月末時点



復興庁

Reconstruction Agency

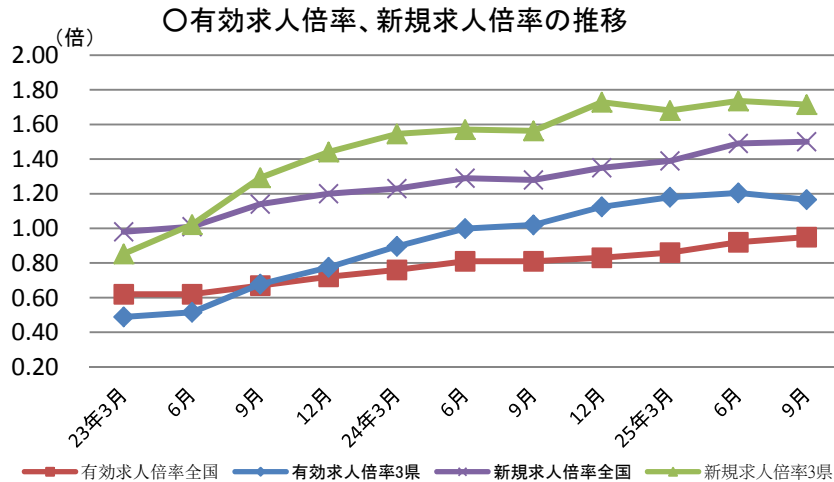
○被災3県の雇用情勢は、全体として落ち着いてきているものの、沿岸部については人口減少等により震災前の水準まで回復していない地域もある。また、建設業などについてミスマッチの解消が課題。
 ○地域の基幹産業である食料品製造業(水産加工業)等について、求人への充足に努める。

・被災3県全体では、労働力の需給の状況は改善。

有効求人数：約12.5万件、有効求職者数：約10.7万人(※23年3月約12.5万人)、新規求人数：依然高水準(約4.8万件)、新規求職者数：減少傾向(約2.8万人)

・就職は進んでいる。

就職件数：23年4月～25年9月で36.8万人が就職。



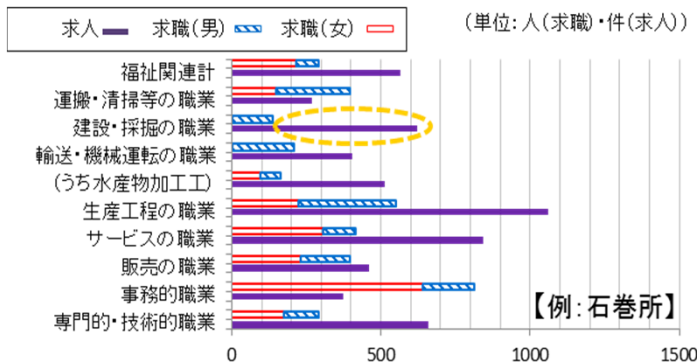
○雇用保険被保険者数の推移

雇用保険の被保険者数(雇用者数)を見ると、全体としては震災前の水準まで回復しているが、産業別で見ると食料品製造業(水産加工業)で回復していない地域が見られる。

※単位(人)。前年比、3年前との比は(%)

○課題=ミスマッチ等

震災前と比較して建設業求人が増えているが、未経験者が就職困難。



		25年9月	前年比	3年前との比	24年9月	22年9月	
3県計	産業計	1,561,023	2.0	3.4	1,531,049	1,509,395	
	うち食料品製造業	55,550	1.4	▲10.6	54,762	62,149	
	岩手県	産業計	356,446	1.3	3.7	351,990	343,866
	うち食料品製造業	17,802	0.1	▲8.9	17,780	19,538	
	大船渡	産業計	16,199	7.3	▲0.1	15,103	16,219
	うち食料品製造業	2,196	15.9	▲24.7	1,894	2,915	
	宮城県	産業計	672,169	2.0	4.3	659,304	644,320
	うち食料品製造業	23,696	1.5	▲14.6	23,344	27,750	
	石巻	産業計	41,966	6.0	0.4	39,597	41,812
	うち食料品製造業	3,623	8.5	▲30.9	3,339	5,243	
気仙沼	産業計	16,734	5.7	▲9.1	15,837	18,414	
うち食料品製造業	2,113	13.9	▲45.9	1,855	3,907		
福島県	産業計	532,408	2.4	2.1	519,755	521,209	
うち食料品製造業	14,052	3.0	▲5.4	13,638	14,861		

2-18 雇用確保に向けた取組み

被災地における雇用対策

- 産業政策と一体となった雇用創出やミスマッチ(職種や産業などの求人と求職がかみあわない状況)の解消により、被災3県の被災者の就職支援を推進。
 - ・ 震災後は、被災者の雇用の継続や、雇用創出基金なども活用し、復旧事業を通じた雇用創出などを推進。
(震災等緊急雇用対応事業により、被災3県で約3万7千人超(平成24年度実績)の雇用機会を創出等。)
 - ・ 地域経済の再生復興のための産業政策と一体となって、本格的な安定雇用の創出に向け、雇用創出基金などを活用した雇用支援を推進。(※ 被災地の本格的な雇用復興を図る「雇用復興推進事業」のための基金:約1,510億円)
 - ・ 雇用のミスマッチ解消のため、きめ細かな就職支援や職業訓練を実施。

事業復興型雇用創出事業

《概要》

国や地方自治体の補助金・融資(新しい事業や地域の産業の中核となることが期待される事業を対象にするもの。)の対象となっている事業などを実施する事業所に対し、産業政策と一体となった雇用面での支援を行う。

・助成内容

1人当たりの助成額225万円(3年間)

《実績》

(被災3県) 13,741人(24年度)

《雇用計画数》

(被災3県) 50,406人(25年度)

ハローワークの就職支援

《概要》

産業政策や復旧・復興需要で生じる求人をハローワークで開拓・確保するとともに、担当者制等により、個々の求職者に応じたきめ細かな職業相談の実施や、職業訓練への誘導を行う。

また、水産加工業の求人の充足については、工場見学会を実施するなどして、人材の充足につなげている。

《実績》(被災3県)

・23年4月～25年9月

36万人以上の就職支援

・避難所、仮設住宅等への出張相談

職業訓練の機動的拡充・実施

《概要》

介護、情報通信等の職業訓練コースの他、建設機械の運転技能を習得する特別訓練コースを設定する。

《実績》(被災3県)

・24年度開講コースの受講者数 11,421人

・特別訓練コースの受講者数 468人

(岩手・宮城・福島県の訓練実施状況)



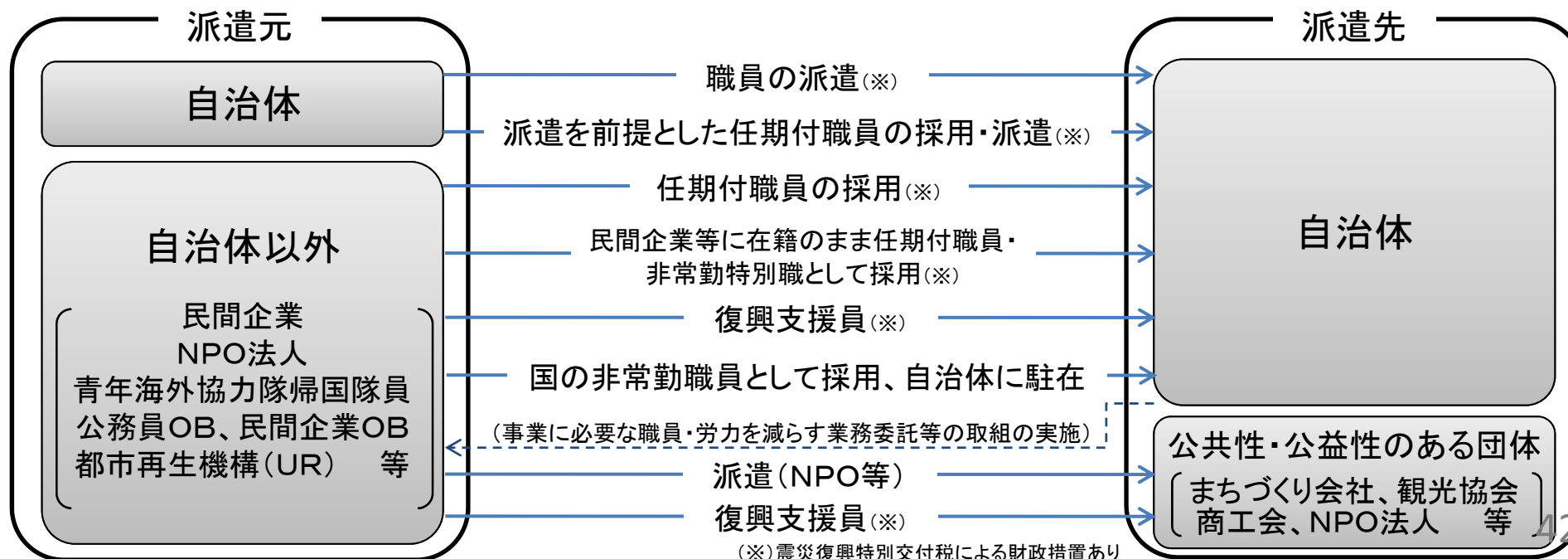
特別訓練コースの実施
(岩手県宮古市)

2-19 被災自治体等の職員確保等に向けた取組①



- 全国の自治体から被災自治体へ派遣されている職員は2,056人。(25年5月14日時点)
- 被災市町村における更なる要請数は162人。(25年11月時点)
- 全国の自治体からの職員派遣の更なる強化に加え、公務員OB、民間実務経験者、青年海外協力隊帰国隊員等を活用するとともに、都市再生機構(UR)の現地の人員体制の強化などの対応を推進。
 - ・民間企業等の人材の採用手続及びこれに伴う財政措置の周知の実施(25年3月1日付けで通知)
 - ・市町村に駐在させている復興庁職員 : 130人(25年12月1日現在)
 - ・URの現地支援体制 : 325人(25年12月1日時点)
- 併せて、被災自治体の事務負担を軽減するために、発注方法の工夫(CM方式の導入等)や、事務のアウトソーシング(土地買収関連業務の補償コンサルタントへの委託等)など、事業実施に必要な職員やその労力を減らす取組を推進。

被災自治体等の人材確保の手法



2-19 被災自治体等の職員確保等に向けた取組②



○被災自治体への地方公務員の派遣状況（平成25年5月14日時点（総務省調べ））

（単位：人）

派遣先 派遣元	岩手県			宮城県			福島県			千葉県			合計		
	県庁	市町村		県庁	市町村		県庁	市町村		県庁	市町村		県庁	市町村	
都道府県	267	161	106(79)	502	251	251(167)	264	211	53(34)	1(1)	0(-)	1(1)	1,034(281)	623(-)	411(281)
政令指定都市	78	8	70(-)	144	2	142(2)	5	2	3(-)	0(0)	0(0)	0(0)	227(2)	12(0)	215(2)
市区町村	207	0	207(53)	450	0	450(21)	135	2	133(0)	3(3)	2(2)	1(1)	795(77)	4(2)	791(75)
合計	552	169	383(132)	1,096	253	843(190)	404	215	189(34)	4(4)	2(2)	2(2)	2,056(360)	639(2)	1,417(358)

※（ ）内の人数は、同一県内における派遣（例 岩手県庁から県内各市町村への派遣）に係る人数で、内数である。

○復興支援員の状況

被災者の見守りやケア、地域おこし活動の支援等の「復興に伴う地域協力活動」を通じ、コミュニティ再構築を図ることを目的に、被災地方公共団体が、復興計画やそれに基づく要綱等を根拠とし、被災地域内外の人材を委嘱。

（平成24年度の取組事例）

団体名	人数	活動内容等
岩手県（県事業）	15名	・陸前高田市、宮古市、岩泉町、軽米町、住田町、洋野町、葛巻町、野田村、九戸村において、復興事業の企画運営、商店街の活性化、仮設住宅支援等に従事。
宮城県（県事業）	35名	・東松島市、石巻市、南三陸町、仙台市等において活動中。 ・観光まちづくり、産業振興、伝統文化行事の再開、子育て支援等に従事。
宮城県気仙沼市	13名	・仮設住宅における自治会の運営支援等に従事。
宮城県多賀城市	2名	・被災地のコミュニティ再形成に従事。
宮城県東松島市	3名	・被災者の生活支援、見守り・ケア等に従事。
福島県浪江町	7名	・町外の避難者支援、コミュニティ形成に従事。
福島県富岡町	3名	・町外避難者の支援、コミュニティ形成に従事。

2-20 企業連携の推進

○ 被災地での産業を振興するため、復興庁では、民間企業と被災自治体の連携（企業連携）を促し、被災地域企業の経営力強化や新規投資等を支援している。

- ・制度説明会等の開催、事例集の作成等の情報発信や、企業間連携を生み出す対話の場を提供。
- ・国・被災自治体・民間事業者等が参加する新商品開発や事業パートナー探しを支援。

情報発信

- 民間企業の復興事業参加を促進するため、国内外で復興の現状に係る企業向け説明会等を実施。企業による研究会等とも連携。
- メールマガジンを発行し、定期的に情報提供。
- 企業による復興事業事例集を作成・公表。



平成24年7月に開催された復興支援・対日投資フォーラム(米国)の様子

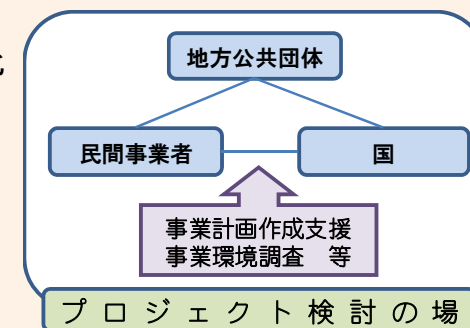


「被災地での55の挑戦—企業による復興事業事例集—」平成25年4月

個別プロジェクト事業化支援

国・被災自治体・民間事業者等が参加するプロジェクトの事業化（新商品開発や事業パートナー探し）を支援。

【支援実績】
平成24年度は7件のプロジェクトを検討支援。



地域復興マッチング「結の場」

被災企業の抱える課題を解決するため、大手企業等の経営資源とのマッチングを行う「結の場」を開催。

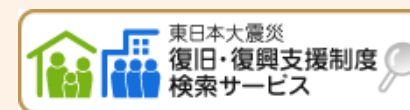
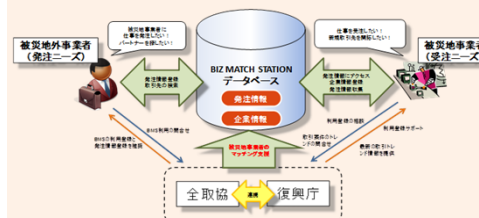


【開催実績】

- 平成24年11月28日石巻市（共催：石巻商工会議所）
- 平成25年 2月13日気仙沼市（共催：気仙沼商工会議所）
- 平成25年11月7日南三陸町（共催：南三陸商工会）

インターネットを活用した事業者支援

- (財)全国中小企業取引振興協会が運営するビジネスマッチングサイトと連携して、被災事業者の販路開拓等のマッチングを支援。
- 復興庁が運営する「復旧・復興支援制度データベース」により、事業者が活用可能な各省庁及び自治体の支援制度の情報を提供。



復旧・復興支援制度データベース
URL:<http://www.r-assistance.go.jp>44

2-21 ボランティア・公益的民間連携

- NPO等のボランティア活動に対する被災地のニーズが多様化している中、ボランティア活動のニーズとその果たしている役割は依然として大きい。
- 多様なニーズに柔軟に対応するため、行政・民間それぞれの多様な担い手が連携して取り組む必要がある。
- このため、NPO、ボランティア団体等が活動を円滑に進めるために必要な情報の提供や連絡調整、震災ボランティアの啓発・普及等を行っている。

1. 体制

- NPO等に精通した民間出身の非常勤職員の知見を活用するとともに、岩手・宮城・福島の各復興局に「ボランティア・NPO等担当」を配置

2. 役割

- 政府の取組に関し、NPO等への情報提供
- 復興に当たって行政・民間それぞれの多様な担い手の連携促進と、連携事例の収集・情報提供
- ボランティア活動全般の促進
- NPO等の活動に係る制度・手続きに関し、関係府省との相談・調整

3. 主な取組内容

情報提供

- NPO等が息の長い支援活動を行えるよう、活用可能な政府の財政支援策を取りまとめ、被災3県での説明会や全国のNPO等が集まる会議等で周知。



平成25年2月に開催された説明会（いわて連携復興センター主催）

多様な担い手の連携促進

- 行政・民間それぞれの多様な担い手が連携して復興にあたるために参考となる「ロードマップ」を作成し、NPO等やその中間支援組織に説明。
- また、「多様な担い手による連携事例」を公表・周知。



「ロードマップ」及び「連携事例(第2版)」

ボランティア活動全般の促進

- ボランティア活動に携わる方々に、被災された方に寄り添う気持ちを持ち続け、被災地で更に活躍してもらうため、学生等に向けたキャンペーンやNPO等に向けたメッセージを発信。



「東北に行ったよ。～この夏も、ボランティアに行こう!～」キャンペーン

- 社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターに登録し活動したボランティア総数（被災3県）

岩手県	宮城県	福島県	3県計
約48万人	約66万人	約17万人	約131万人

- 平成23年3月11日～平成25年9月31日までの累計
- ・その他、NPO等の団体を通じ独自に活動しているボランティアも多数。
- ・発災当初は泥やガレキの撤去、避難所における炊き出し等が活動の中心だったが、その後は地元NPO等を中心に、心のケアやコミュニティづくり支援、さらには復興に向けたまちづくり支援など息の長い取組を展開。

2-22 「新しい東北」の創造に向けて

- 被災地は、人口減少や高齢化等、**今の日本が抱える課題が顕著**。
- このため、単に従前の状態に復旧するのではなく、**復興を契機にこれらの課題を解決し、我が国や世界のモデルとなる「創造と可能性の地」としての「新しい東北」を創造**。

検討経過

- 本年3月から、復興推進委員会で、**5つの柱**を中心に、地域社会の将来像について検討。6月5日に「『新しい東北』の創造に向けて(中間とりまとめ)」を公表。(25年度末を目途に提言を取りまとめ予定。)
- ①元気で健やかな**子どもの成長**を見守る安心な社会
- ②「高齢者標準」による**活力ある超高齢社会**
- ③持続可能なエネルギー社会(**自律・分散型エネルギー社会**)
- ④頑健で高い回復力を持った**社会基盤(システム)の導入**で先進する社会
- ⑤高い発信力を持った**地域資源**を活用する社会

具体的な取組 (平成25年度は復興推進調整費で対応。平成26年度は概算要求中。)

- 「新しい東北」先導モデル事業【10月4日に66件の事業を選定】
幅広い担い手(企業、大学、NPO等)による**先駆的な取組を加速**するための取組。(今年度は460件余りの応募。)
【例】次世代型地域包括ケア、地域課題に応じた津波防災訓練の開発、「旅館」ブランドの再構築、三陸ジオパークの観光資源化 等
- 「WORK FOR 東北」(復興人材プラットフォーム構築事業)【10月から本格的に始動】
被災地が必要とする**人材を、企業等から現地に派遣**するための取組。被災地(派遣先)と被災地外(派遣元)の双方のニーズをマッチング。企業向け説明会や個人向けイベントの開催、情報を共有・発信するウェブサイトの構築。
- リバイブジャパンカップ(起業者への投資促進のためのプラットフォーム構築事業)【12月中旬に展示会、下旬に表彰案件決定】
被災地の**振興を進める事業参加を促進**するための取組。ビジネスコンテストの過程で、専門家による事業化に向けたアドバイスを実施。入選した事業提案の展示会を開催し、事業パートナーの発掘等を側面的に支援。(今年度は約300件の応募。)
- 「新しい東北」官民連携推進協議会【12月中旬頃に協議会を設立予定】
復興に携わる**多様な主体(企業、大学、NPO等)の連携を推進**するため、これらの主体の取組に関する**情報の共有・交換**を進めるための取組。10月25日から会員公募を実施。ウェブサイトやメールマガジン等を活用して効果的に情報の共有・交換を行い、支援のマッチング、様々な主体間の連携、先進的な取組の横展開等のきっかけづくりの場を提供。

避難指示区域等からの避難者数 ※1、※2 **約10.2万人**

※1 平成22年国勢調査及び各市町村からの聞き取りを基に、
原子力被災者生活支援チームで集計(平成25年9月17日時点)

※2 旧緊急時避難準備区域からの避難者も含む

・避難指示解除準備区域	約3.3万人
・居住制限区域	約2.3万人
・帰還困難区域	約2.5万人

・旧緊急時避難準備区域	約2.1万人
-------------	--------

福島県全体の避難者数

(区域からの避難者も含む)

約14.2万人

出典:「福島県公表「平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報(第1073報)」
(平成25年11月19日)」

(1) 福島県内への避難者数 ※3

※3 親類宅等へ避難した自主避難者は含まれていない

約9.2万人

仮設住宅(民間借上げを含む)	約8.7万人
雇用促進住宅等	約0.4万人

(2) 福島県外への避難者数

約5.1万人

山形県	約6.5千人
東京都	約7.2千人
新潟県	約4.8千人
埼玉県	約3.0千人
茨城県	約3.8千人

等 47

2-23 福島県の状況②（避難指示区域の見直し）

○ 以下の市町村において、警戒区域及び避難指示区域について順次見直しを行い、避難指示解除準備区域、居住制限区域及び帰還困難区域を設定。

- ・川内村及び田村市（H24.4.1実施）
- ・南相馬市（H24.4.16実施）
- ・飯舘村（H24.7.17実施）
- ・楡葉町（H24.8.10実施）
- ・大熊町（H24.12.10実施）
- ・葛尾村（H25.3.22実施）
- ・富岡町（H25.3.25実施）
- ・浪江町（H25.4.1実施）
- ・双葉町（H25.5.28実施）
- ・川俣町（H25.8.8実施）

避難指示解除準備区域：

年間積算線量20ミリシーベルト以下となることが確実にあることが確認された地域

居住制限区域：

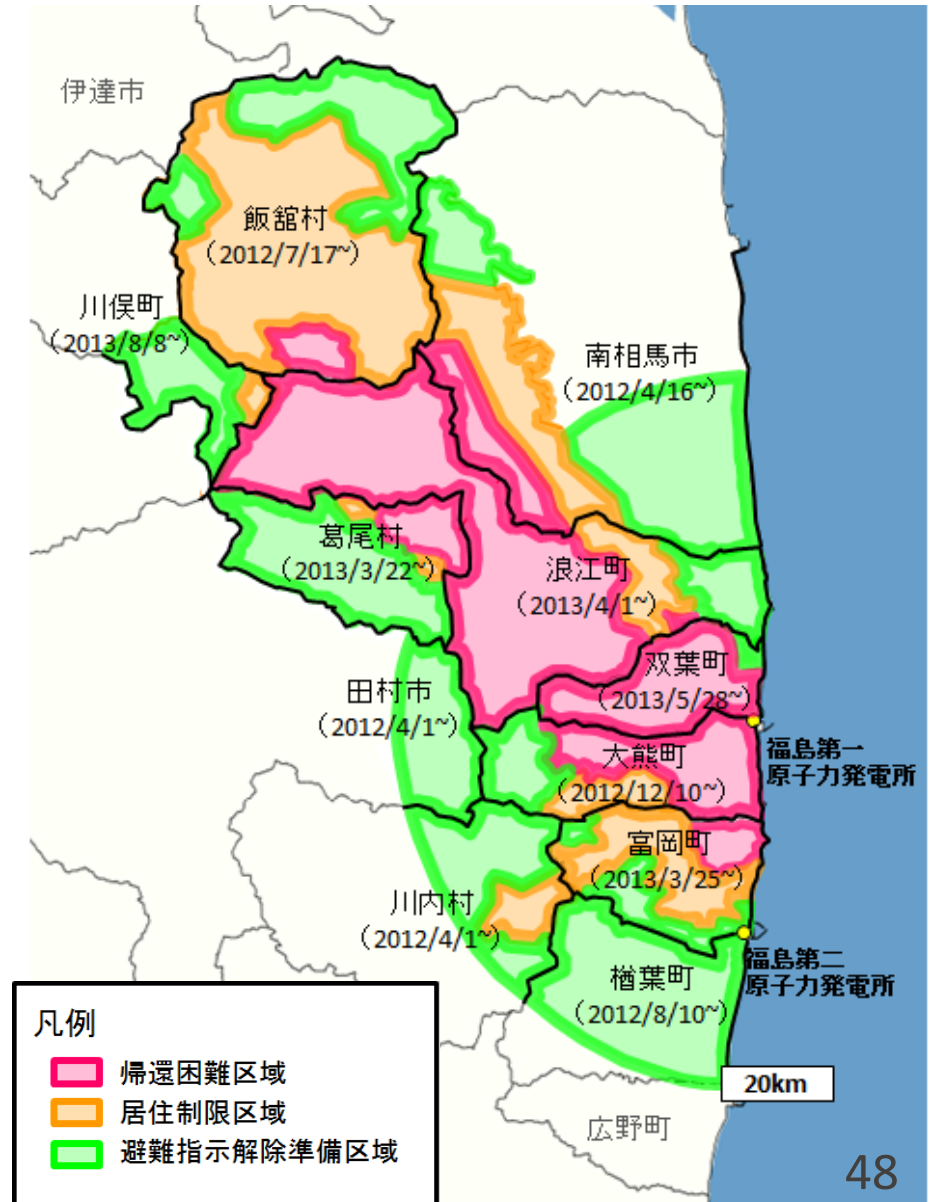
年間積算線量が20ミリシーベルトを超えるおそれがあり、住民の被ばく線量を低減する観点から引き続き避難の継続を求める地域

帰還困難区域：

事故後6年間を経過してもなお、年間積算線量が20ミリシーベルトを下回らないおそれのある、平成24年3月時点で年間積算線量が50ミリシーベルト超の地域

避難指示区域の概念図

平成25年8月8日時点



2-24 福島対応体制の強化について①

復興庁の司令塔機能を強化しつつ、復興大臣トップの、いわゆる『福島・東京2本社体制』とする。

福島

1. 「福島復興再生総局」を設置(2月1日)

- ① 復興大臣をトップとする現地関係政務の体制を整備。
- ② その下に、事務局として、内閣官房参与のほか、復興庁事務次官、環境省、経産省の現地トップ等を配置。
- ③ 除染をはじめ、体制を一元化することにより、復興大臣自ら機動的に統括・指揮し、現地で即断即決。

2. 本庁幹部職員等の福島常駐

内閣官房参与、次官、統括官等トップクラスによる福島常駐。

3. 現地組織の一体運用

福島復興局に、環境再生事務所及び原子力災害現地対策本部の関係職員を集め、復興局に駐在。

福島復興再生総局

総局長 根本 復興大臣(福島原発事故再生総括担当大臣)
 【構成員】 浜田 復興副大臣
 亀岡 復興大臣政務官
 赤羽 原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)
 井上 環境副大臣

事務局

内閣官房参与(事務局長)
 復興庁事務次官
 復興庁統括官、福島復興局長
 原子力災害現地対策本部副本部長(経済産業省)
 福島環境再生事務所長(環境省) 等

福島復興局

福島環境
再生事務所
(除染、廃棄物対策)

原子力災害
現地対策本部
(区域運用、見直し等)

東京

1. 「福島復興再生総括本部」を設置(2月1日)

- ① 復興大臣直轄により政府中枢機能を強化。
- ② 大臣が、関係省庁の局長クラスを直接指揮。

2. 福島対応体制の強化

- ① 福島担当統括官の新設
- ② 内閣府原子力被災者生活支援チーム(避難指示区域の運用・見直しを担当)を復興庁内に移し、福島対応体制を強化。

福島復興再生総括本部

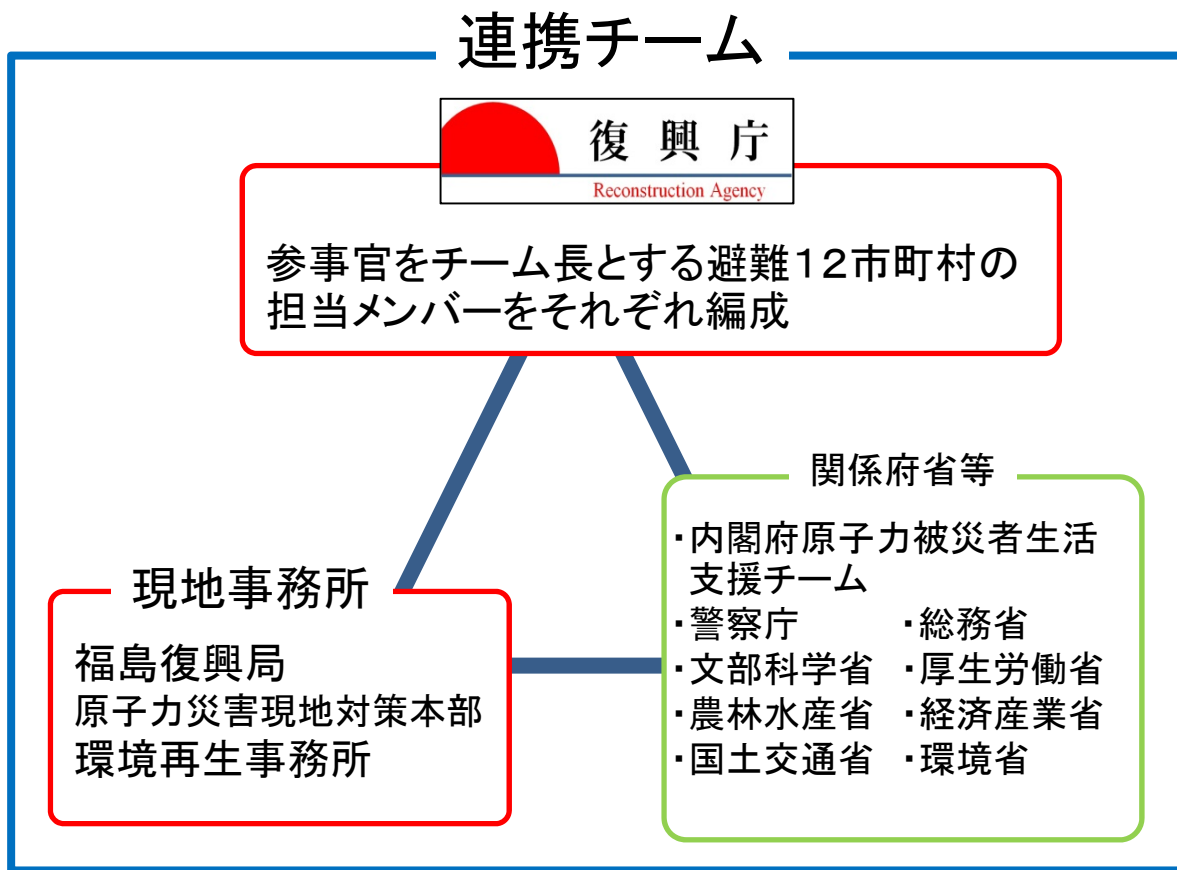
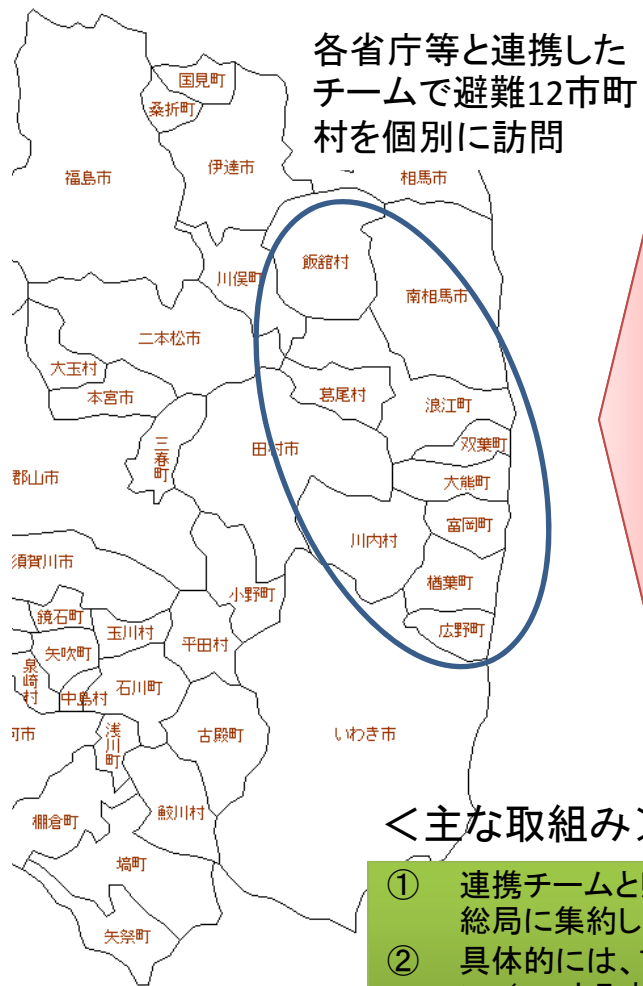
本部長 根本 復興大臣(福島原発事故再生総括担当大臣)

関係省庁(局長クラス)

復興庁、警察庁、内閣府原子力被災者生活支援チーム
 消費者庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省
 経済産業省、国土交通省、環境省、原子力規制庁 等

2-24 福島対応体制の強化について②

復興庁内自治体担当体制を強化するとともに、関係省庁、現地事務所との連携チームを編成し、県と共に個別の市町村の復興計画の具体化・充実を支援



<主な取組み>

- ① 連携チームと県の市町村担当者が、各市町村に出向いて現場の状況把握及び協議を進め、福島復興再生総局に集約し、個別課題の解決、復興の道筋を検討。
- ② 具体的には、市町村が策定した復興ビジョン、復興計画、インフラ工程表等をベースとして、「グランドデザイン」(12市町村共通)も踏まえつつ、市町村ごとの条件に沿った事業の具体化、段取りを検討。
- ③ 協働体制の中で精査された事業については、「避難解除等区域復興再生計画」や各省庁の事業に反映。

2-25 福島復興に向けた予算等 (概要)

23年度予算等	24年度予算等	25年度予算
<p>(1) インフラ整備 ◎東日本大震災復興交付金 1兆5,612億円 等</p>	<p>(1) インフラ整備 ◎東日本大震災復興交付金 2,868億円 ◎災害復旧事業 2,605億円 ◎復興関係公共事業 2,389億円</p>	<p>(1) インフラ整備 ◎東日本大震災復興交付金 5,918億円 ◎災害復旧事業 6,611億円 ◎復興関係公共事業 2,868億円</p>
<p>(2) 産業振興・雇用 ◎グループ補助金、仮設工場・店舗の整備 1504億円</p> <p>○福島県原子力災害等復興基金の創設 【3,840億円程度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な医療センター・開発拠点等の整備及び地域医療の再生 690億円 ・産業復興企業立地補助 1,700億円 ・緊急雇用創出事業基金 800億円 <p>◎既存の制度等を活用した追加的予算措置による機動的対応(再生可能エネルギー導入促進等) 【1,500億円程度】</p>	<p>(2) 産業振興・雇用 ◎グループ補助金、仮設工場・店舗の整備 550億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎農林水産業への支援 422億円 ◎雇用の確保 118億円 ○避難解除等区域生活環境整備事業 42億円 <p>※予備費での対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎グループ補助金 801億円 ○産業復興企業立地補助金 402億円 ○医療機器開発・安全性評価センター整備 134億円 ○福島健康管理拠点の整備 60億円 <p>※補正予算での対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福島県環境創造センター整備 113億円 ○福島県での営農再開支援等 246億円 ○福島産農産物等風評被害対策 13億円 ◎緊急雇用創出事業基金 500億円 	<p>(2) 産業振興・雇用 ◎グループ補助金、仮設工場・店舗の整備 280億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金 1,100億円 ◎農林水産業への支援 319億円 ○避難解除等区域生活環境整備事業 24億円 ○再生可能エネルギー導入支援等(浮体式洋上風力発電の実証研究等) 103億円 ○福島産農産物等風評被害対策 3億円 ○福島県における観光関連復興支援 4億円
<p>(3) 除染・健康管理等 ◎除染の緊急実施 2,179億円 ◎除染等の実施 1,997億円 ○中間貯蔵施設の設置に向けた取組 11億円</p> <p>○福島原子力被災者・子ども健康管理基金の創設(健康管理事業・除染) 962億円 ・全県民を対象とした放射線影響の推定調査 など</p> <p>○福島県原子力被害応急対策基金 404億円 ・子供のリフレッシュキャンプ、学校給食の検査</p>	<p>(3) 除染・健康管理等 ◎放射性物質により汚染された土壌等の除染 3,721億円</p> <p>○中間貯蔵施設の設置に向けた取組 20億円</p> <p>(4) 新たな課題への対応 ※補正予算での対応 【福島ふるさと復活プロジェクト】 ○帰還加速・区域の荒廃抑制 208億円</p>	<p>(3) 除染・健康管理等 ◎放射性物質により汚染された土壌の除染 4,978億円</p> <p>○中間貯蔵施設の設置に向けた取組 146億円</p> <p>(4) 新たな課題への対応 【福島ふるさと復活プロジェクト】 ○帰還加速・区域の荒廃抑制 48億円 ○長期避難者支援 503億円 ○定住にむけた環境整備 100億円</p>

(注)◎についての事業費は被災県の合計であり、その一部分が福島県で実施される。

2-25 福島復興に向けた予算等（平成25年度予算のポイント）

○「福島復興再生基本方針」、総理指示等を踏まえ、復興庁が司令塔となって原子力災害からの福島の復興及び再生を加速的に推進するべく、福島県等からの要望にも配慮した予算を編成。国が全面に立って福島の深刻な諸問題に対応できるよう事業制度を創設するとともに、諸制度の隙間を埋め、機動的に対応する。

1. 福島の復興・再生の加速 〔福島ふるさと復活プロジェクト〕 【652億円（新規等）】

- ①地域の希望復活応援事業 【48億円】(208億円(H24補正予算))
(原災避難区域等帰還・再生加速事業)
帰還支援(生活基盤施設の立ち上げ支援等)、区域の荒廃抑制・保全(除草、廃家屋の撤去等)など様々なニーズにきめ細かく対応するための市町村への新たな支援)
- ②コミュニティ復活交付金 【503億円（新規）】
(長期避難者生活拠点形成交付金)
災害公営住宅、関連する道路・学校施設等の生活拠点の形成のための県・市町村への新たな支援)
- ③子ども元気復活交付金 【100億円（新規）】
(福島定住等緊急支援交付金)
子育て環境の整備(全天候型運動施設の整備、遊具設置等)や子育て世代が定住できる環境整備のための市町村への新たな支援)

2. 復興庁の司令塔機能の強化

- ①復興加速化・福島再生予備費 【6,000億円(4,000億円)】※
(復興大臣の裁量により、事業費の追加や新たなニーズに機動的に対応)
- ②東日本大震災復興推進調整費 【100億円(50億円)】※
(復興大臣の裁量により、諸制度の隙間を埋め、復興に関する調査企画の委託を弾力的に実施)

3. 地域社会の再生(まちの復旧・復興)

- ・東日本大震災復興交付金【5,918(2,868)】※
- ・災害復旧事業【6,611(2,605)】※
- ・災害廃棄物の処理【1,266(3,442)】※

4. 安全・安心な生活環境の実現 【6,466億円(4,617億円)】

- ①除染・放射性廃棄物処理等【6,220億円(4,547億円)】
・放射性物質により汚染された土壌等の除染【4,978(3,721)】※
・放射性物質汚染廃棄物処理事業【971(772)】※
・中間貯蔵施設の設置に向けた取組【146(20)】等
- ②放射線モニタリング・リスクコミュニケーション等【62億円(28億円)】
・モニタリング対策関連交付金【13(-)】(住民のニーズに応じたモニタリングの実施)
・地方消費者行政活性化事業【7(4)】※(食品等の放射性物質検査、消費生活相談等)等

5. 地域経済の再生 【148億円(38億円)】

- ①再生可能エネルギー等の研究開発支援等【135億円(32億円)】
・浮体式洋上風力発電の実証研究【95(-)】
・再生可能エネルギー次世代技術開発事業【3(-)】(福島県内企業等の技術開発への支援)
・市民交流型再生可能エネルギー導入促進事業【5(-)】(福島県内体験型再エネ施設等への補助)
・革新的エネルギー研究開発拠点の形成【13(12)】 (産総研の拠点(郡山)での研究開発等)
・福島再生可能エネルギー研究開発拠点機能強化事業【9(-)】
(参考)福島県環境創造センター(仮称)整備への支援(113(H24補正予算)) 等
- ②産業振興・雇用・風評被害対策【13億円(6億円)】
・津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金【1,100(-)】※
・中小企業組合等共同施設等災害復旧事業(グループ補助金)【250(500)】※
・福島発農産物等戦略的情報発信事業【3(-)】(13(H24補正予算))
・福島県における観光関連復興支援事業【4(-)】等
(参考)震災等緊急雇用対応事業【500(補正予算)】※

(注)各項目の合計額は、復興庁一括計上予算のうち、「原子力災害からの復興・再生」に係る予算の合計額。総額では、7,264億円(24年度:4,655億円)となる。なお、上記の斜体の事業は、「原子力災害からの復興・再生」予算以外に区分される事業。

(備考)※の予算額は被災県等の合計であり、その一部分が福島県に関連するもの。

25年度予算 24年度当初
【〇〇(〇〇)】億円
※単位:億円



（平成24年度補正・平成25年度予算）

1. 帰還加速・区域の荒廃抑制

地域の希望復活応援事業
 （原災避難区域等帰還・再生加速事業）
【48億円】（24年度補正（新規）：208億円）

【事業概要】

被災12市町村における避難解除区域の住民帰還を促進するための取組や、直ちに帰還できない区域への将来の帰還に向けた荒廃抑制・保全対策を、国の費用負担により実施。

【対象区域】

原子力被災12市町村

【対象事業】

- ① 避難解除区域への帰還加速のための取組
 - （喪失した生活基盤施設の代替・補完
住民の安全安心確保
地域コミュニティ機能の維持・確保 等）
- ② 直ちに帰還できない区域の荒廃抑制・保全
 - （荒廃抑制・保全対策・
住民の一時帰宅支援 等）

2. 長期避難者の生活拠点形成

コミュニティ復活交付金
 （長期避難者生活拠点形成交付金）
【503億円（新規）】

【事業概要】

災害公営住宅の整備を中心に、避難者を受け入れている自治体の基盤整備等を推進するとともに、コミュニティの維持などの避難者支援のためのソフト施策を一体的に実施することにより、長期避難者のための生活拠点の形成を促進。

【対象地域】

長期避難者を受け入れている市町村

【対象事業】

- ・災害公営住宅整備（補助率7/8）
- ・道路改良、学校施設整備等
（復興交付金同等の補助率）
- ・上記事業と一体となって効果を増大させるソフト施策（地域住民との交流事業、スクールバス運行等）

3. 定住促進

子ども元気復活交付金
 （福島定住等緊急支援交付金）
【100億円（新規）】

【事業概要】

公的な賃貸住宅の整備や子どもの運動機会の確保のための施設整備の早急な実施を支援することにより、子育て世帯が安心して定住できる環境を整え、地域の復興・再生を促進。

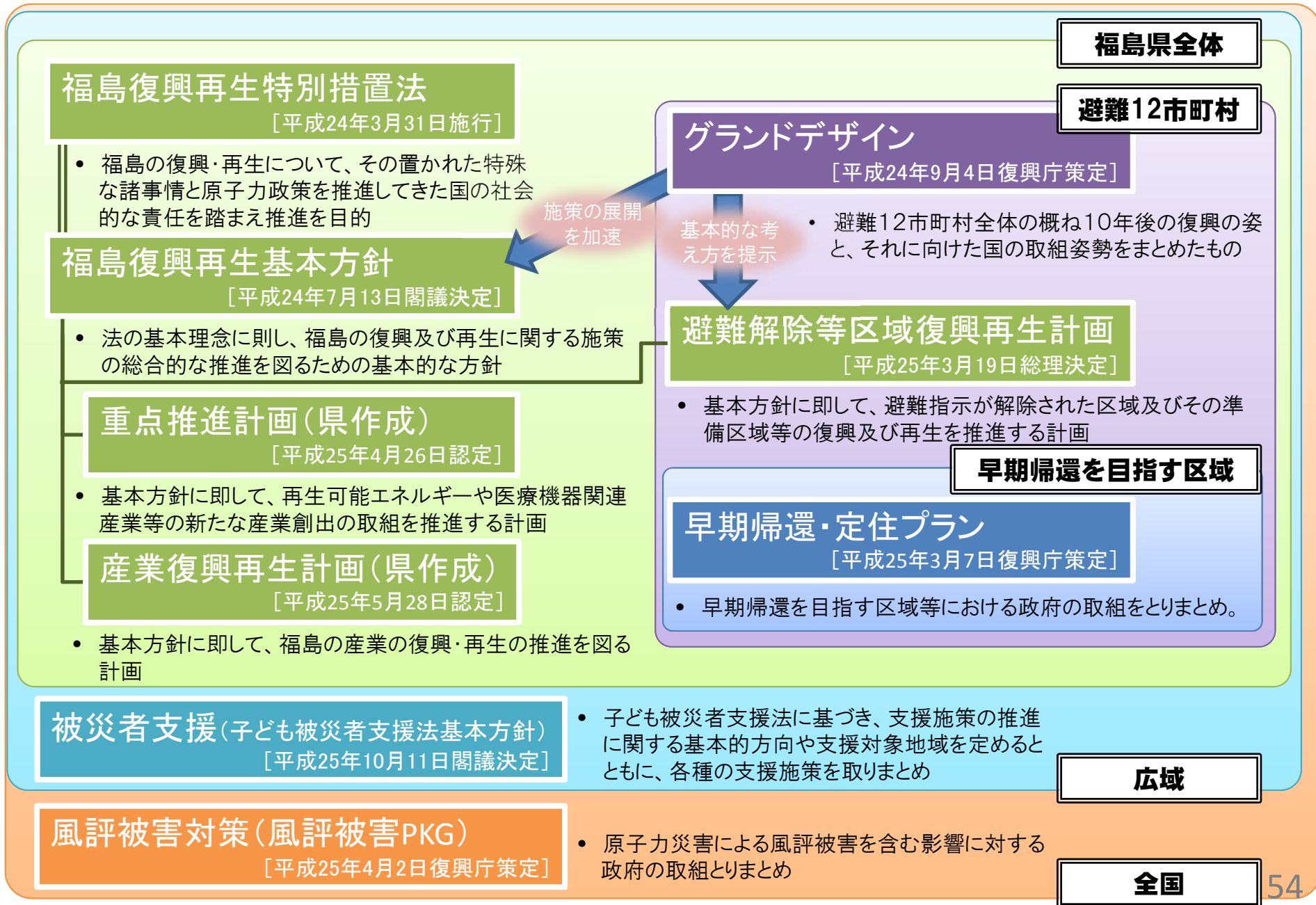
【対象地域】

原発事故により人口が流出し、地域の復興に支障が生じていると認められる地域

【対象事業】

- ・公的な賃貸住宅整備費助成
（補助率2/3） 等
- ・遊具の更新、地域スポーツ施設、水泳プール等の整備（補助率1/2） 等
- ・上記事業と一体となって効果を増大させるソフト施策
（公的賃貸住宅の駐車場整備 等）

2-26 福島復興に向けた制度対応等（復興施策体系）





（平成25年3月7日公表）

○国は避難指示解除を待つことなく、前面に立って以下の施策を速やかに実行に移す。
 ○これにより、今後1、2年で帰還を目指すことが可能となる区域等において、避難住民の早期帰還・定住を実現する。



<プランの内容>

①生活環境の整備

- ・医療・福祉体制の確保
- ・商業施設の再開
- ・その他、地元ニーズに対応したきめ細やかな対応（避難住民の再会、コミュニティバス運行等）

②産業振興・雇用の確保

- ・立地補助金や税制優遇措置による企業の誘致・再開
- ・廃炉等の研究開発拠点の整備 等

③農林水産業の再開

- ・復旧を迅速に進めるための技術職員の派遣
- ・営農再開に向けた農地の保全管理の取組 等

住民の生活再開にあたって
取り組むべき3つの重点分野

帰還・定住加速の基礎となる6つの取組

①インフラの早期復旧

- ・工程表に基づく復旧／福島特措法の改正 等

②災害廃棄物等の処理の着実な実施

- ・避難指示解除準備区域を優先的に実施 等

③除染・中間貯蔵施設の着実な進展

- ・除染の着実な実施／除染と復興関連目的の同時達成に向けた取組／中間貯蔵施設についての丁寧な説明 等

④安全・安心に向けた取組

- ・福島第一の安全性確保／廃炉の確実な実施／リスクコミュニケーション／きめ細かな放射線モニタリング 等

⑤十分な予算の確保と柔軟な執行：福島復興再生総局による即断即決／技術的な専門人材の派遣 等

⑥賠償の丁寧かつ迅速な対応：住民の生活再建が一日も早く進むよう、円滑な賠償を実施 等

今後の流れ

○今後1、2年のうちに住民の帰還のために必要な環境整備を行うべき区域を擁する自治体については、平成25年夏頃を目途に、早期帰還に向けた具体的な筋道を示す工程表を策定し、時間軸を示しながら取組を進める。

2-26 福島復興に向けた制度対応等 (「早期帰還・定住プラン」に基づく工程表)のポイント)

- 原子力災害被災自治体の置かれている状況が異なることを踏まえ、住民の帰還・定住を加速するための取組を自治体毎に整理し提示(平成25年11月 広野町、楡葉町、川内村について公表)
- 国、県、市町村等の関係者が時間軸の下で全体の工程を共有
- 住民の方々にとって帰還のために必要な環境の整備の進捗状況、今後の見通しを具体的に提示

川内村の例 新たに整備している特別養護老人ホームについて、平成26年度中に入居を開始する旨記載

整備すべき生活環境	環境整備の目標及び主な実施内容	平成25年度				平成26年度				平成27年度				平成28年度以降	村担当課
		4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月		
医療・福祉 福祉・介護	【目標】 ・村内で必要な福祉・介護サービスが受けられるようにする。 【主な実施内容】 ① 「ゆふね」内のデイサービスを回復する。《平成24年4月から実施中》 ② 訪問介護体制を充実・強化する。(登録ヘルパー数 2名→5名)《平成26年度から実施予定》					ー—————→ ゆふねのデイサービスの回復、提供				- - - - -→ 訪問介護体制の充実・強化					保健福祉課
	③ 新たに特別養護老人ホーム(80床)を開設する《平成26年度中入居開始》	ー—————→ 特別養護老人ホーム設計・造成				- - - - -→ 建設				- - - - -→ 入居開始					

※実際の工程表とレイアウトは若干異なる。

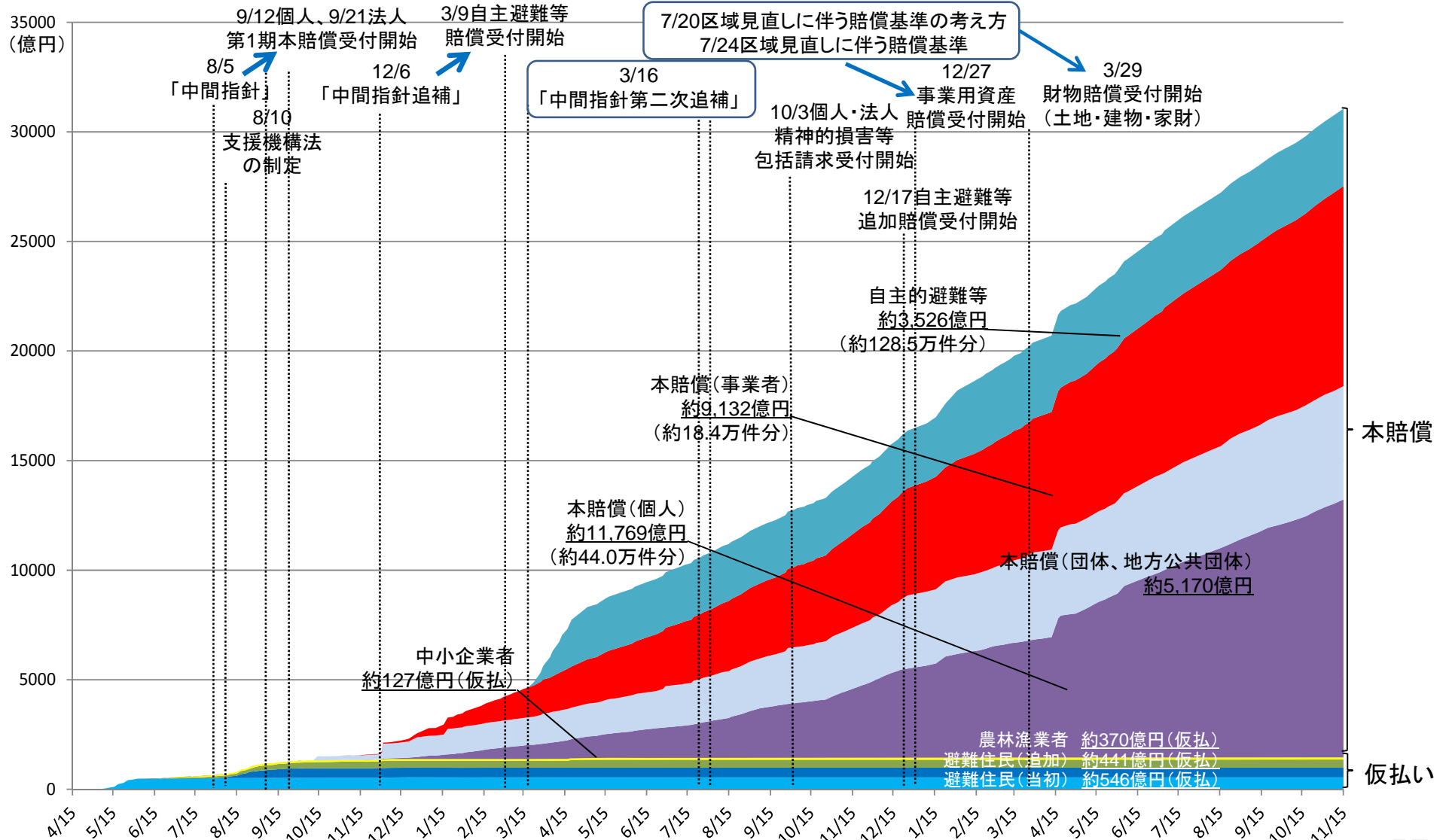
2-27 個別課題への対応（賠償①）

東京電力による損害賠償の仮払い・本賠償の支払状況

賠償総額：約3兆1,099億円(11月15日現在)

仮払い：1,502億円

本賠償：2兆9,597億円



※上記の他、仮払い法に基づく国による仮払い約17億円(福島・茨城・栃木・群馬の観光業者(中小企業者に限る)向け、平成23年9月より受付開始)

2-27 個別課題への対応（賠償②）

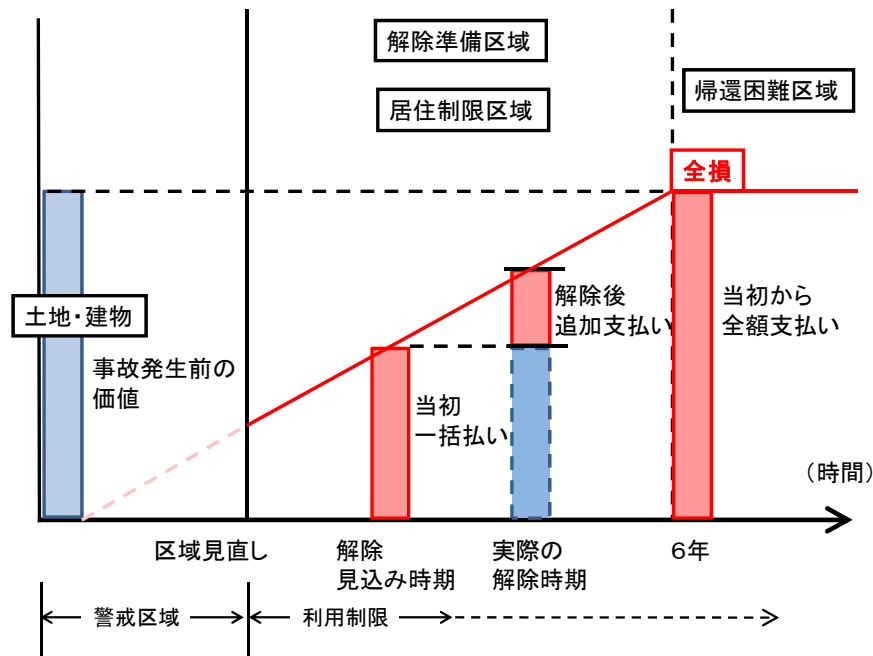
中間指針第二次追補を踏まえ、「避難指示区域の見直しに伴う賠償基準の考え方」について、経済産業省が7月20日に取りまとめ。この考え方に基づき、東京電力が7月24日に「避難指示区域の見直しに伴う賠償の実施について」を公表。

○避難指示区域における賠償の方針

(1)不動産（住宅・宅地）に対する賠償

- ① 帰還困難区域においては、事故発生前の価値の全額を賠償し、居住制限区域・避難指示解除準備区域は、事故時点から6年で全損として、避難指示の解除までの期間に応じた割合分を賠償。
- ② 解除の見込み時期までの期間分を当初に一括払いをすることとし、実際の解除時期が見込み時期を超えた場合は、超過分について追加的に賠償。

（賠償額）



(2) 家財に対する賠償

- ① 家族構成に応じて算定した定額の賠償。
- ② 損害の総額が定額を上回る場合には個別評価による賠償も選択可能。

家財賠償額（定額）表

（単位：万円）

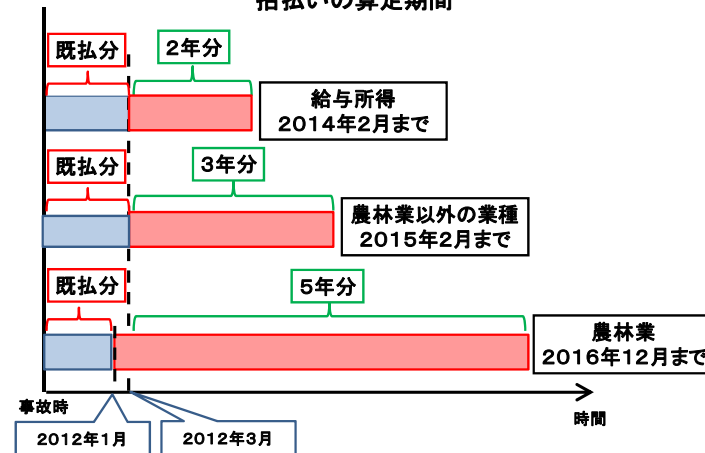
家族構成								
帰還困難区域	325	595	635	655	675	715	735	775
居住制限区域 避難指示解除準備区域	245	445	475	490	505	535	550	580

※ 上記家族構成以外の場合も構成人数に応じて金額を算定

(3) 営業損害・就労不能損害に対する賠償

- ① 従来の一定期間毎における実損害を賠償する方法に加え、一定年数分の営業損害、就労不能損害を一括で支払う方法を用意。

一括払いの算定期間



平成24年1月1日に全面施行した放射性物質汚染対処特措法及び同法に基づく基本方針にのっとり、環境省を中心に除染を推進。人の健康の保護の観点から必要な地域について優先的に除染を実施。除染に伴い発生した土壌等は、安全に収集・運搬、仮置き、処分する。

除染特別地域（国直轄地域）

- 国が直接除染を行う地域。警戒区域又は計画的避難区域であったことのある福島県内の11市町村（※）を指定。
- 各市町村の意向を踏まえつつ、それぞれの特別地域内除染実施計画を策定し、それに沿って取り組む。

※檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村及び飯舘村の全域。田村市、南相馬市、川俣町、川内村で警戒区域又は計画的避難区域であったことのある地域。

市町村が除染を行う地域（非直轄地域）

- 市町村が中心となって除染を行う地域。毎時0.23マイクロシーベルト以上の地域を含む8県（※）100市町村を汚染状況重点調査地域として指定。
- 各市町村が行った調査測定の結果などを踏まえて策定した除染実施計画に基づき除染を推進。
- 国は、財政的措置や技術的措置を講ずる。

※岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県

2-27 (参考) 国直轄地域の除染の進捗状況

準備ができたところから順次除染を実施。これまで、対象11市町村のうち、10市町村で除染計画を策定、9市町村の全域又は一部地域において除染の作業中又は作業準備中、1市で除染計画に基づく除染が終了。

	除染対象区域 人口(人)(概 数)	除染対象面積 (ha)(概数)	区域 見直し	除染の進捗状況			
				除染計画	仮置場 (H25年8月末現在)	同意取得 (H25年7月末現在)	除染作業 (H25年11月末現在)
田村市	400	500	H24/4	H24/4	確保済み	終了	H25/6 終了
檜葉町	7,700	2,000	H24/8	H24/4	確保済み	ほぼ終了	作業中
川内村	400	500	H24/4	H24/4	確保済み	終了	作業中 (宅地、道路終了)
南相馬市	13,300	6,100	H24/4	H24/4	約2割 確保済み	約3割	作業中
飯館村	6,000	5,100	H24/10	H24/5	約2割 確保済み	約3割	作業中
川俣町	1,200	1,500	H25/8	H24/8	約8割 確保済み	約9割	作業中
葛尾村	1,400	1,700	H25/3	H24/9	約2割 確保済み	ほぼ終了	作業中
浪江町	18,800	3,200	H25/4	H24/11	約1割 確保済み	約1割	作業中
大熊町	400	400	H24/11	H24/12	約7割 確保済み	約6割	作業中
富岡町	11,300	2,800	H25/3	H25/6	約5割 確保済み	準備中	事業者決定済み 作業準備中
双葉町	300	200	H25/5	調整中	調整中	調整中	調整中

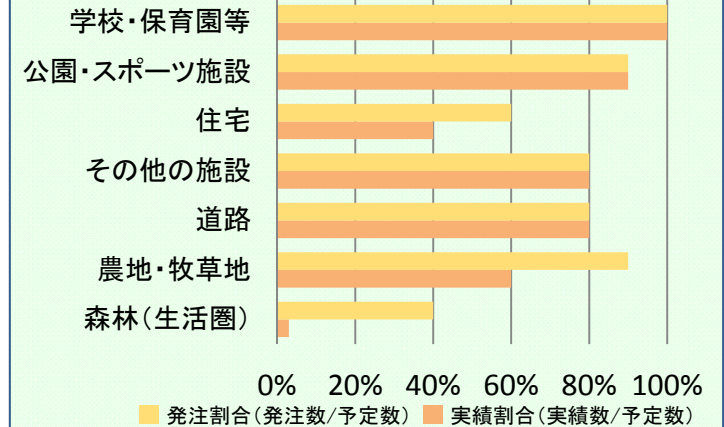
2-27 (参考) 非直轄地域の除染の進捗状況

94市町村において、放射線物質汚染対処特措法に基づく除染実施計画の協議を終了。特に子ども空間や公共施設において、除染が進捗し、予定した除染の終了に近づきつつあるが、全体が終了するまでには、更に数年はかかる見込み。



- ※カッコ内は市町村数。
 ※下線は、除染措置を完了した市町村。
- >
- 岩手県(3): 一関市、奥州市、平泉町
 - 宮城県(8): 白石市、角田市、栗原市、七ヶ宿町、大河原町、丸森町、山元町、亘理町
 - 福島県(36): 福島市、郡山市、須賀川市、相馬市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、大玉村、鏡石町、天栄村、会津坂下町、湯川村、会津美里町、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、鮫川村、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、小野町、広野町、新地町、田村市、川俣町、川内村、白河市、石川町、三春町、南相馬市、いわき市
 - 茨城県(19): 日立市、土浦市、龍ヶ崎市、常総市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、取手市、牛久市、つくば市、ひたちなか市、鹿嶋市、守谷市、稲敷市、つくばみらい市、東海村、美浦村、阿見町、利根町
 - 栃木県(8): 佐野市、鹿沼市、日光市、大田原市、矢板市、那須塩原市、塩谷町、那須町
 - 群馬県(9): 桐生市、沼田市、渋川市、みどり市、下仁田町、中之条町、高山村、東吾妻町、川場村
 - 埼玉県(2): 三郷市、吉川市
 - 千葉県(9): 松戸市、野田市、佐倉市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市、印西市、白井市

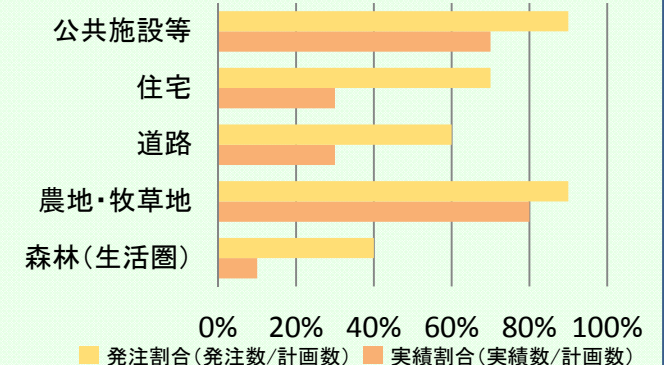
福島県外(平成25年8月末現在)



※学校・保育園等については、予定数の除染作業をほぼ終了。
 ※予定数は平成25年8月末時点で具体的予定のある数を含めた累計であり、今後増加する可能性もある。

福島県内(平成25年10月末現在)

※福島県が行った調査結果を基に作成。



※計画数は25年度末までの累計。全体数は各市町村により、調整中や未定となっており、今後増加する可能性もある。



長期避難者等のための生活拠点の検討に当たって

1. 復興計画の策定

各町において、長期避難者対策等を策定
 飯舘村(H24.8),大熊町(H24.9),富岡町(H24.9),
 浪江町(H24.10),葛尾村(H24.12),双葉町(H25.6)

2. 住民意向調査の実施

国、県、避難元自治体において、長期避難者に対する支援策の具体化等のため、今後の生活再建に向けた意向等を把握

3. 長期避難者等の生活拠点の検討のための協議会

国、県、受入自治体、避難元自治体において、生活拠点整備のための諸課題等を検討

- 長期避難者等の生活拠点を確保するため、移転期間、移転規模、整備方法、制度的課題等について検討・調整
- 避難元自治体のニーズに応じて、受入自治体と連携しつつ、災害公営住宅のモデル的整備について検討・調整 他

交付金制度の創設

「コミュニティ復活交付金」

503億円

- 災害公営住宅の整備を中心に、受入自治体の基盤整備等を推進
- コミュニティ維持などの避難者支援のためのソフト施策を一体的に実施

災害公営住宅の整備

原発避難者向けの災害公営住宅を整備

基盤整備等の推進

避難者の増加に対応する道路改良や
 学校施設整備などの実施

ソフト施策の実施

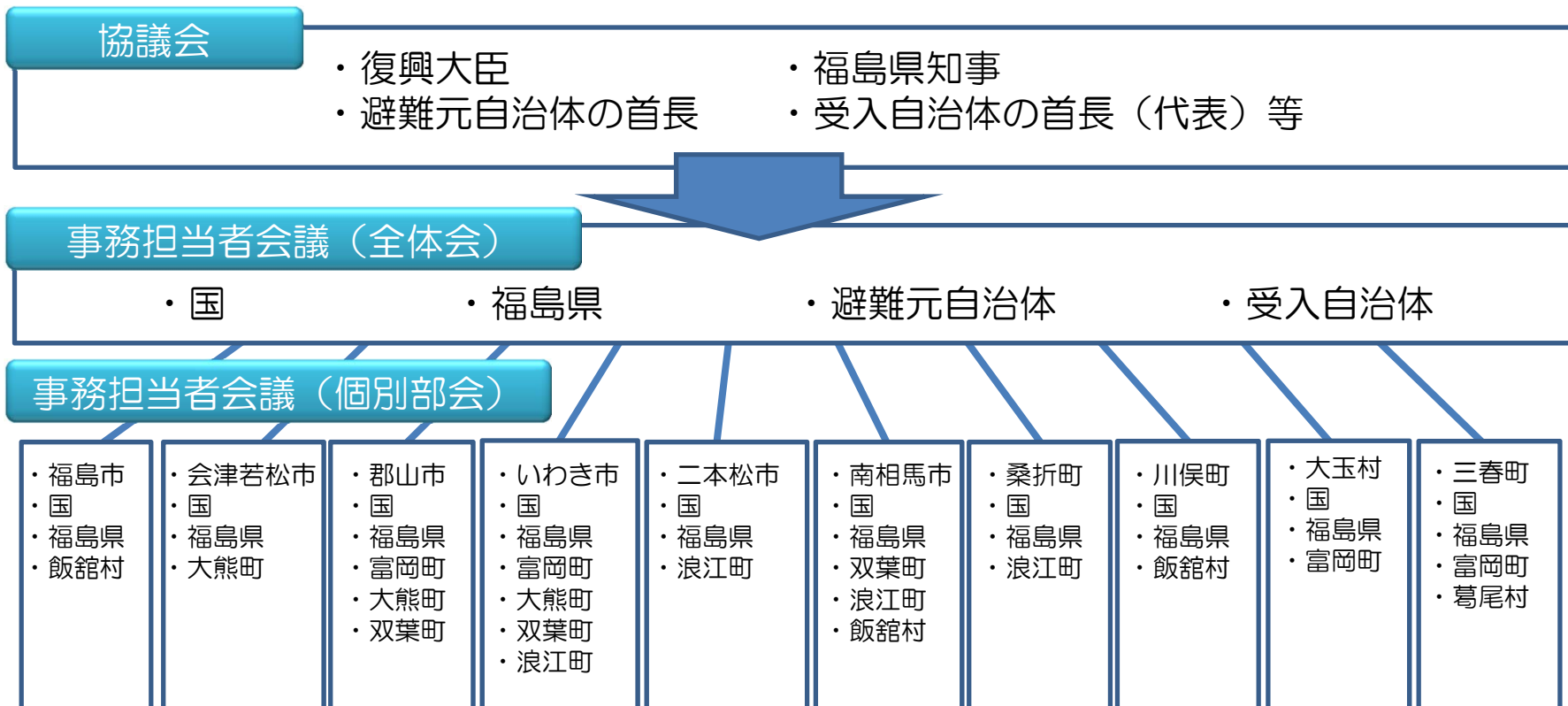
上記と一体でコミュニティ維持や健康管理などのソフト施策を実施

新たな
 生活拠点
 への移転

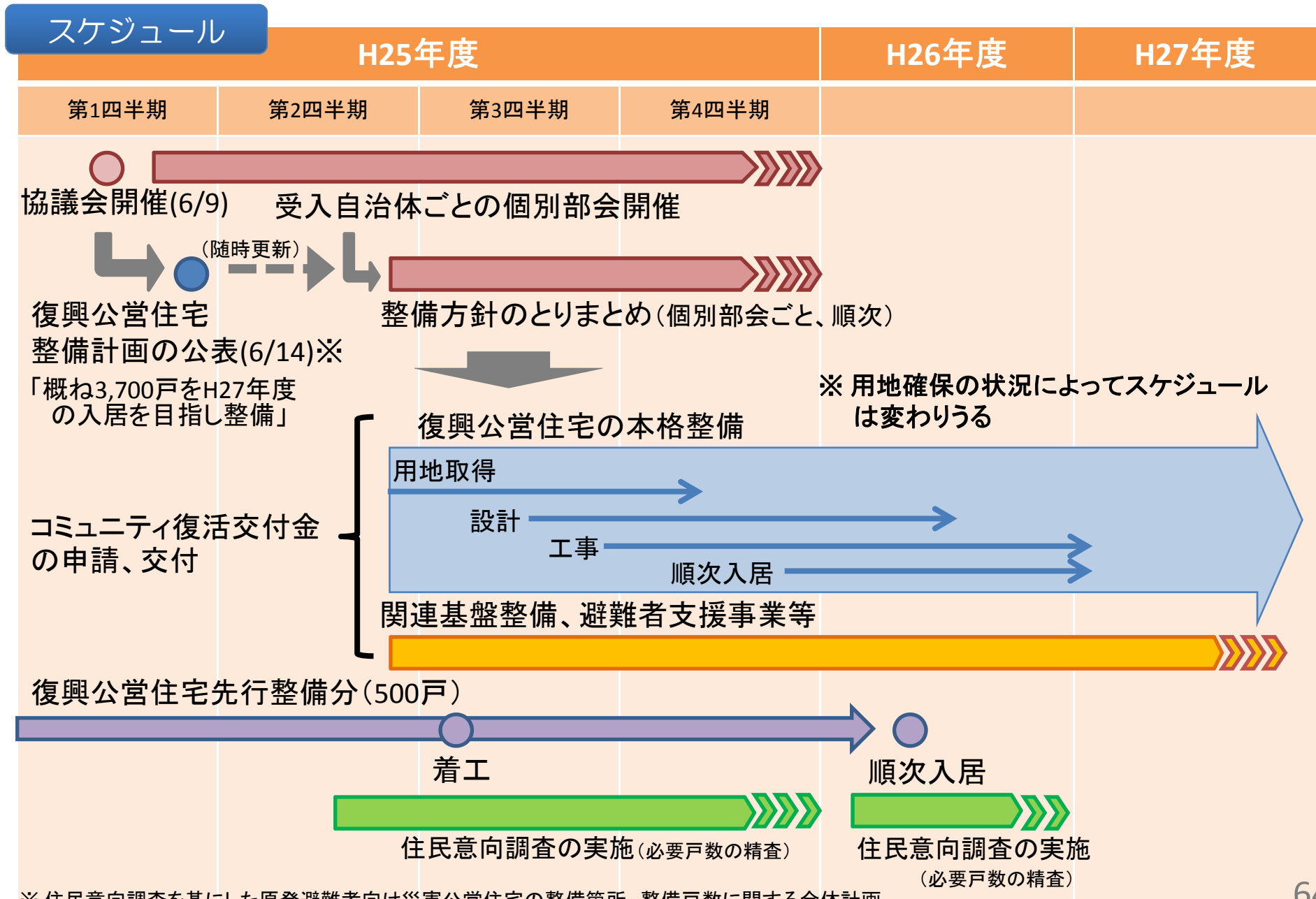


長期避難者の生活拠点の検討のための協議会

- ◆ **設置趣旨** 避難期間が長期に及ぶ避難者等のための生活拠点の確保、整備等に向けた検討を促進するため、国、福島県、避難指示区域が設定されている、または、かつて設定されていた市町村（避難元自治体）及び避難元自治体からの避難者を受け入れている市町村（受入自治体）からなる協議会を設置する。
- ◆ **協議事項**
 - ・ 長期避難者等の生活拠点を確保するため、移転期間、移転規模、整備方法、制度的課題等について検討・調整
 - ・ 避難元自治体のニーズに応じて、受入自治体と連携しつつ、災害公営住宅のモデル的整備について検討・調整 他
- ◆ **構成**



2-27 個別課題への対応（長期避難者への生活支援について③）



※ 住民意向調査を基にした原発避難者向け災害公営住宅の整備箇所、整備戸数に関する全体計画



避難指示解除準備区域等の公共インフラの本格的な復旧(工程表))

- 警戒区域等が見直された市町村を中心に、公共インフラ復旧の工程表を作成し、本格的な復旧に着手。
- 平成25年3月までに10市町村(広野町・田村市・川内村・南相馬市・楡葉町・飯舘村・富岡町、浪江町、葛尾村、川俣町)の工程表を段階的に作成し、関係各省、福島県、当該市町村ホームページにて公表。
- 事業の具体化に応じて対象事業を拡充し、節目節目で見直しも実施。
- 「早期帰還・定住プランの工程表」の策定に合わせ、被災施設の復旧のみならず、早期帰還に資する新たな整備事業も対象とした見直しを順次実施(平成25年11月に広野町、楡葉町、川内村の見直し)。

工程表の内容

- ① 国、県、市町村等の事業を対象に作成
- ② 対象事業ごとに、復旧・復興に向けた基本的考え方を記載
- ③ 上記の基本的考え方に即して、対象事業ごとに復旧・整備の目標を工程図で表示
- ④ 事業の進捗をわかりやすく示すため「前年度の成果」と「当年度の目標」を記載

工程表の作成趣旨

- ① 当面3か年の復旧・整備の見通しを「見える化」し、帰還を目指す住民の方々や地域の関係者とも共有化すること。
- ② 工程表は、各施設管理者における進捗管理の基礎となるものであることから、各施設管理者において作成する。
- ③ 早期帰還に向けての具体的な道筋を示す「早期帰還・定住プランの工程表」の基礎となる。

対象事業及び作成単位

- 市町村単位で作成する事業(例)
海岸、河川、上・下水道、農地・農業用施設、市町村道、海岸防災林の再生、医療施設、学校施設 等
- 路線、施設単位等で作成する事業(例)
し尿処理施設、下水汚泥処理施設、廃棄物処理施設、国道・県道・常磐道、鉄道、漁港等 等

工程表公表の履歴

- H24.8～H25.3：南相馬市、田村市、川内村、広野町、飯舘村、楡葉町、富岡町、浪江町、葛尾村、川俣町 公表
- H25.6：平成25年度予算成立を踏まえ 10市町村見直し
- H25.11：川内村、広野町、楡葉町の見直し
- H25.12：田村市の見直し作業中

■工程表のイメージ

	整備主体	被災/稼働状況	H24年度に実施したこと(成果)	H25年度に実施すること(目標)	H25年度				H26年度				H27年度				H28年度以降	備考・ポイント等
					4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月		
〇〇事業					←調査		←査定		←工事									
※※事業					←査定		←工事											
△△事業					←調査		←査定	←工事										

2-27 個別課題への対応

(原子力災害による風評被害を含む影響への対策パッケージの概要)

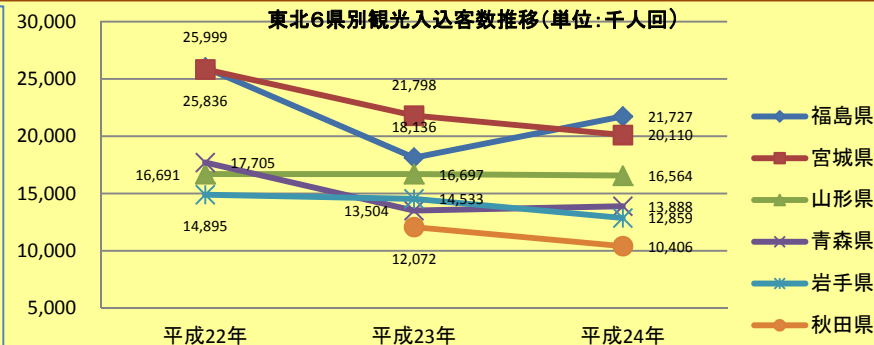
○復興庁において、平成25年度当初予算を中心に各省庁における取組(予算以外の取組を含む)を取りまとめ。(平成25年4月2日公表)
 ○被災地域産の食品・農林水産物等の安全と消費者の信頼を確保するとともに、風評被害等の影響を受けている地域産業における新たな需要創出に向けた支援等を行う。

<平成25年度上半期フォローアップ公表(平成25年11月22日)>

○上半期の取組において、消費者の福島県産の農産物等の購入意欲の増加、東北地方の観光入込客数の低減傾向の鈍化や回復、さらに12か国で輸入規制を完全解除する等、国内外において風評被害対策に一定の効果が現れていることが確認できた。

○福島県では、県全体で米の全袋検査を実施(25年産米については、約933万袋を検査。99.9999%が基準値以内(平成25年11月20日現在))

○水産物については、原発事故以降、40,989検体の検査を実施(平成25年10月31日現在)福島県において、98.3%が基準値以内(平成25年10月期)



1. 放射性物質の確実な把握とコミュニケーションの強化

(1) 被災地産品の放射性物質検査の実施

- ・食品中の放射性物質の基準値の設定
- ・被災地産品の放射性物質検査体制整備と検査実施

(2) 空間線量等の環境放射線量の把握と公表

- ・福島県内を中心とした放射線モニタリング体制整備
- ・汚染水問題を踏まえた海洋モニタリングの強化と国内外への情報提供

(3) 正確で分かりやすい情報提供等コミュニケーションの強化

- ・食品中の放射性物質基準値、放射性物質による健康影響等に関する情報提供(シンポジウム、ミニ集会の開催、ポスター等の配布)
- ・生産現場における放射性物質の吸収抑制対策(例:カリ施肥による放射性セシウムの吸収抑制)等に関する情報提供

2. 風評被害を受けた産業への支援

(1) 被災地産品の販路拡大、新商品開発等

- ・福島産農産物等のブランド力回復のためのPR事業(メディアを活用した広報、全国キャラバン等)
- ・全国的な被災地産品消費拡大に向けた「食べて応援しよう!」キャンペーン等の推進(一環として全府省庁の食堂、自衛隊用糧食等における被災地産食材積極利用、民間企業の社内マルシェでの販売促進等)
- ・被災地産業(農業、商工業等)による新製品開発等支援
- ・被災地産品等に対する諸外国の輸入規制緩和に向けた働きかけ

(2) 国内外から被災地への誘客促進等

- ・福島県をはじめとする東北地方等への旅行需要喚起のためのPR事業(メディアとタイアップした広報、震災語り部・ガイドの育成、復興イベント開催等)

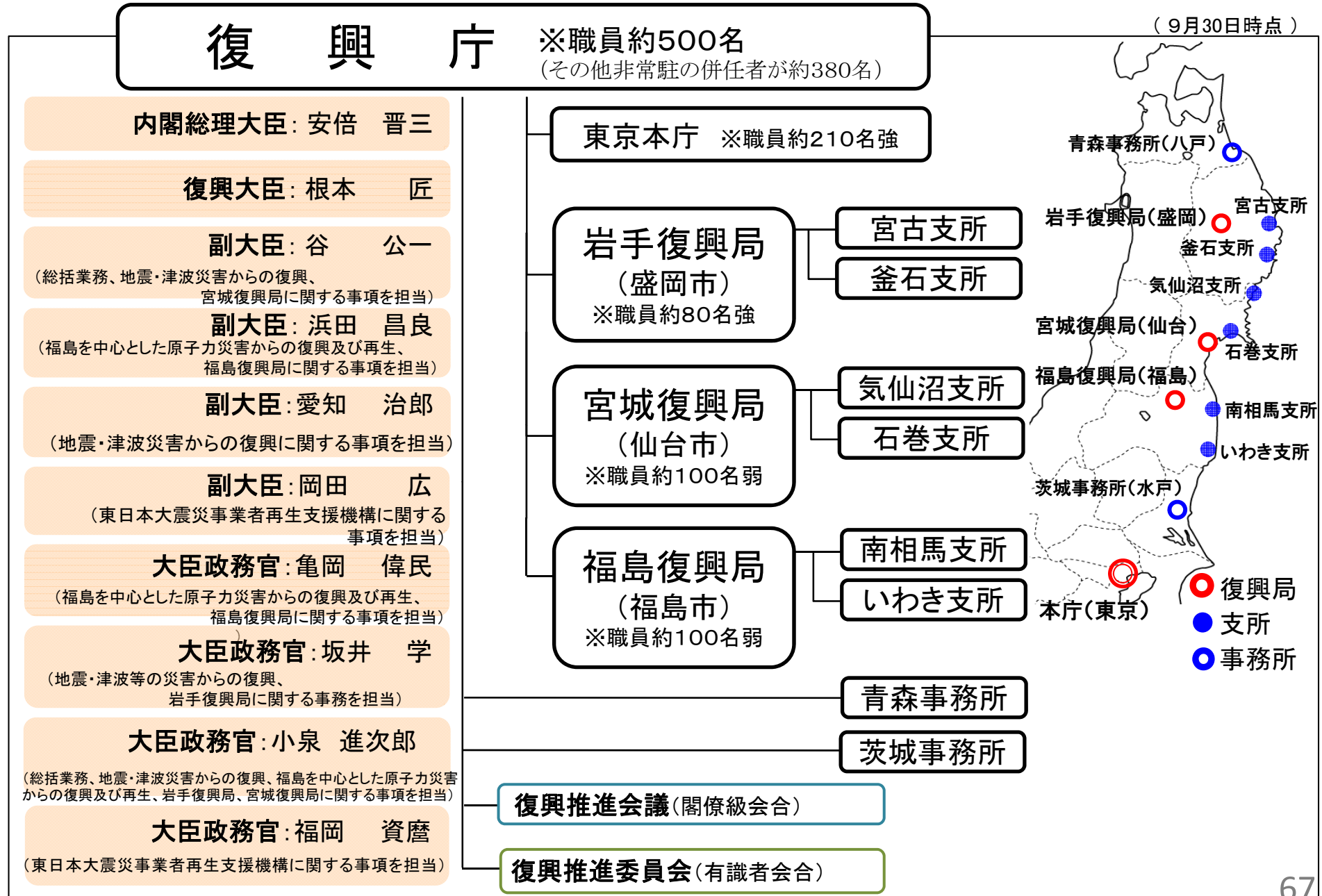
国民の健康
リスク回避

食品等の安全・消費者の信頼の確保

被災地の産業への直接的・間接的(風評)影響の克服

被災地の産業における新たな需要創出

3-1 復興庁の体制





3-2 最近の復興加速への取組

1. 復興庁の司令塔機能の強化と現場主義の徹底（速やかに対応）

【主な対応】

- 【福島関係】
 - 福島における「福島復興再生総局」の設置(2/1)と復興庁幹部の常駐。
 - 東京における「福島復興再生総括本部」の設置(2/1)による政府中枢機能の強化。
 - 「除染・復興加速のためのタスクフォース」の開始(1/11～)
 - 「風評被害タスクフォース」の開始(3/21～)
- 【被災地全般関係】
 - 復興庁職員の意識改革
 - 「住宅再建・復興まちづくりの加速化のためのタスクフォース」において施策パッケージをとりまとめ。(2/22～)(3/7)
 - 復興大臣の裁量で、事業費追加や新ニーズに機動的に対応するとともに、諸制度の隙間を埋めて復興の調査企画等を実施するための予算制度の創設。(H25予算)

2. 復興予算に関するフレームの見直し等（H24補正、H25予算）

【主な対応】

- 平成25年度予算編成と併せて復興フレームを見直し(5年間19兆円を25兆円に見直し)、必要な財源を確保。(1/29)
- 復興予算について復興庁に一括計上するとともに、用途を厳格化。

3. 復興の加速策の具体化・推進（H24補正、H25予算等）

(1) 住宅再建・まちづくり、なりわいの確保等

【主な対応】

- 住宅・宅地の戸数の年度別目標である「住まいの復興工程表」を公表。また、工程表の実現のための加速化措置を策定・公表。(3/7,4/9,10/19)
- 津波被災地域において、住民の定着を促進する住宅再建支援のための取崩し型復興基金の増額。(H24補正)
- 公務員OB・民間実務経験者・海外青年協力隊帰国隊員等の活用、URの現地体制拡充、マンパワー対策の強化や被災自治体の事務負担の軽減。
- 津波・原子力災害被災地域における雇用創出のための企業立地に係る新たな支援制度の創設やグループ補助金の事業対象に共同店舗の新設や街区の再配置等を追加し、被災地域の商業復興を促進。(H25予算)
- 復興交付金について、対象拡大やほかの支援制度による対応等、更なる柔軟化を実施。

(2) 福島の復興・再生の加速化

【主な対応】

- 補正予算での福島復興・再生に向けた対策の盛り込み。
- これまで対処できなかった課題に対する新たな支援制度の創設。
 - ・ 地域の希望復活応援事業(H24補正)
 - ・ コミュニティ復活交付金の創設(H25予算)
 - ・ 子ども元気復活交付金の創設(子育て環境の整備等)(H25予算)
- 福島県に基金を造成し、営農再開を目的として行う一連の取組を、農地の除染や住民帰還の進捗に応じて切れ目なく支援。
- 「早期帰還・定住プラン」をとりまとめ(3/7)
- 「原子力被害による被災者支援施策パッケージ」の公表。(3/15)
- 「原子力災害による風評被害を含む影響への対策パッケージ」の公表(4/2)
- 避難解除区域等における雇用機会の確保のための迅速な企業立地の促進に資する措置(税制)など福島復興再生特別措置法の改正(5/10公布)

3-3 復興関係予算①

(単位:億円)

23年度1次補正予算 (23年5月2日成立)		23年度2次補正予算 (23年7月25日成立)		23年度3次補正予算 (23年11月21日成立)	
(1) 災害救助等関係経費	4,829	1. 原子力損害賠償法等関係経費	2,754	(1) 災害救助等関係経費	941
(2) 災害廃棄物処理事業費	3,519	(1) 原子力損害賠償法関係経費	2,474	(2) 災害廃棄物処理事業費	3,860
(3) 災害対応公共事業関係費	12,019	(2) 原子力損害賠償支援機構法関係経費	280	(3) 公共事業等の追加	14,734
(4) 施設費災害復旧費等	4,160	2. 被災者支援関係経費	3,774	(4) 災害関連融資関係経費	6,716
(5) 災害関連融資関係経費	6,407	(1) 二重債務問題対策関係経費	774	(5) 地方交付税交付金	16,635
(6) 地方交付税交付金	1,200	(2) 被災者生活再建支援金補助金	3,000	(6) 東日本大震災復興交付金	15,612
(7) その他の関係経費	8,018	3. 東日本大震災復興対策本部運営経費	5	(7) 原子力災害復興関係経費	3,558
		4. 東日本大震災復旧・復興予備費	8,000	(8) 全国防災対策費	5,752
		5. 地方交付税交付金	4,573	(9) その他の関係経費	24,631
※1 計40,153		計19,106		※2 計92,438	

※1 財務省公表資料(一次補正歳出額)に記載されている既定経費の減額(37,102億円)については計に含めず。

※2 財務省公表資料(三次補正歳出額)に記載されている年金臨時財源の補てんやB型肝炎関係経費等は計に含めず。

※3 23年度4次補正予算の一般会計予算予算総則において、株式会社東日本大震災事業者再生支援機構法に基づき、株式会社東日本大震災事業者再生支援機構の借入れ及び社債に係る債務について、政府保証枠5,000億円を設定。

3-3 復興関係予算②

(単位:億円)

24年度当初予算 (24年4月5日成立)		24年度補正予算 (25年2月26日成立)		25年度予算 (25年5月15日成立)	
(1)被災者支援	920	(1)インフラ等復旧、まちづくり	1,970	(1)被災者支援	1,883
(2)まちの復旧・復興	11,854	(2)産業振興・雇用の確保	502	(2)まちの復旧・復興	16,670
(3)産業の振興・雇用の確保	2,920	(3)原子力災害からの復興	706	(3)産業の振興・雇用の確保	3,075
(4)原子力災害からの復興再生	4,655			(4)原子力災害からの復興再生	7,264
(5)東日本大震災復興推進調整費等	83			(5)東日本大震災復興推進調整費等	145
(6)震災復興特別交付税	5,490			(6)震災復興特別交付税	6,053
(7)復興予備費	4,000			(7)復興加速化・福島再生予備費	6,000
(8)国債整理基金特会への繰入	1,253			(8)国債整理基金特会への繰入	662
(9)全国防災事業	4,827			(9)全国防災事業	1,274
(10)その他の関係経費	1,751			(10)その他の関係経費	815
計37,754		計3,177		計43,840	

※1 24年度当初予算及び25年度予算のそれぞれの一般会計予算予算総則において、株式会社東日本大震災事業者再生支援機構法に基づき、株式会社東日本大震災事業者再生支援機構の借入れ及び社債に係る債務について、政府保証枠5,000億円を設定。

※2 23年度1次補正から25年度予算までの「計」の単純な合計は約23.6兆円であるが、「集中復興期間」(23年度～27年度)における復旧・復興事業の財源(25兆円程度)との関係では、除染費用など東京電力への求償が想定される経費等を除くことから、約19.8兆円となる。

復興特別会計

(4兆3,840億円)

<具体例> (1兆4,803億円)

○震災復興 特別交付税	6,053億円
○復興加速化・ 福島再生予備費	6,000億円
○全国防災	1,274億円
○復興債費	662億円
○その他	815億円

復興庁所管

(2兆9,037億円)

<具体例>

復興交付金	5,918億円
復興推進調整費	100億円
福島原子力災害避難区域等帰還・再生加速事業	48億円
長期避難者生活拠点形成交付金	503億円
福島定住等緊急支援交付金	100億円 等

復興関係事業費の一括計上

(2兆2,289億円)

<具体例>

○被災者支援	1,883億円
○まちの復旧・復興	10,753億円
○産業の振興・雇用の確保	3,063億円
○原子力災害からの復興・再生	6,590億円

復興特別会計 (3兆6,377億円+事項要求)

○震災復興 特別交付税	事項要求
○復興加速化・ 福島再生予備費	6,000億円
○復興債費	1,321億円
○全国防災	1,880億円
○その他	219億円

復興庁所管 (2兆6,957億円+事項要求)

<具体例>

復興交付金	5,155億円
復興推進調整費	50億円
地域の希望復活応援事業	113億円
コミュニティ復活交付金	612億円
子ども元気復活交付金	101億円
「新しい東北」先導モデル事業等	16億円 等

復興関係事業費の一括計上

(2兆807億円+事項要求)

<具体例>

○被災者支援	1,331億円
○まちの復旧・復興	11,625億円
○産業の振興・雇用の確保	2,139億円
○原子力災害からの復興・再生	5,711億円

3-3 (参考) 復興関係予算の執行状況 (24年度末現在)

平成24年度 東日本大震災復旧・復興関係経費の執行状況(平成23年度一般会計(繰越分)+平成24年度特別会計)(24年度末現在)

(単位:億円、%)

区 分	歳出 予算現額 (A)	支出済 歳出額 (B)	翌年度 繰越額 (C)	不用額 (D)=(A)-(B)-(C)	執行率 (B)/(A)	繰越率 (C)/(A)	不用率 (D)/(A)
被災者支援	5,092	3,523	51	1,517	69.2%	1.0%	29.8%
生活支援	3,205	1,795	-	1,410	56.0%	0.0%	44.0%
教育・医療・福祉	913	858	-	55	94.0%	0.0%	6.0%
救助活動	805	714	51	39	88.7%	6.4%	4.9%
その他	167	155	-	12	92.6%	0.0%	7.4%
インフラ等復旧、まちづくり	47,331	26,563	13,707	7,060	56.1%	29.0%	14.9%
災害廃棄物等処理	7,384	3,488	3,810	84	47.2%	51.6%	1.1%
公共事業(災害復旧)	14,009	5,016	4,498	4,494	35.8%	32.1%	32.1%
施設等の災害復旧等	4,963	2,108	1,026	1,828	42.5%	20.7%	36.8%
復興に向けた公共事業等	4,275	2,157	1,586	531	50.5%	37.1%	12.4%
住宅	661	578	5	78	87.4%	0.8%	11.8%
東日本大震災復興交付金等	16,036	13,213	2,780	43	82.4%	17.3%	0.3%
産業の振興・雇用の確保	8,133	5,415	1,919	799	66.6%	23.6%	9.8%
産業振興	7,182	4,592	1,914	675	63.9%	26.7%	9.4%
災害関連融資	1,567	1,531	-	36	97.7%	0.0%	2.3%
中小企業への支援 ・立地補助事業等	2,719	1,285	1,310	123	47.3%	48.2%	4.6%
農林水産業の復興支援	1,401	841	246	313	60.0%	17.6%	22.4%
研究開発・再生エネルギー等	1,493	934	357	201	62.6%	23.9%	13.5%
雇用の確保	618	528	-	89	85.5%	0.0%	14.5%
その他	333	294	4	34	88.3%	1.4%	10.3%
原子力災害からの復興・再生	8,659	3,690	3,386	1,582	42.6%	39.1%	18.3%
風評被害対策・食の安全確保等	228	172	7	47	75.8%	3.5%	20.7%
除染等	6,556	2,105	2,939	1,511	32.1%	44.8%	23.1%
研究開発拠点整備等	1,332	1,149	164	18	86.3%	12.3%	1.4%
ふるさとの復活	208	0	207	0	0.2%	99.8%	0.0%
その他	333	261	67	5	78.3%	20.1%	1.6%
地方交付税交付金	6,704	6,704	-	-	100.0%	0.0%	0.0%
全国防災対策費	10,458	6,911	2,965	581	66.1%	28.4%	5.6%
その他	11,023	10,323	-	700	93.6%	0.0%	6.4%
合計	97,402	63,131	22,030	12,240	64.8%	22.6%	12.6%

※1 計数は、今後変動がありうる。

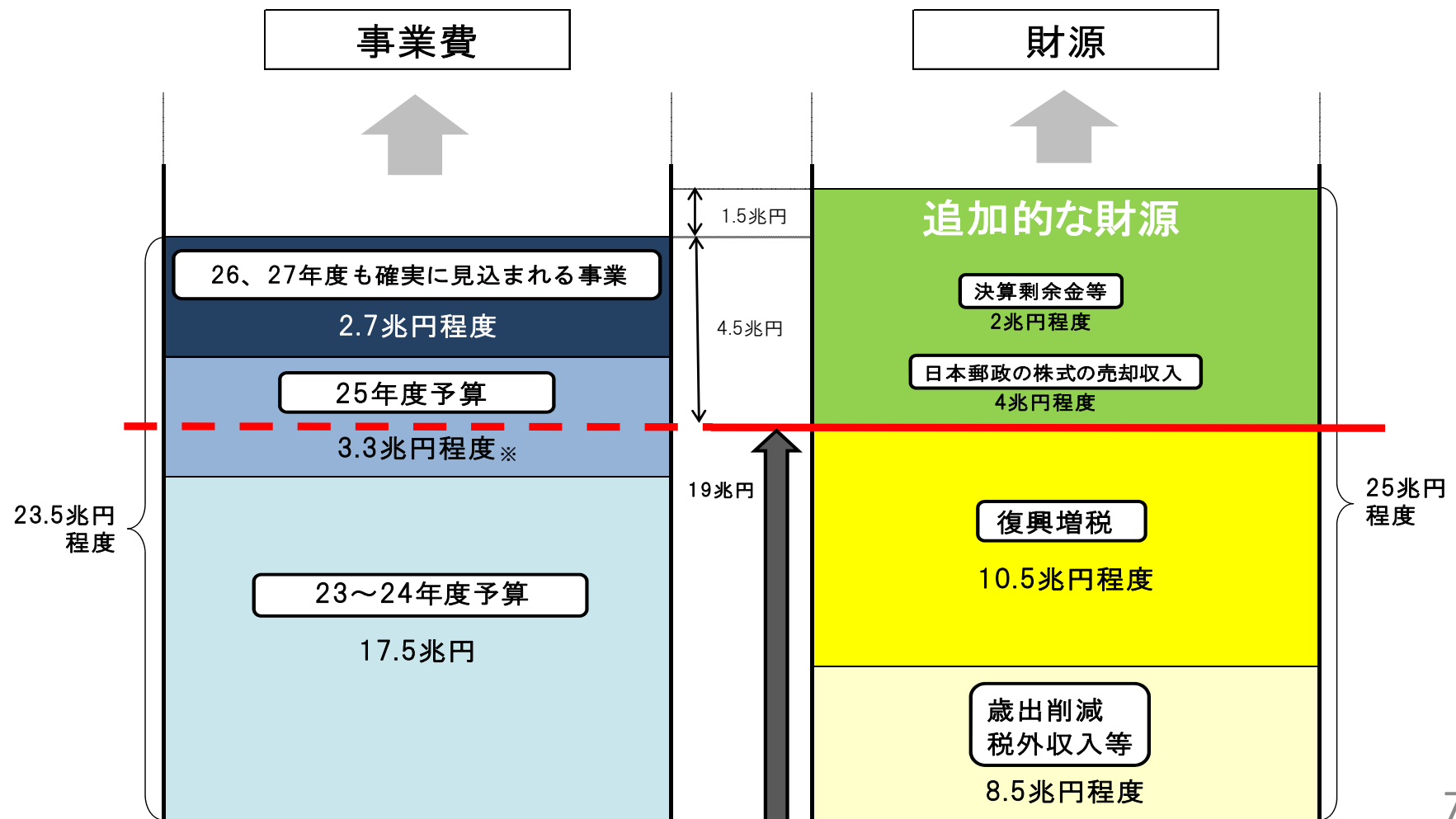
※2 計数は、億円未満を切り捨てているため、合計とは一致しない。

※3 計数は、平成23年度一般会計予算措置分(予備費・1次~3次補正)(繰越分)及び平成24年度東日本大震災復興特別会計分の合計額である。

3-3 復興財政フレームの見直し (H25.1.29 復興推進会議決定)



- 「集中復興期間」(平成23年度～平成27年度)における復旧・復興事業の規模と財源について、以下のとおり見直し(5年間19兆円を25兆円)を決定。
- 今後は、毎年度の予算編成において、被災地の復旧・復興に必要な施策・事業を見直したうえで、そのための財源の検討を行い、必要な予算を確保する。また、これを踏まえ、事業規模と財源の枠組みについて、必要に応じ、見直しを行う。



※原子力損害賠償法、原子力損害賠償支援機構法に基づき、事業者が負担すべき経費等は含まれていない。

3-4 被災自治体に対する東日本大震災に係る復旧・復興事業における 主な財政的支援について

復旧事業

国庫補助	地方負担
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 補助率のかさ上げ (例)公共土木施設等・・・8～9割(阪神・淡路大震災時は8割) ➤ 補助の算定方法の特例 公共土木施設等は総合負担軽減方式で算定(プール方式:各施設の災害復旧事業費を合算し補助率算出) ➤ 補助対象施設の拡大 市町村仮庁舎、介護老人保健施設等も補助(阪神・淡路大震災では対象外) 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地方負担は、原則、全額を震災復興特別交付税で措置 (通常の災害では地方債を発行)

復興事業

国庫補助	地方負担
<p>【復興交付金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 復興地域づくりに必要なハード事業(5省40事業)を一括化(地方負担分の5割を追加的に国庫補助) ➤ 基幹事業に関連し実施する用途の自由度の高い効果促進事業等により、ハード・ソフト事業二重に対応(補助率8割) <p>【福島の復興・再生に向けた交付金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 帰還を加速するための支援事業、復興公営住宅整備等長期避難者のコミュニティ維持のための事業、中通り等の子どものための全天候型運動施設整備等の事業 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 社会資本整備総合交付金、農山漁村地域整備交付金等の復興枠による支援 ➤ 地域経済の核となる中小企業等グループの施設の復旧等のためグループ補助金を創設 ➤ 既存の制度・予算での対応が困難な「制度の隙間」に対応するための復興推進調整費の創設 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地方負担は、原則、全額を震災復興特別交付税で措置 (通常の災害では地方債を発行する等により対応)

その他

- 中長期職員派遣、職員採用等の単独事業、地方税等の減収に対する震災復興特別交付税措置
- 取崩し型復興基金の創設(23年度2次補正(特別交付税の増額))、津波被災地域の住民の定着促進のため基金の積み増し等(24年度補正(震災復興特別交付税の増額))

3-5 復興特区制度① 復興推進計画に基づく特例の概要

○ 地方公共団体が作成し、内閣総理大臣の認定を受けた復興推進計画に基づき、税・金融上の特例、規制・手続の特例が講じられ、企業の新規立地や投資をはじめとする復興のための取組を促進。

特例措置の概要

税制上の特例

事業者の税負担の軽減

- ・取得する機械等に係る特別償却又は税額控除
- ・被災雇用者に対する給与等支給額の10%の税額控除
- ・新規立地新設企業を5年間無税 等

金融上の特例

事業者への低利融資

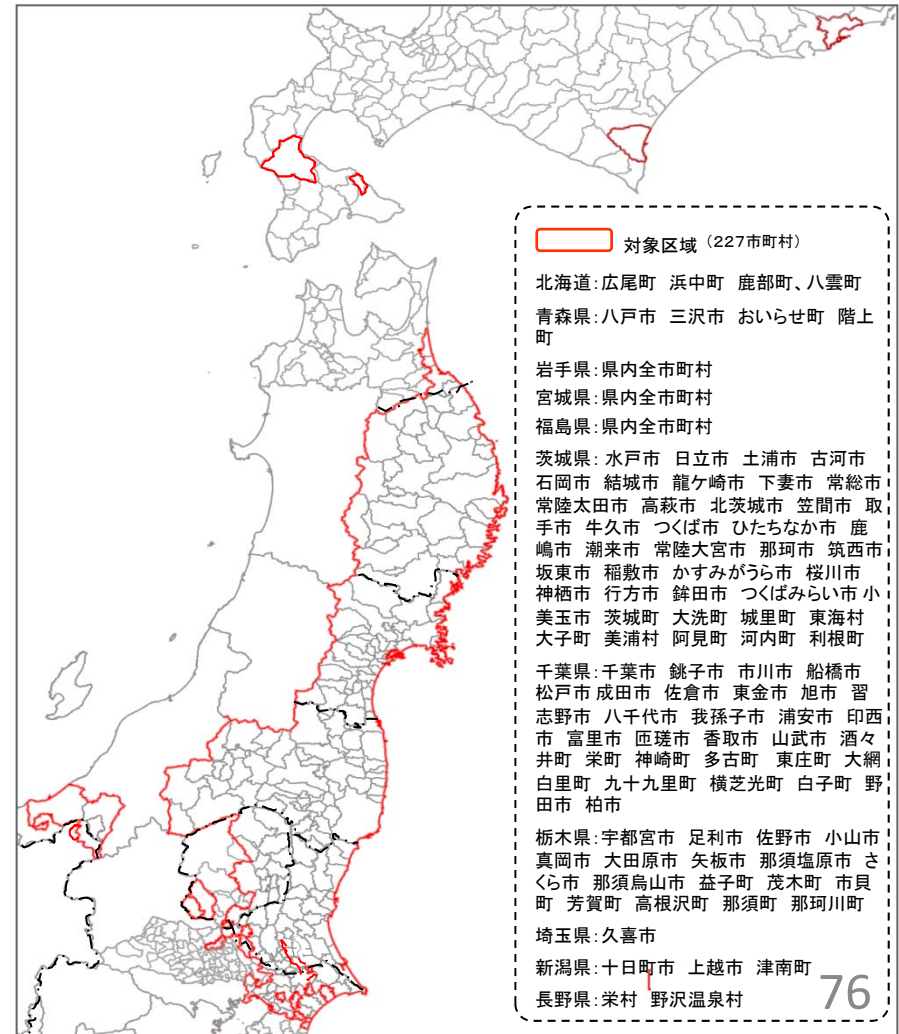
- ・指定金融機関に対する利子補給金の支給

規制・手続等の特例

土地の有効活用等、事業活動への負担軽減

- ・工場立地法上の緑地面積等の比率に係る要件の緩和
- ・都市計画で定められた土地用途に係る規制の緩和
- ・医療機器製造販売業の許可基準の緩和 等

対象区域





税制上の特例の適用を受けることができる指定事業者等の数は1,752(注1)、投資見込額(注2)は約1兆1,300億円、雇用予定数(注2)は約82,600人。

	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	合計
指定事業者等	148	254	492	533	378	1,805
投資見込額(億円)	320	935	3,025	2,456	4,578	11,314
雇用予定数(人)	4,100	5,620	23,020	25,600	24,260	82,600

(注1)複数の県で指定を受けている事業者等があるため、各県の指定事業者等の合計とは一致しない。

(注2)指定事業者等が指定を受ける際に提出する計画に記載した数字の合計。

(注3)指定事業者等、投資見込額及び雇用予定数は平成25年9月30日現在。

利子補給の認定計画に基づく推薦事業者への融資予定額(注1)は739億円、投資見込額は2,576億円。

	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	合計
融資予定額(億円)	12	6	67	353	301	739
投資見込額(億円)	62	6	135	593	1,780	2,576

(注1)推薦事業者が推薦を受ける際に提出する申請書に記載した数字の合計。

(注2)融資予定額及び投資見込額は平成25年3月31日現在。

(注3)利子補給の適用に関しては、25年度も案件の公募を実施する予定。

3-5 復興特区制度③

税制上・金融上の特例の活用事例



岩手県

- ・岩手県大船渡市で被災した「ゆわて吉田工業株式会社(プラスチック製品製造業)」。
- ・中小企業等グループ補助金及び復興特区法第37条の税制上の特例(機械等を取得した場合の特別償却又は税額控除)を活用。
- ・平成24年7月に、同市内の内陸部に新工場を移転建設。
- ・設備投資は総額17億円、新規に7人を雇用。



宮城県

- ・宮城県石巻市の事業所が被災した「株式会社メイコー(電子回路製造業)」。
- ・中小企業等グループ補助金及び復興特区支援 利子補給金を活用。
- ・平成25年2月に、同市内の重吉町に研究開発及び生産拠点を再整備。
- ・設備投資は総額11億円、30人を雇用。



福島県

- ・福島県いわき市の「株式会社クレハ(化学工業)」。
- ・企業立地補助金、復興特区法第37条の税制上の特例(機械等を取得した場合の特別償却又は税額控除)及び復興特区支援利子補給金を活用。
- ・平成26年3月に、同市内の樹脂製造工場を増設予定。
- ・設備投資は総額約134億円。



3-5 復興特区制度④ 規制の特例の活用状況

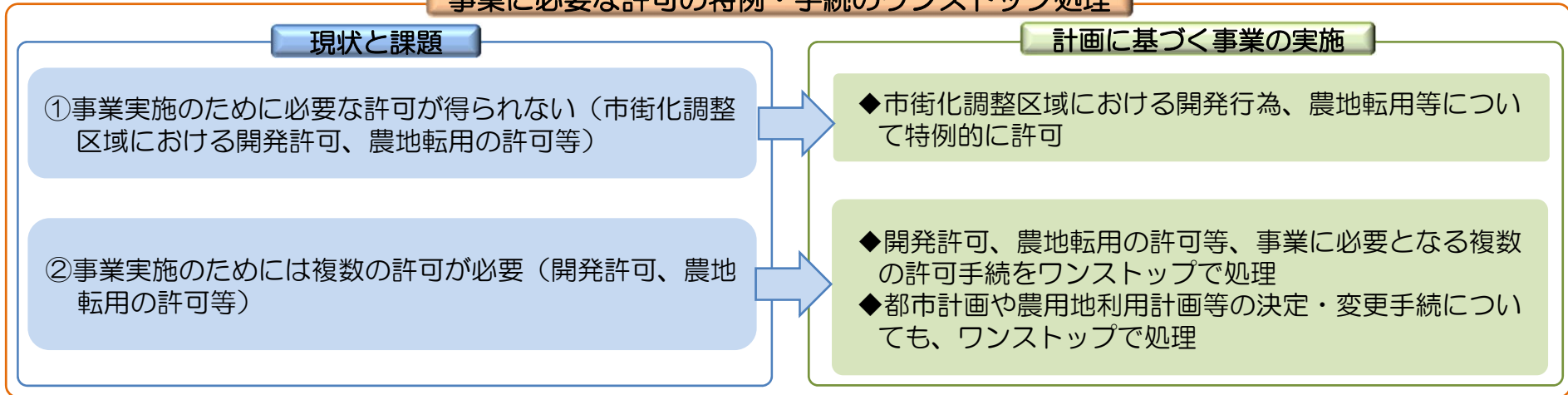
活用が見込まれる者	項目	内容	活用状況
事業者	工場緑地規制の緩和	工場立地法上の緑地面積等の比率に係る要件の緩和。	【活用実績】11件 【活用事例】A社(青森県)が、工場増設時に緑地面積率の緩和分(25%から6%に緩和)を駐車場等に活用。
事業者	土地用途規制の緩和	都市計画で定められた土地用途に係る規制の緩和。	【活用実績】3市町 【活用事例】宮城県女川町の二種住居地域等において、準工業地域における工場の建設が可能。
事業者	医療機器製造販売業の特例	医療機器製造販売業の許可基準の緩和	【活用実績】47名 【活用事例】岩手県、宮城県、福島県において講習が行われ、受講したうちの47名が資格を獲得。
会社法人、地方公共団体、学校法人等	応急仮設建築物の特例	最長2年3カ月である仮設建築物の存続期間の要件を緩和。	【活用実績】5県50市町村 【活用事例】南相馬市(福島県)において、事務所・商店等の仮設建築物につき、存続期間を3年間延長。
会社法人等	訪問リハビリ事業所等の特例	訪問リハビリテーション事業主体に係る要件を緩和。	【活用実績】5件 【活用事例】岩手県において、会社法人によるC訪問リハビリテーション事業所が開設。
医療法人等 (医療機関、福祉施設等)	地域医療確保の特例	病院において配置すべき医師等の数に係る基準を緩和。	【活用実績】10件 【活用事例】B病院(宮城県)において、通常の90%相当に緩和された医師配置基準を適用。
地域住民 地方公共団体	災害公営住宅入居要件等の特例	公営住宅への入居に係る収入等の要件を緩和する特別法の適用期間(3年)の延長等を可能とする。	【活用実績】5県148市町村 【活用事例】千葉県旭市において、建設される公営住宅(33戸)と既存の公営住宅につき、入居要件緩和の適用期間(平成26年3月まで)を1年延長。
地域住民	確定拠出年金の特例	確定拠出年金の脱退要件を緩和し、住環境の再建や事業再開等への資金活用を可能とする。	【活用実績】14名 【活用事例】福島県、宮城県、岩手県、及び茨城県の一部の市町で緩和。住宅再建資金等に活用。

注：活用実績及び事例は、平成25年10月31日現在のもの。

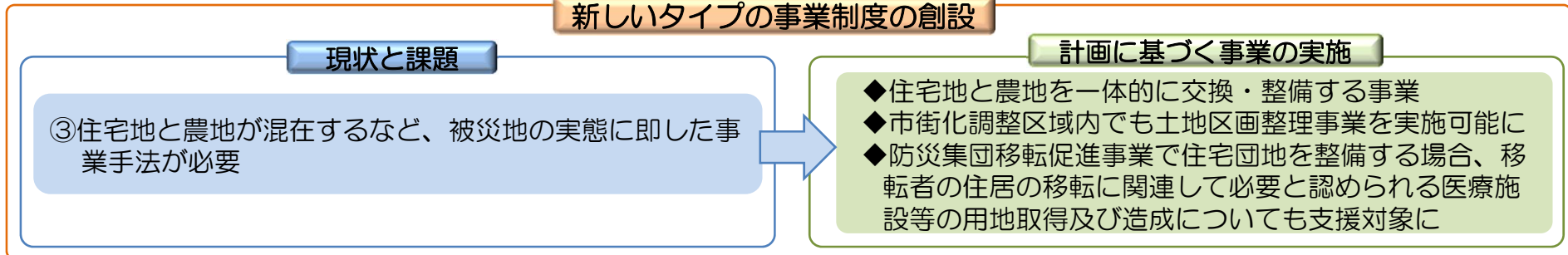
3-5 復興特区制度⑤ 規制の特例の活用状況

既存の土地利用計画（都市、農地、森林等）の枠組みを超えて、迅速な土地利用再編を行う特例措置を創設し、地域の実情に応じた復興まちづくりを速やかに実現

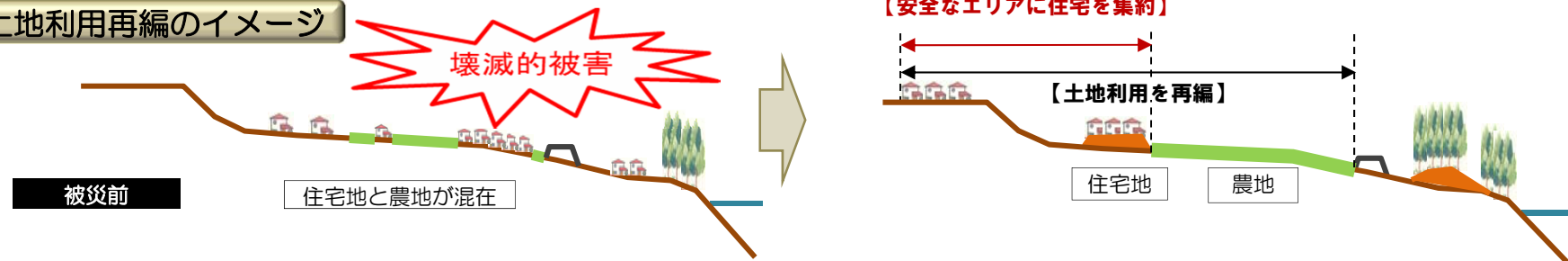
事業に必要な許可の特例・手続のワンストップ処理



新しいタイプの事業制度の創設



土地利用再編のイメージ



3-5 復興特区制度⑥ 復興整備計画の活用状況

(平成25年11月6日現在)

地域	対象市町村	事業施行地区	復興整備事業の内容	主な許認可等の特例
岩手	○計10市町村 (宮古市、大船渡市、久慈市、 陸前高田市、釜石市、山田町、 大槌町、岩泉町、田野畑村、 野田村)	計123地区	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地開発事業 (宮古市等の計20地区) ・集団移転促進事業 (宮古市等の計37地区) ・都市施設の整備に関する事業 (宮古市等の計43地区) ・土地改良事業 (釜石市の計1地区) ・その他施設(例:サケふ化場)の整備に関する事業 (宮古市等の計45地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地法の転用許可みなし (宮古市等の計41地区)
宮城	○計13市町 (仙台市、石巻市、塩竈市、 気仙沼市、名取市、岩沼市、 東松島市、亘理町、山元町、 七ヶ浜町、利府町、女川町、 南三陸町)	計269地区	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地開発事業 (石巻市等の計26地区) ・集団移転促進事業 (仙台市等の計187地区) ・都市施設の整備に関する事業 (石巻市等の計31地区) ・その他施設(例:太陽光発電)の整備に関する事業 (仙台市等の計59地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地法の転用許可みなし (仙台市等の計169地区) ・都市計画法の開発許可みなし (石巻市等の計62地区) ・自然公園法の建設等許可みなし (石巻市等の計21地区)
福島	○計5市町 (いわき市、相馬市、南相馬市、 広野町、新地町)	計144地区	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地開発事業 (いわき市等の計7地区) ・集団移転促進事業 (いわき市等の計54地区) ・都市施設の整備に関する事業 (いわき市等の計58地区) ・土地改良事業 (相馬市等の計6地区) ・その他施設(例:植物工場)の整備に関する事業 (いわき市等の計29地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地法の転用許可みなし (いわき市等の計68地区) ・都市計画法の開発許可みなし (いわき市等の計14地区)

※ 1つの地区で複数の事業を実施している場合があるため、「事業施行地区」欄の地区数と「復興整備事業の内容」欄の地区数の合計とは、必ずしも一致しない。

3-6 復興交付金①

- 東日本大震災により、著しい被害を受けた地域において、災害復旧だけでは対応が困難な市街地の再生等の復興地域づくりを、一つの事業計画の提出により一括で支援。
- 復興地域づくりに必要な事業の幅広い一括化、自由度の高い効果促進事業、全ての地方負担への手当て、基金による執行の弾力化等、既存の交付金等を超えた極めて柔軟な制度。

参考：東日本大震災復興特別区域法（抄）

第七十七条 特定地方公共団体である市町村（以下この章において「特定市町村」という。）は単独で、又は、特定市町村と当該特定市町村の存する都道府県（次節において「特定都道府県」という。）は共同して、東日本大震災により、相当数の住宅、公共施設その他の施設の滅失又は損壊等の著しい被害を受けた地域の円滑かつ迅速な復興のために実施する必要がある事業に関する計画（以下この章において「復興交付金事業計画」という。）を作成することができる。

基幹事業

- ・被災自治体の復興地域づくりに必要なハード事業を幅広く一括化(5省40事業→右表参照)。

効果促進事業等(関連事業)

- ・基幹事業に関連して自主的かつ主体的に実施する事業
- ・用途の自由度の高い資金により、ハード・ソフト事業ニーズに対応(補助率80%、基幹事業費の35%を上限)

地方負担の軽減

- ・①及び②により地方の負担は全て国が手当て
 - ① 基幹事業に係る地方負担分の50%を追加的に国庫補助
 - ② 地方負担分は地方交付税の加算により全て手当て

執行の弾力化・手続の簡素化

- ・市町村の復興交付金事業計画全体(関連する県事業を含む)をパッケージで復興局、支所等に提出
- ・事業間流用、基金の設置、交付・繰越・変更等の諸手続の簡素化

文部科学省	
1	公立学校施設整備費国庫負担事業(公立小中学校等の新増築・統合)
2	学校施設環境改善事業(公立学校の耐震化等)
3	幼稚園等の複合化・多機能化推進事業
4	埋蔵文化財発掘調査事業
厚生労働省	
5	医療施設耐震化事業
6	介護基盤復興まちづくり整備事業(「定期巡回・随時対応サービス」や「訪問看護ステーション」の整備等)
7	保育所等の複合化・多機能化推進事業
農林水産省	
8	農山漁村地域復興基盤総合整備事業(集落排水等の集落基盤、農地等の生産基盤整備等)
9	農山漁村活性化プロジェクト支援(復興対策)事業(被災した生産施設、生活環境施設、地域間交流拠点整備等)
10	震災対策・戦略作物生産基盤整備事業(麦・大豆等の生産に必要な水利施設整備等)
11	被災地域農業復興総合支援事業(農業用施設整備等)
12	漁業集落防災機能強化事業(漁業集落地盤高上げ、生活基盤整備等)
13	漁港施設機能強化事業(漁港施設用地高上げ、排水対策等)
14	水産業共同利用施設復興整備事業(水産業共同利用施設、漁港施設、放流用種苗生産施設整備等)
15	農林水産関係試験研究機関緊急整備事業
16	木質バイオマス施設等緊急整備事業
国土交通省	
17	道路事業(市街地相互の接続道路等)
18	道路事業(高台移転等に伴う道路整備(区画整理))
19	道路事業(道路の防災・震災対策等)
20	災害公営住宅整備事業等(災害公営住宅の整備、災害公営住宅に係る用地取得造成等)
21	災害公営住宅家賃低減化事業
22	東日本大震災特別家賃低減事業
23	公営住宅等ストック総合改善事業(耐震改修、エレベーター改修)
24	住宅地区改良事業(不良住宅除却、改良住宅の建設等)
25	小規模住宅地区改良事業(不良住宅除却、小規模改良住宅の建設等)
26	住宅市街地総合整備事業(住宅市街地の再生・整備)
27	優良建築物等整備事業
28	住宅・建築物安全ストック形成事業(住宅・建築物耐震改修事業)
29	住宅・建築物安全ストック形成事業(がけ地近接等危険住宅移転事業)
30	造成宅地滑動崩落緊急対策事業
31	津波復興拠点整備事業
32	市街地再開発事業
33	都市再生区画整理事業(被災市街地復興土地区画整理事業等)
34	都市再生区画整理事業(市街地液状化対策事業)
35	都市防災推進事業(市街地液状化対策事業)
36	都市防災推進事業(都市防災総合推進事業)
37	下水道事業
38	都市公園事業
39	防災集団移転促進事業
環境省	
40	低炭素社会対応型浄化槽等集中導入事業

3-6 復興交付金②

復興交付金の予算規模

- 事業費 3兆288億円 国費 2兆4,397億円

うち、平成23年度第3次補正予算	事業費 1兆9,307億円	国費 1兆5,612億円
平成24年度予算	事業費 3,584億円	国費 2,868億円
平成25年度予算	事業費 7,397億円	国費 5,918億円

復興交付金のこれまでの配分額

(第1回:24年3月2日、第2回:5月25日、第3回:8月24日、第4回:11月30日、第5回:25年3月8日、第6回:6月25日、第7回:11月29日)

【第1回から第7回までの合計額】(申請額を上回る額を配分)

	事業費	国費
申請額	2兆713億円	1兆6,216億円
配分額	2兆2,339億円	1兆8,062億円

【第1回から7回までの各回の申請額及び配分額】

	申請額		配分額	
	事業費	国費	事業費	国費
第1回 (24年3月2日)	4,991億円	3,899億円	3,055億円	2,510億円
第2回 (24年5月25日)	2,139億円	1,696億円	3,165億円	2,612億円
第3回 (24年8月24日)	1,423億円	1,110億円	1,806億円	1,435億円
第4回 (24年11月30日)	7,222億円	5,689億円	8,803億円	7,148億円
第5回 (25年3月8日)	2,139億円	1,625億円	2,540億円	1,998億円
第6回 (25年6月25日)	545億円	442億円	632億円	527億円
第7回 (25年11月29日)	2,254億円	1,755億円	2,338億円	1,832億円

3-6 復興交付金③

復興交付金の主な用途と取組(1)

基幹事業

- 生業の再建、住まいの確保等復興まちづくりに必要な事業を幅広く支援。

- ・防災集団移転促進事業（28市町村(事業費219地区、約1.2万戸(住宅団地)、約4,812億円)
- ・災害公営住宅整備事業（56市町村(約1.8万戸)、約5,069億円)
- ・道路事業（49市町村、約2,657億円)
- ・水産・漁港関連施設整備事業（34市町村、約1,787億円)
- ・都市再生区画整理事業(被災市街地復興土地区画整理事業等)（20市町村、約1,582億円)
- ・農地整備、農業用施設等整備事業（35市町村、約1,358億円)

(事業費ベース)

- それに加えて、住宅、生業の再建にとどまらないまちづくりの新たな課題に対応するため、以下のような事業にも対応。

○津波復興拠点における施設整備

- ・公益施設(地域交流センター)
- ・防災拠点施設(津波避難デッキ、防災センター)
- ・その他便益施設(駐車場、広場)

○防集跡地の利用方策

- ・大規模な農地整備
- ・津波防災緑地、公園整備
- ・漁業集落の嵩上げ

○将来を見据えた農業・水産業関連機械・施設整備

- ・将来の営農再開に対応する農業用機械(トラクター、コンバイン等)導入
- ・水産業の関連施設(残渣処理施設、排水処理施設等)整備

○観光・交流施設整備

- ・自治会館、コミュニティセンター
- ・キャンプ場復旧、農林水産物販売施設

3-6 復興交付金④

復興交付金の主な使途と取組(2)

効果促進事業等

- 基幹事業に関連して市町村等が自主的かつ主体的に実施する復興事業を支援。ネガティブリスト(※)に該当しないものには基本的に対応するとの方針の下、幅広い事業ニーズに対応。

(※)①市町村等の経常的な経費に充当を目的とする事業、②二重補助となる事業、③専ら個人・法人の負担軽減や資産形成のための事業

(主な活用例)

- ・ 市街地整備等の効率的な促進支援
市街地整備コーディネート、住民合意形成の促進、権利関係調整
- ・ 被災者の生活再建支援
被災者への生活健康相談支援、被災高齢者向け巡回活動支援、被災者へのコミュニティバス運行支援
- ・ 地域ニーズに合ったまちづくりの推進
災害公営住宅団地における売店、診療所等の小規模店舗の配置、災害公営住宅周辺の憩いの場整備、都市下水路のポンプ場整備事業、区画整理区域内の通信施設の既設管路の移設補償、盛土材の仮置場支援、仮設ポンプ設置(内水排除対策)支援、消防屯所の新築整備事業、駅前駐輪場整備、埋蔵文化財収蔵庫整備、私立幼稚園用地整備、グラウンド照明設備の整備事業、不登校の小中学生を対象とした適応指導教室の復旧整備
- ・ まちづくりに合わせた防災機能の向上
津波避難タワーの整備、防災行政無線のための屋外放送塔整備、津波避難シミュレーション調査、津波監視カメラ
防災用備蓄倉庫・耐震性貯水槽の整備、液状化対策マップ
- ・ 産業、観光業の復興等にぎわいの再生支援
一定の利用見込みのある商業・産業用地の嵩上げ、防集跡地を含む進出見込みのある企業用地の整備、水産加工団地整備のための計画策定、農林水産物のPR・販売促進、砂浜の再生調査・整備、水族館の水槽整備、スポーツ交流拠点ビジョン策定、震災遺構保存に向けた調査

- また、事業実施主体に関する運用を弾力化し、県は市町村の、市町村は県の基幹事業に関連し、効果促進事業等を実施することを可能に。

例：県の農地圃場整備に関連して市町村が効果促進事業としてPR事業実施が可能

3-6 復興交付金⑤

復興交付金の主な使途と取組(3)

効果促進事業等の一括配分の実施

- 復興まちづくりの根幹をなす5事業(※)には、幅広い関連事業が存在。交付手続の簡素化のため、県及び市町村に、効果促進事業等の予算の一定割合を先渡し。内訳書の提出により、自治体の判断による迅速な事業実施が可能。
- 第5回配分において、県への一括配分を創設。また、一括配分で実施可能な対象事業を限定列挙したポジティブリストを廃止。

(※)漁業集落防災機能強化事業、津波復興拠点整備事業、市街地再開発事業、都市再生区画整理事業、防災集団移転促進事業の5事業

被災地の要望への対応

- そのほか、被災地の負担軽減のため、要望を踏まえて以下の対応を実施。

・復興交付金基金の活用

7県と89市町村において復興交付金の受け皿となる基金を設置(25年11月現在)。
繰越等の手続なく予算執行が可能。

・交付決定前の事業着手

特例的に交付決定前の事業着手が可能(これまで60件活用(25年11月現在))。

・事務手続の簡素化

制度創設より申請書類の1/3を廃止するなど、事務手続を大幅に簡素化。

3-6 復興交付金⑥

主な市町村におけるこれまでの復興交付金の活用事例(1)

①岩手県

陸前高田市(配分額:事業費1,212億円)

- 土地区画整理事業(都市計画決定:316.7ha、320億円)
- 災害公営住宅の整備(215億円)
- 防災集団移転促進事業(5地区、240億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(16事業、69億円)
- 津波復興拠点整備事業(2地区、60億円)
- 水産加工団地等における民間の水産加工場の整備(55億円)
- 圃場整備事業(2地区、38億円)
- (その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 保育所再建整備(2億円)
- 災害公営住宅の下層階への生活利便施設の整備(1.5億円)
- 自治会館の整備(0.4億円)等

山田町(配分額:事業費860億円)

- 防災集団移転促進事業(5地区、350億円)
- 災害公営住宅の整備(114億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(19事業、87億円)
- 土地区画整理事業(4地区、49億円)
- 漁業集落防災機能強化事業(2地区、42億円)
- 民間の水産加工場の整備(29億円)
- 津波復興拠点整備事業(24億円)
- (その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 水産加工施設再建に伴う設備導入支援(4億円)
- ボランティア等向けの簡易宿泊施設(トレーラーハウス)整備(0.3億円)
- 流出した砂浜再生に向けた調査(0.1億円)等

釜石市(配分額:事業費1,024億円)

- 災害公営住宅の整備(383億円)
- 津波復興拠点整備事業(2地区、92億円)
- 水産加工団地及び民間水産加工場の整備(76億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(14事業、47億円)
- (その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 復興拠点における駐車場の整備(6億円)
- 仮設警察署・免許センターの駐車場の整備(2億円)
- 障がい者就労支援施設用地整備(0.7億円)
- 鶴住居地区スポーツ交流拠点ビジョン策定(0.4億円)
- 市営墓地の整備(0.2億円)
- 史跡案内板の復旧(0.1億円)等

大船渡市(配分額:事業費733億円)

- 災害公営住宅の整備(208億円)
- 防災集団移転促進事業(22地区、171億円)
- 民間の水産加工場整備、製氷施設整備、船揚場の嵩上げ(89億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(25事業、88億円)
- 津波復興拠点整備事業(42億円)
- 学校施設関連(公立学校の新増築・統合、保育園の多機能化等、31億円)
- 土地区画整理事業(21億円)
- (その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 菌床しいたけ生産施設等の整備(2億円)
- 地盤沈下地域の内水排除のための地盤嵩上げ(2億円)等

大槌町(配分額:事業費917億円)

- 防災集団移転促進事業(6地区、263億円)
- 災害公営住宅の整備(250億円)
- 水産加工団地及び民間水産加工場の整備(83億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(11事業、35億円)
- (その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 町所有のさけますふ化場等の整備(7億円)
- 災害公営住宅のピロティ部分を駐車場等に整備(0.5億円)
- 中学校仮設運動場の整備(0.2億円)
- 公営住宅長寿命化計画策定(0.1億円)等

宮古市(配分額:事業費665億円)

- 災害公営住宅の整備(176億円)
- 防災集団移転促進事業(5地区、161億円)
- 水産加工団地における民間の水産加工場の整備、水産物卸売市場の整備(80億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(15事業、50億円)
- 土地区画整理事業(2地区、43億円)
- 津波復興拠点整備事業(2地区、9億円)
- (その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 地盤沈下地域の内水排除のための地盤嵩上げ(2億円)
- 津波遺構保存整備事業(たろう観光ホテル保存)(2億円)等

3-6 復興交付金⑦

主な市町村におけるこれまでの復興交付金の活用事例(2)

②宮城県

石巻市(配分額:事業費2,547億円)

- 災害公営住宅の整備(776億円)
- 防災集団移転促進事業(48地区、563億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(45事業、501億円)
- 土地区画整理事業(177億円)
- 水産加工団地における民間の水産加工場の整備、水産物卸売市場の整備(173億円)
- 漁業集落防災機能強化事業(14地区、3億円)
(その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 津波被災企業等のための企業用地の整備(6億円)
- 区画整理地区内の内水排除のための嵩上げ(3億円)
- 不登校の児童生徒を対象とした適応指導教室の復旧(0.9億円)
- 消防署の新築(0.4億円)等

気仙沼市(配分額:事業費1,832億円)

- 防災集団移転促進事業(39地区、464億円)
- 災害公営住宅の整備(369億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(42事業、272億円)
- 水産加工団地における民間の水産加工場整備(230億円)
(その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 地盤沈下地域の内水排除のための嵩上げ(16億円)
- 水産試験場の復旧整備(11億円)
- 地盤嵩上げのための土砂の仮置場設置(9億円)
- 埋蔵文化財収蔵庫整備(0.4億円)等

仙台市(配分額:事業費1,614億円)

- 防災集団移転促進事業(2地区、553億円)
- 災害公営住宅の整備(416億円)
- 造成宅地の滑动崩落への対策工事(309億円)
- 地盤沈下地域の内水排除の為に下水道(100億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(3事業、40億円)
- 農業用施設・機械の整備事業(24億円)
- 圃場整備(16億円)
(その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 滑动崩落に起因する土地境界調整への専門家派遣(0.3億円)等

東松島市(配分額:事業費1,226億円)

- 防災集団移転促進事業(1地区、270億円)
- 災害公営住宅の整備(199億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(11事業、189億円)
- 土地区画整理事業(都市計画決定:111.8ha、179億円)
- 農地の圃場整備や農業用施設等の整備(81億円)
(その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 防集跡地における企業用地整備(9億円)
- 埋蔵文化財収蔵庫整備(0.6億円)
- 排水機場整備完了までの間のポンプ車等借上げ支援(0.2億円)等

南三陸町(配分額:事業費952億円)

- 防災集団移転促進事業(20地区、345億円)
- 災害公営住宅の整備(161億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(18事業、112億円)
- 水産物卸売市場及び民間の水産加工場の整備(71億円)
- 津波復興拠点整備事業(2地区、70億円)
- 土地区画整理事業(都市計画決定:60.2ha、26億円)
(その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 漁港施設用地の嵩上げ(13漁港、2億円)
- シロサケふ化場整備(0.3億円)
- 子育て支援(保育所等)拠点整備(0.1億円)
- 水産加工場用地塩水取配水施設整備(0.1億円)等

女川町(配分額:事業費908億円)

- 土地区画整理事業(都市計画決定:226.4ha、236億円)
- 防災集団移転促進事業(15地区、204億円)
- 水産加工団地における排水処理施設、水産物卸売市場及び民間の水産加工場の整備(107億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(12事業、107億円)
- 災害公営住宅の整備(100億円)
(その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 区画整理事業予定地の既設構造物除却、撤去(2億円)等

山元町(配分額:事業費756億円)

- 災害公営住宅の整備(149億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(6事業、126億円)
- 津波復興拠点整備事業(2地区、113億円)
- 防災集団移転促進事業(1地区、99億円)
- 圃場整備(94億円)
- いちご栽培用ハウス、関連機械の再建整備(77億円)
(その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 中浜小学校の遺構としての保存に向けた調査(0.1億円)
- 子育て拠点関連施設の再建整備(4百万円)等

亘理町(配分額:事業費705億円)

- 圃場整備(173億円)
- 災害公営住宅の整備(148億円)
- いちご栽培用ハウス、関連機械の再建整備(114億円)
- 防災集団移転促進事業(6地区、103億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(8事業、62億円)
- 農業用施設・機械の整備事業(19億円)
- 民間の水産加工場の整備(15億円)
(その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- いちご選果場整備(10億円)
- 花卉・野菜団地造成(5億円)
- 漁具倉庫の整備(2億円)等

岩沼市(配分額:事業費628億円)

- 防災集団移転促進事業(1地区、157億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(9事業、141億円)
- 圃場整備(2地区、84億円)
- 排水路・排水機整備事業(3地区、73億円)
- 災害公営住宅の整備(50億円)
- 農業用施設・機械の整備事業(42億円)
- 防災緑地などの都市公園整備事業(2地区、26億円)
(その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 道路整備促進(工事監督支援)(0.5億円)等

3-6 復興交付金⑧

主な市町村におけるこれまでの復興交付金の活用事例(3)

③福島県

いわき市(配分額:事業費1,230億円)

- 災害公営住宅の整備(464億円)
- 土地区画整理事業(166億円)
- 津波防災緑地等の都市公園事業(7地区、163億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(20事業、114億円)
- 水産物卸売市場等の整備(66億円)
- (その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 水産調査船「いわき丸」の建造(6億円)
- 被災した集会所の整備(9か所、3億円)
- いちごのブランド化促進(施設整備、販路拡大等)(0.7億円) 等

南相馬市(配分額:事業費518億円)

- 防災集団移転促進事業(3地区、192億円)
- 災害公営住宅の整備(102億円)
- 圃場整備(94億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(5事業、31億円)
- 被災した園芸施設の整備(20億円)
- (その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 復興作業用住居の建設補助(3億円)
- 新たな農産特産品・加工品の開発、販路開拓等(1億円)
- 埋蔵文化財収蔵庫整備(1.4億円)
- 木造の市民交流センターの整備(0.5億円) 等

相馬市(配分額:事業費577億円)

- 防災集団移転促進事業(8地区、179億円)
- 災害公営住宅の整備(83億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(28事業、59億円)
- 共同利用の水産加工施設等の再建(49億円)
- 津波防災緑地の整備(1地区、49億円)
- (その他、以下のようなきめ細かいニーズに対応)
- 地盤沈下地区の内水排除のための嵩上げ(8億円)
- 被災者への生活・健康相談支援(2億円) 等

新地町(配分額:事業費316億円)

- 防災集団移転促進事業(7地区、94億円)
- 復興まちづくりと一体となった道路整備(7事業、40億円)
- 津波防災緑地の整備(2地区、38億円)
- 災害公営住宅の整備(35億円)
- 土地区画整理事業(1地区、28億円)
- 津波復興拠点整備事業(1地区、26億円)
- 農業用施設・機械の整備事業(2億円) 等

※ その他の市町村においても、地域の実情に応じ、以下のような用途にも復興交付金を活用

須賀川市(配分額:事業費46億円)

- ・市街地再開発事業(20億円)
- ・地震により決壊した藤沼ダム周辺の被災した地域交流拠点の再建(5億円)

二本松市(配分額:事業費2億円)

- ・造成宅地の滑動崩落への対策工事(1億円)
- ・仮設住宅により使用できない運動場の代替施設への照明整備(0.5億円)

白河市(配分額:事業費5億円)

- ・災害公営住宅の整備(3億円)

楢葉町(配分額:事業費22億円)

- ・防災集団移転促進事業(1地区、14億円)
- ・造成宅地の滑動崩落への対策工事(2億円)

川俣町(配分額:事業費0.9億円)

- ・原発事故により使用できない鶏飼育施設の代替施設の整備(0.6億円)

飯舘村(配分額:事業費8億円)

- ・原発事故からの避難先での営農再開のための農業施設の整備(4億円)
- ・災害公営住宅の整備(2億円)

川内村(配分額:事業費5億円)

- ・野菜工場の復興整備(3億円)
- ・被災した地域間交流施設の修復(2億円)

浪江町(配分額:事業費6億円)

- ・津波により流失した共同墓地の移転整備(2億円)

※ 総務省まとめ

1 取崩し型復興基金の創設（平成23年度）

東日本大震災からの復興に向けて、被災団体が地域の実情に応じて、住民生活の安定やコミュニティの再生、地域経済の振興・雇用維持等について、単年度予算の枠に縛られずに弾力的かつきめ細かに対応できる資金として、復興基金を創設。

2 復興基金への特別交付税措置（基金の規模）

現在の低金利の状況では従来の運用型基金は有効ではないことから、取崩し型基金により対応することとして、特定被災地方公共団体である9県が基金を設置することとなる場合について、阪神・淡路大震災における措置等を踏まえ、2次補正により増額された既存の特別交付税により措置。

（単位：億円）

青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	栃木県	千葉県	新潟県	長野県	合計
80	420	660	570	140	40	30	10	10	1,960

※ 被災者生活再建支援制度等の阪神・淡路大震災後の制度改正や平成23年度補正予算等で国庫補助対象となったものを除き、措置対象を同レベルとした場合の阪神・淡路大震災復興基金の措置額 960億円程度

3 基金の使途・運用

基金を具体的にどのように使うのか、直営方式・財団方式等どのような運用をするかについては、各県の判断に委ねられる。各県においては、きめ細かな事業を実施するという基金の趣旨から、市町村事業に十分に配慮した運用を実施。

4 交付時期

基金の設置について、12月分の特別交付税により措置(平成23年12月14日交付)。

3-7 東日本大震災に係る「取崩し型復興基金」について②

○東日本大震災に係る「取崩し型復興基金」の各県の活用状況について

※ 総務省まとめ
(単位：百万円)

県名	基金名	基金規模	特別交付税措置額	復興基金活用額		〈参考〉		備考
				平成23・24年度 (実績額) (①)	平成25年度 (当初予算) (②)	活用累計額 (①+②)	うち市町村への 交付金	
青森県	青森県東日本大震災復興推進基金	8,000	8,000	4,429	1,032	5,461	(4,000)	
岩手県	東日本大震災津波復興基金	42,600	42,000	25,311	6,959	32,271	(21,000)	基金規模には、 寄附金を含む
宮城県	東日本大震災復興基金	66,000	66,000	40,968	5,590	46,558	(33,000)	
福島県	福島県原子力災害等復興基金	57,000	57,000	32,806	6,780	39,586	(28,500)	
茨城県	茨城県東日本大震災復興基金	15,733	14,000	9,298	1,621	10,919	(7,000)	基金規模には、 寄附金を含む
栃木県	栃木県東日本大震災復興推進基金	4,000	4,000	2,520	725	3,245	(2,000)	
千葉県	千葉県東日本大震災市町村復興基金	3,000	3,000	2,000	0	2,000	(2,000)	H25.6月補正で市町村への 交付金1,000百万円を 計上予定
新潟県	(公財)新潟県中越大地震復興基金	1,000	1,000	577	273	850	(500)	財団において特別 会計を設置
長野県	長野県栄村復興基金	1,000	1,000	92	500	592	(592)	全額栄村に交付 予定
合計		198,333	196,000	118,001	23,480	141,482	(98,592)	

○復興基金からの市町村交付金の活用状況について

(単位：百万円)

県名	交付金事業名	市町村交付金額 (既交付額)	交付金活用額		〈参考〉 交付金活用累計額 (①+②)	備考
			平成23・24年度 (実績額) (①)	平成25年度 (当初予算) (②)		
青森県	青森県東日本大震災復興推進交付金	4,000	404	726	1,130	活用額には一部 寄附金等を含む
岩手県	東日本大震災津波復興基金市町村交付金	21,000	3,909	3,785	7,694	活用額には一部 寄附金等を含む
宮城県	東日本大震災復興基金交付金	33,000	4,951	6,261	11,212	活用額には一部 寄附金等を含む
福島県	福島県市町村復興支援交付金	28,500	4,475	7,714	12,189	
茨城県	市町村復興まちづくり支援事業費交付金	7,000	2,972	1,753	4,725	
栃木県	東日本大震災復興推進事業交付金	2,000	557	580	1,137	
千葉県	「がんばろう！千葉」市町村復興基金交付金	2,000	877	502	1,379	県のH25.6月補正に市町村への 交付金1,000百万円を交付予定
新潟県	東日本大震災復興事業交付金	500	210	178	388	
長野県	長野県栄村復興交付金	592	92	146	238	
合計		98,592	18,447	21,645	40,091	

※ 復興基金を活用した市町村への交付金を受けて、市町村が基金を設けるなどしたうえで復興事業を執行。

3-7 東日本大震災に係る「取崩し型復興基金」について③

※ 総務省まとめ

「取崩し型復興基金」を活用した主な事業（県）

【市町村向け交付金】（986億円）

- 地域の実情に応じた復興事業を実施するための市町村交付金

【生活支援】（30億円）

- 被災者の心の健康の保持増進を図るための相談支援
- 仮設住宅における防犯ボランティアへの支援
- 仮設住宅の共同利用施設の維持管理費への補助
- 被災地域の集会所等のコミュニティ施設の再建支援 など

【住宅対策】（50億円）

- 災害救助法等の対象とされない被災住宅の補修等への支援
- 融資が困難な被災者の宅地復旧工事等への支援 など

【教育文化対策】（30億円）

- 私立学校・私立博物館等の災害復旧に対する支援
- 部活動に必要な備品の購入や施設の修繕等に対する支援
- 被災地における芸術・文化活動に対する支援 など

【産業復興・地域振興対策】（160億円）

- 被災商店街の復興支援や地域産業再生のための販路開拓支援
- 被災中小企業の早期復興のための経営相談等による支援
- 小規模農地や補助対象外の農林水産業施設の復旧に対する支援
- 早期の経営再開のために必要なウニ、アワビ等の種苗や代替家畜等の導入支援
- 被災農業者向けの農林業復興等に関する研修等への支援
- 被災者の就業支援や事業主の雇用維持に対する支援
- 被災地の観光振興に対する支援 など

【融資への利子補給】（110億円）

- 県の復興融資を利用した中小企業に対する利子補給
- 経営再建のための融資を活用した被災農林漁業者に対する利子補給
- 二重住宅ローンを抱える被災者に対する利子補給 など

【その他】（40億円）

- 被災者自らが主体となって実施する復興関連の地域づくり事業への支援
- 震災周年追悼・記念行事開催への支援
- 震災の記録・教訓の伝承や展示 など

復興基金からの市町村交付金を活用した事業例（市町村）

【生活支援における事業例】

- 被災した市民等に必要な生活支援等の情報を発信する災害情報誌の発行、避難住民に対する広報誌の郵送
- 仮設住宅や避難者居住地区周辺の安全確保のための防犯灯の設置
- 避難者受入自治体における交流会の開催
- 仮設住宅での見守り活動等を実施する災害ボランティアセンターの運営費補助
- 被災地域で新規に開業する診療所に対する開業費用の支援
- 地区集会施設の復旧等に対する支援
- 被災した私道の復旧に対する支援

【住宅対策における事業例】

- 一部損壊住宅の修繕、畳・襖・瓦の入替え等災害救助法適用外経費の支援

【教育文化対策における事業例】

- 被災した児童福祉施設等における各種備品の整備
- 通学用のバス乗車券の購入補助
- 被災を受けた学校や仮設住宅を巡回する移動図書館の運営
- 青少年のスポーツの練習場所の確保のための移動費支援

【産業復興・地域振興対策における事業例】

- 仮設店舗で開催される被災商店街の復興イベント等に対する助成
- 被災農業者向けの苗木の購入等の支援

津波被災地域の住民の定着促進（平成24年度補正予算により措置：1,047億円）

津波による被災地域において安定的な生活基盤(住まい)の形成に資する施策を通じて住民の定着を促し、復興まちづくりを推進する観点から、被災団体が、地域の実情に応じて弾力的かつきめ細かに対応することができるよう、被災県の復興基金の積立て等について、震災復興特別交付税の増額により措置。

○ 対象住宅数：40,738棟

津波により被災（全壊）した持ち家住宅のうち防災集団移転促進事業等の対象とならないもの

○ 対象経費：住宅再建支援に要する経費

①土地区画整理事業等の対象外の住宅（32,184棟）分
：282万円（住宅建築に係る利子相当額、宅地の嵩上げ経費（1/2）、移転経費）

②土地区画整理事業等の対象の住宅（8,554棟）分
：163万円（住宅建築に係る利子相当額、移転経費）

※ 被災者への具体的な支援内容については、被災団体が地域の実情に応じて決定

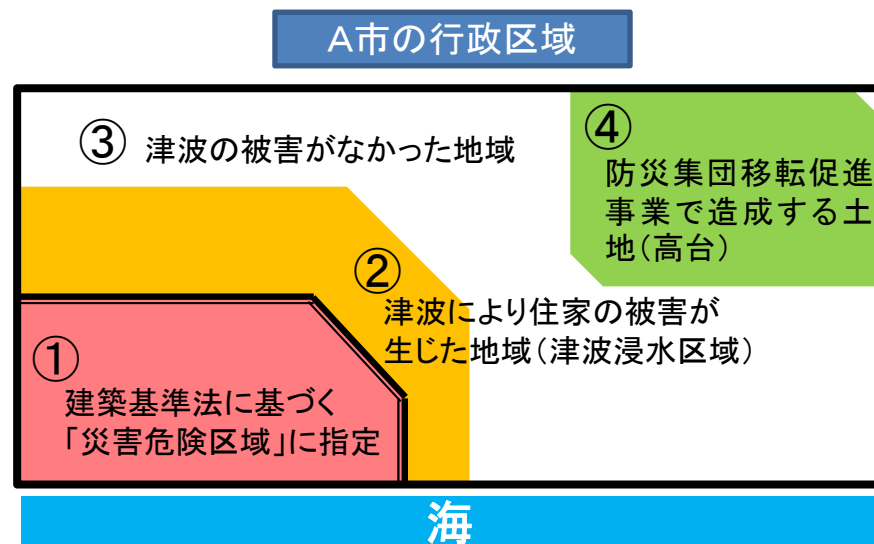
○ 交付額

青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	千葉県	合計
5	215	709	103	5	11	1,047

（単位：億円）

※ 平成24年度3月分の震災復興特別交付税により措置（平成25年3月25日交付）

【再建パターンと支援策】



①→②～④の移転：防災集団移転促進事業等による支援あり（被災土地買上げ、住宅建築・土地購入利子補給、移転経費助成）

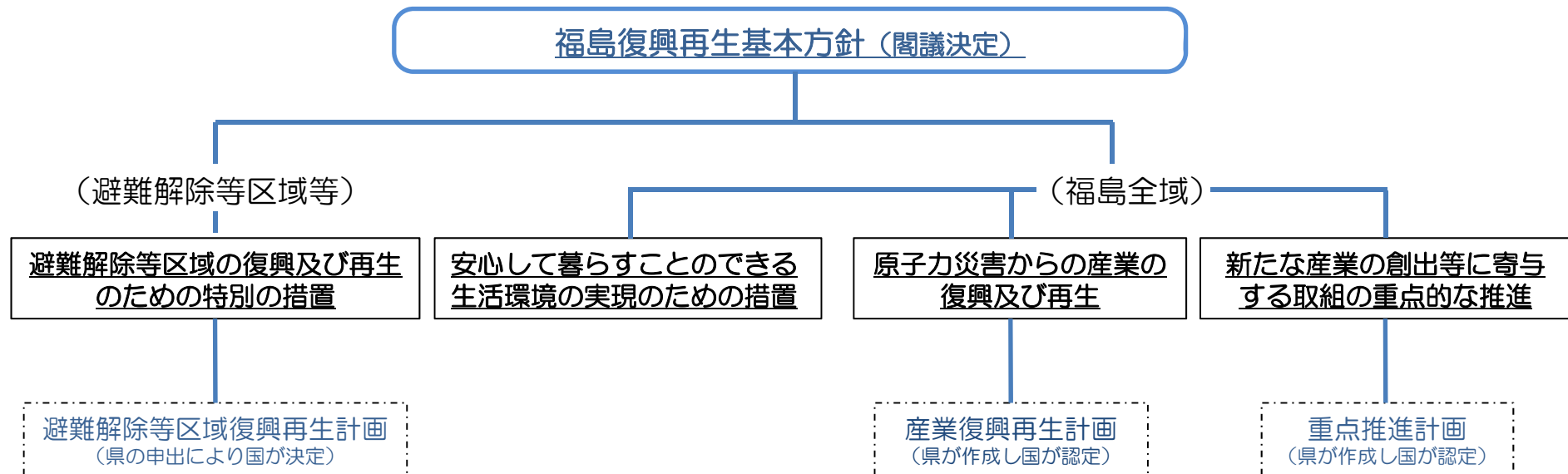
②における現地再建、②→③、④の移転：上記支援措置なし



(平成24年3月31日施行)

目的・基本理念・国の責務

- 原子力災害により深刻かつ多大な被害を受けた福島復興・再生について、その置かれた特殊な諸事情とこれまで原子力政策を推進してきたことに伴う国の社会的な責任を踏まえ推進
- 基本理念として、安心して暮らし子どもを育てる環境の実現、多様な住民の意見の尊重、地域経済の活性化、福島の地域社会の絆の維持及び再生、住民一人一人が災害を乗り越え豊かな人生を送ること、福島の地方公共団体の自主性・自立性の尊重、地域コミュニティの維持、正確な情報の提供など



福島の復興及び再生に関する施策の推進のために必要な措置

避難者・帰還者に対する生活の安定を図るための措置、保健・医療・福祉にわたる総合的な措置、再生可能エネルギーの開発等のための財政上の措置、復興交付金その他財政上の措置の活用、住民の健康を守るための基金に係る財政上の措置 など

原子力災害からの福島復興再生協議会

復興大臣、福島県知事その他の関係者からなる協議会を組織

その他 (見直しの検討)

施行後3年以内に、課税の特例を含め、法律の規定を見直し



(平成24年7月13日閣議決定)

《第1部 原子力災害からの福島の復興及び再生》

第1 原子力災害からの福島の復興及び再生の意義及び目標に関する事項

- 1 意義 ～「福島の再生なくして、日本の再生なし」～
- 2 目標
- 3 基本理念・基本姿勢

《第2部 避難解除等区域の復興及び再生》

第2 避難解除等区域の復興及び再生の推進のために政府が着実に実施すべき施策に関する基本的な事項

- 1 避難解除等区域の復興及び再生の道すじ
- 2 政府が着実に実施すべき施策に関する基本的な事項
- 3 課税の特例
- 4 住居の安定確保
- 5 将来的な住民の帰還を目指す地域の復興及び再生に向けた準備のための取組
- 6 避難解除等区域復興再生計画の策定手続き

《第3部 福島全域の復興及び再生》

第3 安心して暮らすことのできる生活環境の実現のために政府が着実に実施すべき施策に関する基本的な事項

第4 産業の復興及び再生の推進のために政府が着実に実施すべき施策に関する基本的な事項

第5 産業復興再生計画の認定に関する基本的な事項

第6 先導的な施策への取組の重点的な推進のために政府が着実に実施すべき施策に関する基本的な事項

第7 重点推進計画の認定に関する基本的な事項

第8 関連する東日本大震災からの復興の円滑かつ迅速な推進に関する施策との連携に関する基本的な事項

第9 その他福島の復興及び再生に関し必要な事項



福島復興再生特別措置法と各計画等の関係

福島復興再生特別措置法

(平成24年3月31日施行)

福島復興再生基本方針

(平成24年7月13日閣議決定)

即して
作成

【重点推進計画】

- ◎ 県が作成、国が認定
→主に県が行う取組を記載
- ◎ 県全域を対象
- ◎ 新たな産業の創出等
- 1 重点推進事業
 - (1)再生可能エネルギー
関連産業の創出
 - (2)医療関連産業の創出
 - (3)先導的な施策への取組
 - ①環境創造センター
 - ②浜地域農業再生研究センター
 - ③会津大学復興支援センター
- 2 実施を確保するための措置
 - (1)工場用地の無償譲渡
 - (2)企業立地の促進等

【産業復興再生計画】

- ◎ 県が作成、国が認定
→主に県が行う取組を記載
- ◎ 県全域を対象
- ◎ 産業全般の復興・再生
- 1 取組の内容
 - 【区域別】 ①避難解除等区域、
②将来的な住民の帰還を
めざす区域、③県内全域
 - 【産業別】 ①農林水産業、
②中小企業、③観光振興
- 2 産業復興再生事業(規制の特例)
 - ①通訳案内士、②地域団体商標
③新品種育成、④小名浜港埠頭
- 3 復興特区制度(課税の特例)活用
 - ①製造業、②観光産業、③農林漁業

【避難解除等区域復興再生計画】

- ◎ 県が申出、国が策定
→主に国が行う取組を記載
- ◎ 解除区域を主に対象
- ◎ 生活環境等全般の再生
- 第1部 全般的事項
 - ①公共インフラの復旧
 - ②生活環境の復興・再生
 - ③放射線対策の強化
 - ④地域を支える産業の再生
 - ⑤農林水産業の再生
 - ⑥状況に応じた生活の再建
- 第2部 広域的な地域整備
広域的な施設の整備等
- 第3部 市町村ごとの計画

3-8 福島復興に向けた制度④ (福島復興再生特別措置法の一部を改正する法律の概要)

(平成25年4月26日成立)

～福島復興及び再生を加速するための措置の創設・拡充

長期避難者の生活拠点の形成

コミュニティ復活交付金の創設(平成25年度予算)

- ・交付先: 福島県、避難者受入市町村等
- ・対象: 公営住宅の整備を中核とした受入に伴い必要なハード整備これらと一体となって行うソフト事業

公共インフラの復興・再生

国による公共事業の代行及び生活環境整備事業の対象区域の拡充

<p>現行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難解除区域 ・避難指示解除準備区域 	<p>改正後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居住制限区域を追加 ・帰還困難区域を追加 <p>※広域インフラ施設の機能回復等、住民の帰還等に向けて必要な事業が対象</p>
---	------------	--

企業立地の更なる促進

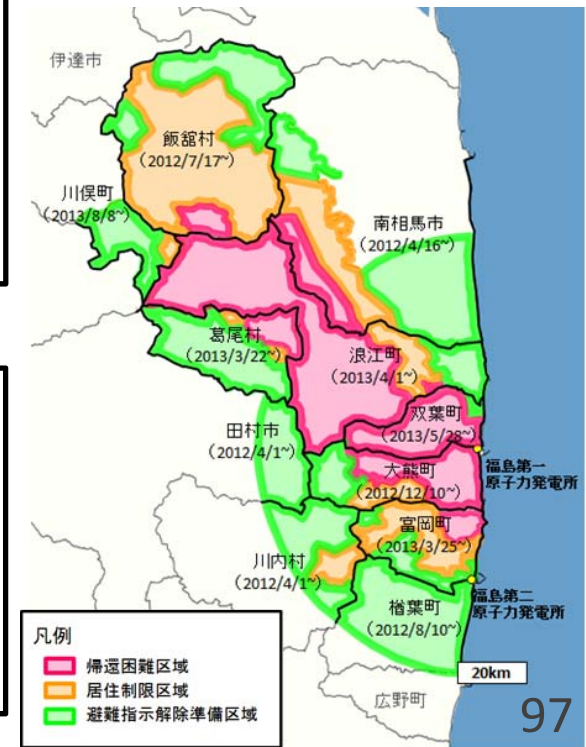
避難解除区域における税制優遇措置の対象拡充

<p>現行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象事業者: 既存事業者 ・対象区域: 避難解除区域 	<p>改正後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業者: 新規立地事業者を追加 ・対象区域: 避難指示解除準備区域 居住制限区域追加
---	------------	--

※事業用設備の特別償却 被災者を雇用した場合の税額控除等

※施行期日: 平成25年5月10日

警戒区域と避難指示区域の概念図
平成25年8月8日時点



避難解除区域に係る税制の特例措置の避難指示解除準備区域等[※]への拡大

背景・必要性

※避難指示解除準備区域及び居住制限区域

これまでは、全ての避難指示が解除された「避難解除区域」のみに特例措置を適用。

しかし、一旦、他の地域に移り住むと、帰還しない可能性が高まるため、早期の帰還を促進することが重要。また、避難指示解除準備区域(※1)では66事業所(平成25年1月7日現在)、居住制限区域(※2)では18事業所(同)が事業を再開。そのため、これらの区域でも事業再開を支援することが必要。

(※1)避難指示解除準備区域・・・年間積算線量が20ミリシーベルト以下で、同区域内では製造業等の事業再開等も柔軟に認められている。

(※2)居住制限区域・・・年間積算線量が20ミリシーベルトを超える恐れがあるため、原則、事業再開が認められないが、市町村の許可等を得て、例外的に事業再開が認められる。

特例措置の対象区域を

**避難指示解除準備区域及び居住制限区域
に拡大**

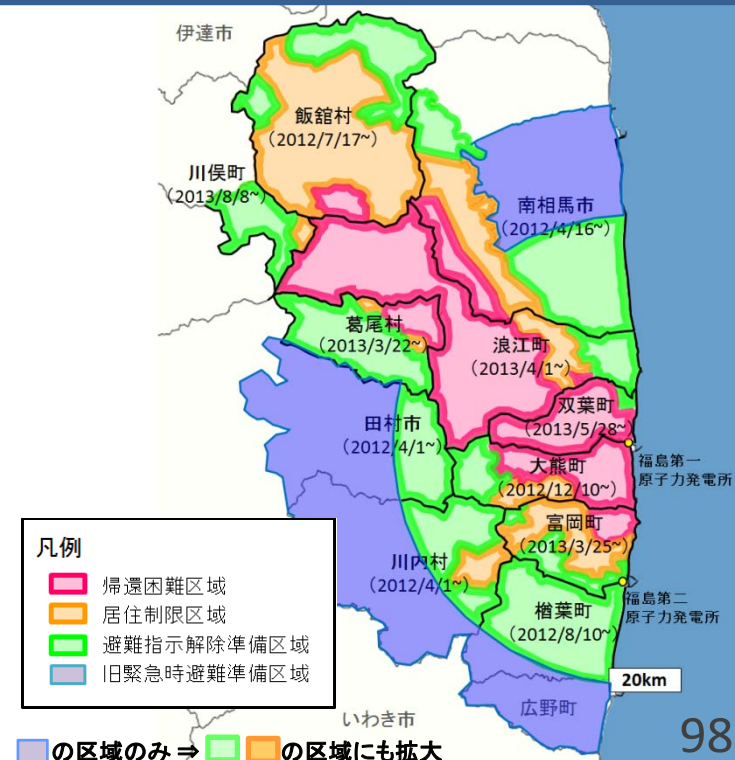
特例措置の内容

○既存事業者^①に税制の特例措置を適用

- ①設備投資に対する特別償却制度又は税額控除
 - ・特別償却:機械等100%、建物等25%
 - ・税額控除:機械等15%、建物等8%
- ②被災被用者に対する給与等支給額の20%を税額控除

○課税免除又は不均一課税をする場合の減収補填措置。

平成28年3月31日までの間に、設備投資(施設又は設備の新設又は増設)に対して地方公共団体が事業税、不動産取得税又は固定資産税の課税免除又は不均一課税を行った場合にその減収額を特別交付税の算定の基礎に算入





（平成24年6月27日施行）

■背景

- 東京電力原子力事故による放射性物質が広く拡散
- 放射線が人の健康に及ぼす危険について科学的に十分に解明されていない
- 被災者の健康上の不安・生活上の負担
- 特に子どもに配慮した支援の必要性



被災者の不安の解消・安定した生活の実現には、包括的な支援法が必要

■被災者生活支援等施策の推進

◆基本理念

- 災害の状況、災害からの復興等に関する正確な情報の提供
- 支援対象地域での居住・他地域への移動・帰還を自らの意思で行えるよう、いずれを選択しても適切に支援
- 放射線による健康上の不安が早期に解消されるよう最大限の努力
- 被災者に対するいわれなき差別が生ずることのないよう適切な配慮
- 子ども・妊婦に対する特別の配慮
- 被災者の支援の必要性が継続する間の確実な実施



上記にのっとり、
政府が策定



地域住民、避難している
者等の意見を反映

◆基本方針

- 被災者生活支援等施策の推進に関する基本的方向
- 支援対象地域(*)に関する事項 (*放射線量が、20msv未満だが「一定の基準」以上の地域
- 被災者生活支援等施策に関する基本的事項 等

◆主な支援施策

対象地域内で生活する者

- 就学援助
- 食の安全・安心確保
- 自然体験活動

避難先で生活する者

- 住宅の確保
- 学習支援
- 就業支援

対象地域に帰還する者

- 住宅の確保
- 就業支援

その他

- 健康診断

3-8 福島復興に向けた制度⑦

(被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針)



(平成25年10月11日閣議決定、国会報告)

ポイント

支援の対象地域については、法第8条に基づく「支援対象地域」に加え、支援対象地域より広い地域で支援を実施するため、施策ごとの趣旨目的に応じて「準支援対象地域」を設定し、きめ細かな被災者支援を実施。

1 施策推進の基本的方向性

放射線による健康不安を感じている被災者や、それに伴い生活上の負担が生じている被災者に対し、基本方針に基づく支援により、被災者が安心して生活できるようにする。

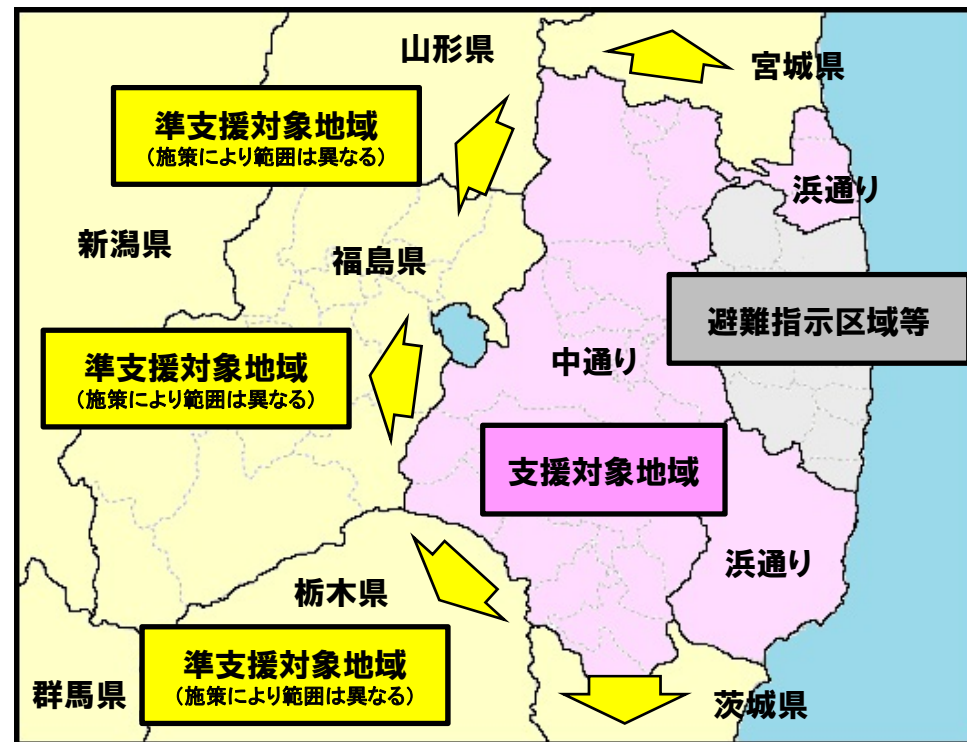
2 支援の対象地域

(1) 支援対象地域

原発事故発生後、相当な線量が広がっていた福島県中通り・浜通り（避難指示区域等を除く）を法第8条に基づく「支援対象地域」とする。

(2) 準支援対象地域

支援対象地域以外の地域に、支援対象地域より広い地域で支援を実施するため、施策ごとの趣旨目的に応じて「準支援対象地域」を定める。



※「準支援対象地域」は、施策ごとに設定

3 施策の基本的事項

被災者支援施策パッケージ（平成25年3月15日発表）に盛り込んだ施策のほか、福島近隣県を含めた外部被ばく状況の把握、自然体験活動、民間団体を活用した被災者支援といった施策について拡充・検討予定。